

山
ぎ
ら

第51号 令和2年11月
関東永上郷友会



三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向990-1

コロナ禍に巻き込まれた今年の日本

対策に余念の無い毎日と存じます

衷心より御見舞申し上げます

令和新時代を迎えて「安全・安心・朗らかに」を旗印にご期待に応じて参ります。



本店 新社屋(敷地面積4,000坪、建物面積2,000坪) 平成23年10月1日完成



関東発一関西行の風景
出発直前の大型トラック部隊

毎日200台の車輛群が東海道を
中心に走っております。

〔主要取引先〕 順不同

三井化学(株) 味の素(株) ダイキン工業(株) アサヒビール(株) 三菱商事(株)
キリンビール(株) 沖電気工業(株) 古河電気(株) ハウス食品(株) 帝人(株)
新神戸電機(株) (株)東芝 キューピー(株) (株)ブリヂストン 江崎グリコ(株)

三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本 勲(氷上町出身)

本店 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (728) 9380

E-mail : sankyounyu_saitama@h6.dion.ne.jp

本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (729) 0466

大阪支店 大阪府大東市新田中町3-3 TEL. 072 (806) 2821

物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪

山 ぎ る

第51号



山ざる 第51号 目次

〈表紙〉 笹倉鉄平画「夕佳亭」(せつかてい) 鹿苑寺・金閣) / 〈扉〉 写真 徳田八郎衛

ご挨拶……岸本 勲 5

令和元年度「ふるさとの会」開催……6

丸川珠代先生講演会「少子高齢化と社会保障」……8

令和元年度「ふるさとの会」出席者……13 / 会計報告書……14

懇親会スナップ……15 / 祝寿の方々ご紹介……23

《ふるさと随想》

心やさしきふるさと丹波……影山一恵 29

昭和21年〜26年の丹波の生活……大塚秀式 31

林先生の涙……三浦 宏 34

手紙―「山ざる」を読んで……勢川武彦 38

《インタビューコーナー》

田邊宏太さん 宇宙船「こうのとり」の開発、一筋に……編集部 41

《近況・エッセイ》

親水公園を歩いて……井上 巖 46

そろばんに始まり現在の私……坂口充子 50

新型コロナと大学とリモート授業……井徳正吾 53

今思えば……田村公平 56

コロナ禍の日々で、思い巡らしたこと……上 高子 59

《私の職場》	丹波の民家が原風景……上野弥智代	63
《画業30周年記念》	笹倉鉄平展「心やすらぐ光の情景」	79
《丹波から》	丹波風土への思い……柳川拓三	90
《丹波ブランド紹介》	その11丹波の特産「トウキ」大学連携で新しい風……古西純	98
《丹波人物伝》	芦田均翁と憲法第9条に込められた平和希求の信念……足立敏昭	102
《丹波通信》	日本のバレーボールの礎を築いた丹波の山猿	
	日商岩井初代社長 西川政一……荻野祐一	106
《丹波の歴史》	今も残る古代の地名……村上泰樹	111
《山ざる研究》	水分れフィールドミュージアムへのエール……徳田八郎衛	115

《山ざる文芸》俳壇・詩座・歌壇……66

《MYギャラリー》阿江麗子／徳田八郎衛／島津和子／岡吉明……73

《簡単レシビ》丸川宥次郎／大島信子……77

《丹波を撮る》……徳田八郎衛 83

ふるさとトピックス (丹波新聞) から 井徳正吾……89 BOOKS……119

同窓会だより……122 会員だより……123

寄付者芳名……128 《協賛広告》……128 編集後記……142

丹波路にうち越えくれば野も山も
照る日ながらもはだれ雪降る

印

「丹波路にうち越えくれば野も山も

照る日ながらもはだれ雪降る」

上田秋成

書は藤原ひさ子さん

ご挨拶

会長 岸本 勲



コロナ禍に巻き込まれた今年の日本。残念ながら秋の総会を断念せざるを得なかった事をお詫び申し上げます。

中止を決断した6月下旬から7月中旬のコロナ感染の状況は第2波が押し寄せていた最中で

ありました。

明治29年創立から数えて124年目。今年の中止は戦時中を除いて始めての出来事です。

令和新時代を迎えた今年度最大の国民の願いは、日本の社会・文化・経済の大飛躍という明るくてドリームを感じさせる堅固なもので有りました。東京オリンピックの開催準備も略出来上がり、政府も過去最大の104兆円という大型予算案を国会で成立させていきました。

それが新年早々には米国によるイランのソレイマニ司令官を暗殺したことで中東を戦争の瀬戸際に追い込んでしまった。中国の習近平国家主席を「偉大な友」と呼ぶ一方で、何千億ドル規模もの輸入品に25%の関税を課してみせたりで国際間のギクシャク振りが目立ち始めていました。

そこへ新型コロナウイルスの発生です。

日本政府はすべからく大型クルーズ船を封鎖してみせました。

国民の意見も聞かず、一部の政府幹部の大手柄でもあった様な振る舞いを国民は見てしまいました。残念なことです。結果は世界中から非難の嵐を浴びてしまい散々な初動となりました。

令和新時代を迎えるの目標は、日本の社会・経済そして生活の向上にあります。

強い日本を造り国民を豊かにすることであります。今世紀最大の悲劇となった新型コロナウイルスの傷跡は深いと思います。

大切な家族を失った人、廃業した経営者、家賃の支払いや食費に困り果てた人、目標としたスポーツ大会をなくした若者たち、苦しむ人達の事を思えば果てしない思いです。

人の接触を8割減らし感染を抑え込む！！そんな事が本来に出来るのかと訝つたのを思い出します。

案外私達は凄いかも知れません。

心を折らず再生へと舵を切ろうではありませんか。

「日々に新たに、また日に新たな日なり」

明治29年に発足した「関東氷上郷友会」は、明治、大正、昭和、平成、令和と引き継がれ、124年の歴史を刻んで参りました。その軌跡を大切にしながら次の時代を見据えて今、何を成すべきか、皆様の英知を集めて実行して参りたいと存じます。

来秋の総会は本年分を含めて「満を持して実行」して参ります。来秋、令和3年11月21日(日) 学生会館での125周年記念総会には、大勢の皆様のお来場を心よりお待ちしております。



令和元年度「ふるさとの会」開催

令和元年度の「ふるさとの会」は11月24日（土）11時より東京都千代田区の学士会館で開催され、藤田純常任理事の総合同会進行で行われました。今年には会発足123年、「山ざる」発行50号と記念の年に当たり盛りだくさんのイベントが企画され、例年以上の盛大な会になりました。

総会に先立つセミナーは、丹波市氷上町石生で生を受けられ丹波ゆかりの参議院議員丸川珠代先生に高齢化が進む今直面している保険診療制度やゲノム解析による未来の医療などを分かりやすく熱く語って頂きました。（8頁参照）

総会では岸本勲会長の挨拶と報告、引き続き、谷口副会長（会計担当）の会計報告、監査報告とすべて拍手で了承頂きました。

その後、満80才を迎えられた郷友の方にお祝いを申し上げる「祝寿会」に移り、ご案内を差し上げた皆さんのうち参加頂いた足立和子さん・仲一聰さん・西川宣孝さんに、岸本会長より祝辞と記念の似顔絵を贈りました。いつもながら年齢を感じさせない容姿に感心するばかりでした。

(なお今年も似顔絵の制作は、ふるさとひょうご「道草」句会の宗匠住田道人氏にお願いました。)

お楽しみのお懇親会も藤田純常理事の名司会により開会、柏陵同窓会会長の竹内牧人さんにご祝辞と丹波の近況報告を頂き、織田家19代当主織田信孝さんに乾杯の御発声を頂き宴会がスタート、今回特別イベントのマジシャンBAZZIさんの普段なかなか直接見ることでできないイリュージョンやどうにも信じられないマジックの数々を楽しく和やかな雰囲気の中演じて頂き賑やかな会となりました。



祝寿の花束を手に。左2人目から足立和子さん・西川宣孝・仲一聡さん。

昨年好評だったパームアイランダーズによるハワイアン音楽の演奏、石原ひな子さんのフラダンスもありました。今年も関西からのご参加もあり、より一層会を盛り上げて頂きました。会の中程では、

兵庫県事務所、神戸新聞、丹波新聞社様よりそれぞれ近況とご祝辞を頂きました。

岡田昌子副会長「山ざる」編集委員長より今年の「山ざる」の発行に付き寄稿のお礼と次号への投稿依頼、併せて編集委員の徳田八郎衛さんより「丹波の古い写真」の提供の呼びかけの挨拶も熱く語って頂きました。いつもながらあつという間に予定時間が終わってしまふという楽しいひとときを過ごし、恒例のお楽しみ抽選会は参加者全員にチャンスがあり、空くじ無しで「丹波やまいも」、「丹波黒豆」、「丹波産古代米赤米」、柳川さんよりご提供いただいた「丹波風土(やながわ)のお菓子」などがそれぞれ全員に渡るようされ、全員何かのお土産を頂いて帰ることが出来ました。今年も西山酒造様より銘酒の差し入れを頂き、皆さん懐かしい味に酔いました。総会の締めくくりは関西より参加いただいた吉見弘文さんの指揮で「故郷」の大合唱になり大いに盛り上がりを見せました。和やかな会も来年又元気に会えることをお約束し閉会となりました。

(岡 吉明)

参議院議員

丸川珠代先生 講演会 「少子高齢化と社会保障」



プロフィール 1971年 水上町石生越川病院にて誕生 1993年 東京大学経済学部卒業 1993年 株式会社テレビ朝日入社 2007年 参議院議員（東京都・自民）初当選 2009年 党女性局長 2012年 厚生労働大臣政務官 2013年 党厚生労働部会長 2014年 参議院厚生労働委員長 2015年 環境大臣 内閣府特命担当大臣（原子力防災） 2016年 東京オリンピック・パラリンピック競技担当大臣 2019年 参議院議員当選（当選3回）

なぜアナウンサーから政治家に？

私は丹波市、石生の越川病院で生まれました。当時、両親が柏原病院で医師として働いていたのです。丹波には格別なご縁と親しみを感じております。以前はテレビ朝日のアナウンサーとしてニュースや「たけしのTVタックル」などに出演しておりました。テレビ局は新聞より後発メディアであったこともあり、報道機

関としての矜持を持って日本の社会問題を熱く議論していました。しかし私が就職した平成5年（1993）頃、バブルが崩壊し経済が悪化するとともに視聴率を追い求めざるを得ないようになりました。そんな中で、私は自分の本当にやりたいことは何か、と真剣に考えるようになり、行き着いたのが社会保障でした。その契機になったのは母の年金問題です。母は医師として働いて年金を掛けておりましたが、60歳になった時、年金の1階部分（基礎年金）と2階部分（厚生年金）のどちらも受給資格がなく、私的年金として月に7万円がもらえるだけでした。当時年金の受給資格は勤続25年でしたが、女性は働いていても結婚して家庭に入ることが多く、退職時に年金保険料を返還する制度があったため、受給資格を持たない人が生じる結果となったのです。「クリスマスケーキ」という言葉をご存知でしょうか？24歳ではお嫁の貰い手はあるけれど25歳ではパタッとなくなると言われていたのです。仕事に打ち込んでいる女性は大体結婚していないか子供がいないか、今というワークライフバランスが叶わないまま仕事を続けていました。私もそういう覚悟で

働き始め、母の老後を支えなくてはと考えていました。その頃は政治部や経済部での取材を通じて安倍総理と出会う機会があり政治の世界に飛び込むことになりました。

私の幼い時はとてもやんちゃだったと聞いていますが、私の妹も17歳でアメリカへ渡り、大学に進みエンジニアになりそのままアメリカで働いております。女二人の姉妹なのになぜ二人ともこんなに冒険好きなのかと思いますが、それは父のDNAのせいだと思います（会場笑）。

日本の社会保障

私たちは保険証を持って行きますと日本中どこへ行っても、どんな病気でも同じ割合の自己負担で医療を受けることができます。高額療養費制度という制度もあります。その良さを強く感じたのはテレビ局時代にアメリカに住んだ時でした。ある雨の日に交通事故に合い、びしょ濡れで担架に縛りつけられた状態で病院に運ばれ、すぐに言われたのは、「保険証を見せてください」でした。看護師は動けない私の代わりにバツ

グの中をかき回し保険証を持ってどこかにいなくなり30分ほど帰ってきました。日本だと患者の容態を見るのが先ですが私的な保険に入っているアメリカでは、まずどんな保険か保険会社に確認するのです。幸い大きなケガではありませんでしたが、アメリカで働いている妹はスポーツで負傷した時など、「今の保険では払えないのでお姉ちゃんお願い」と頼んできました。日本の高齢者数は2042年には3935万人でピークになり、一方で1年間に生まれる子供の数は2045年には70万人になると予測されています。現行の医療制度では75歳を超えた方の医療費の自己負担率は1割です。この制度では自己負担を除く医療費の半分を国の税金でまかない、1割を自らの保険料で払い、その残りを若い人が払います。つまり75歳以上の医療費の4割を若い人が負担しているのです。年金も2割は国が払い残りは若い人が払っています。皆様が過去に支払ったお金はその当時の高齢者に支払われ、また将来のために運用されております。現役世代が高齢世代を支えるという仕組みが続く限り、高齢化に伴う社会保障の問題は解決しません。その仕組みを少し変えよ

うとするのが「税と社会保障の一体改革」であり「働き方改革」なのです。

高齢者の医療費負担と健康寿命

そして今議論になっているのは御高齢者の医療費の自己負担です。75歳を超えてからもぜひ2割負担をしていただきたい。もちろん1割負担の方も残していきたい。年金も今のまま働き手が減ると私より若い世代が将来もらえる基礎年金は5万円程度になってしまいます。

平成の時代は地方で急激に高齢化が進みました。全国トップの秋田県では37・1%、平成の間に65歳以上人口が約18万人増加し現在は減少に転じました。一方、首都圏では高度成長期に団塊の世代が大規模に流入し、65歳以上人口は2015年からの30年間で約275万人増加、高齢化の本番を迎えます。そのために国は介護や医療の予算をどうやって用意すればいいのか。これは私が今、自由民主党の社会保障制度調査会、医療委員会の委員長代理として、また介護委員会の事務局長という立場で向き合っている大きな課題です。

現在、都市部では介護現場で働く人が足りず、地方では入所する高齢者が少ないといったアンバランスが生じています。さらに、一人暮らしの高齢者が増えていきます。女性は男性より約10年近く長生きですから、2040年頃東京では高齢世帯の46%は一人暮らしで、80代の元気な女性が地域を支えます。私自身、冒險好きなDNAを受け継いだひとり息子（小1）と一緒に住んでくれないのではと心配しております。健康寿命を延ばすことが個人の幸せだけでなく、国家の財政や若い人の未来に関わる重要な問題になってきます。昔に比べ日本の高齢者は体力、知力ともに若返りました。日本老齡医学会が高齢者の定義を65歳から75歳にしてはどうかと提言しています。皆さまが健康な生活を送る努力をし、医師たちが病気の早期発見に取り組み、保健師たちが生活習慣の見直しを促してきた賜物であります。私が母の年金問題に直面した25年前、私の両親が75歳になっても元気で医療現場にいるとは想像もしませんでした。とくにご隠居さんだと思っていました。とんでもない。両親はまだまだ働き続けるようです。

これからの医療

ゲノムが開く未来は医療の未来を全く変えてしまうかもしれません。私たちの細胞の核の中には染色体がありその中には30億個の塩基からなるDNAが入っています。この



中の約250

00か所が遺

伝子と言われ

私たちの体や

性質を作りま

す。そう遠く

ない将来、ゲ

ノムを血液検

査の結果のよ

うに知ること

ができるよう

になるでしょ

う。欧米では

ゲノム編集に

よる予防や治療の臨床研究が始まっています。我が国はその法的な是非を問う議論をようやく始めたところでは。私はゲノム情報に基づく一人一人に合った医療、個別化医療を日本の医療の基盤にできないかと考えています。現在、日本はゲノム解析を外国企業に頼らなければならず情報の流出ひいては国の安全保障も懸念される状態です。

世界の大きな変化のうねりを恐れず、変化を受け入れ前向きに生きていくなら、私たちの高齢化社会は決して恐れるものではないでしょう。皆様にもご理解をいただきご協力をいただければ幸いです。

今日このような機会を設けていただいた郷友会の岸本会長はじめ役員の皆様方に心から御礼申し上げ、私の講演を終了させていただきたいと思えます。ありがとうございました。

* * *

アナウンサーとして活躍していた姪が参議院議員になって13年が経ちました。華麗な転身の裏には人生をどう生きるかと考え悩む時期があったのですね。家庭を持ち子育てや親の介護もしながらの議員活動は並大

抵のことでないでしょう。講演では国政に対する情熱と家族に対する愛情をさわやかな笑顔と共に熱く語ってくれました。講演後には、まだ数か所行かなくてはならない所があると迎えに来た秘書さんと飛び出して行きました。一方、会場では写真撮影に応じたり似顔絵を描いてもらったり終始笑顔で会員の皆様と歓談し、急遽駆けつけた私や次兄の子供達、すなわち従兄弟たちとも話が盛り上がっていました。この講演実現に橋渡しをしてくれたすぐ上の兄（彼女の父親で柏原高校14回卒業生）も会場で温かく聞き入っていました。女性議員が少ないと言われる日本の国会に新しい風をもたらししてほしい。叔母としては若い女性の国会議員に大いに期待したいと思います。

（文責 石橋順子）



撮影・井上崧

◎令和元年度「ふるさとの会」出席者

(順不同・敬称略)

来賓

竹内牧人 柏陵同窓会 会長

竹村英樹 兵庫県東京事務所 所長

田中直美 東京兵庫県人会 幹事

荻野祐一 丹波新聞社 社長

小野秀明 神戸新聞社 東京支社長

織田信孝 織田家19代当主

講師

丸川珠代 参議院議員

演奏とダンス

パーム・アイランダンスと石原ひな子

祝寿 昭和14年生まれ(一九四〇年)

足立和子 仲一聰 西川宣孝

会員

青垣町 足立悦雄 足立敏昭 田村公平

西川宣孝 安原三智子

市島町 荒木司郎 荒木輝雄 石橋亮 石橋順子

石川陽基 井出恭子 白井田鶴子 高見秀史

藤田千治 藤田純 藤田徹 丸川征四郎

丸川宥次郎 有川寛子 石川暢子 山本喜則

吉見弘文 余田幸夫

柏原町 足立和子 稲岡俊一 岡吉明 岡田昌子

黒崎宏 谷垣邦夫 徳田八郎衛 仁藤欽嗣

細谷昌 吉田素子

山南町 植木十和子 形田恒夫 久保良雄

小西允子 勢川武彦 仲一聰 中居篤子 野垣有

原谷洋美 廣内卓生 藤井栄蔵 藤原ひさ子

藤本和幸 村上督 渡邊貴美子 渡邊将吾

渡邊也寸美

氷上町 足立明子 足立謙悟 足立勝 足立義雄

井上巖 上高子 上田道代 上野忠明 大賀勝恵

岸本勲 岸本敏子 岸本卓也 岸本圭司

小林和子 酒井典子 坂上勝朗 谷口浩章

徳舛雅孝 本城英明 安井孝之 山岸幸子

春日町 木呂子恵美子 杉本秀和 原利充

柳川拓三

会 計 報 告 書

(令和1年7月1日～令和2年6月30日)

関東氷上郷友会
 会計担当副会長・谷口 浩章
 理事・原谷 洋美

(単位：円)

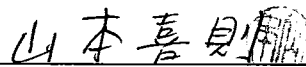

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,689,212	郵便貯金 889,212	出 版 費	975,647	『山ざる』50号
		定額貯金 800,000	通信・印刷費	219,991	総会・役員会案内等
		振替貯金	総 会 費	731,392	総会関係支払
年 会 費	368,000	延184名	会 議 費	147,844	役員会等
総 会 費	670,000	82名	支 払 手 数 料	0	振替手数料
会 議 費	147,000	42名	消 耗 ・ 備 品 費	109,056	事務品・広告費・慶弔費
寄 付 金	202,500	延55名	繰 越 金	1,457,985	郵便貯金 657,985
広 告 料	540,000	延43名			定額貯金 800,000
冊 子 代	25,200				振替貯金
そ の 他	3	利子			
合 計	3,641,915		合 計	3,641,915	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和2年 7月20日

会計監査

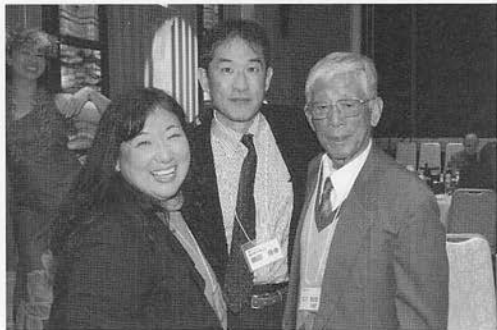


懇親会 スナック

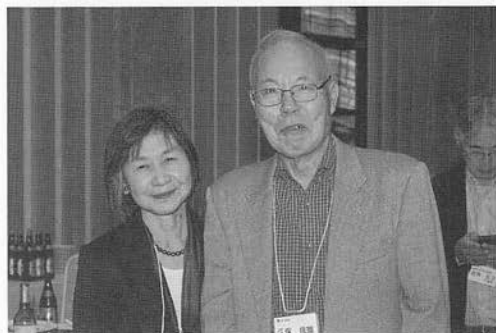
撮影：岡 吉明





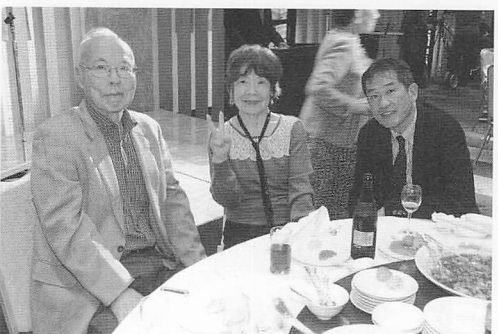












祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員に祝寿のお祝いをしておりますが、今年その記念の年に当たられる39名の方に、以下の項目でアンケートを依頼しました。そのうち、10名の方から回答頂きましたのでご紹介します。(誕生日順)

- ① 生年月日
- ② ご出身地
- ③ 上京の年月日
- ④ 上京の動機
- ⑤ これまでに最も印象に残ることは
- ⑥ 祝寿を迎えられて一言

対象年、昭和15年4月〜同16年3月。庚辰 皇紀2600年で新年を迎えたが、国会での反戦演説が受け入れられず、戦争は拡大へ。ヒトラー著の「わが闘争」価格78銭は、売れて10万部を突破する。日・独・伊の三国同盟が締結し、米英を敵に回す。

予定されていた東京オリンピック開催は中止となる。「ぜいたくは敵だ」「バスに乗り遅れるな」「身にはボロ着て心に錦」が流行語に。隣組設置通達があり、ラジオの国民歌謡♪とんとんとんからりと隣組♪で始まる「隣組」がヒット。霧島昇が歌った「誰か故郷を思わざる」は半年間で56万枚を売り上げる。映画は「支那の夜」「小島の春」「燃ゆる大空」などが上映される。昭和15年の物価 キャラメル(20粒) 10銭、国鉄特急料金4円40銭(400kmまで)、甲丸指輪(18金、4g) 18円、ゴル

フ料金7円(半日)、羽子板(大人用) 4円25銭、わさび漬(80匁) 25銭、ウスターソース1瓶(360ml) 43銭、地下足袋(1足) 1円65銭、クレヨン(12色入り) 31銭、駐車場料金35円(月ぎめ・丸の内東京)、1箱40本入りローソク1円50銭、やきとり1本10銭、練り歯磨き(36g入り) 18銭、おみくじ1枚10銭(編集担当 本城英明)

西ヶ谷厚子様

- ① 昭和15年4月19日
- ② 丹波市山南町阿草
- ③ 昭和47年2月
- ④ 結婚
- ⑤ 子育てが終わり主人の定年を切っ掛けにパッケージツアー

祝寿の方々ご紹介

を利用して旅行した事。ロサンゼルス・ラスベガス・グランドキャニオン・シンガポール・マレーシア。日本もほとんど回りましたが、外国の旅が心に残っています。

⑥気持は若いつもりですが身体の方が八十才を迎えたと実感しています。

鈴木和美様

①1940年5月19日

②和歌山県

③1995年12月頃（この時は横浜の社宅）退職後新潟へ

④夫の転勤

⑤昭和20年7月9日の夜、私達家族は、和歌山市中心部で米軍の空襲によって家を焼かれ

た。その上父が持っていた現金を根こそぎスリにすられて一文無しの着のみ着のままになった。そこで母の妹の嫁ぎ先の氷上を頼って逃げて来たのだ。他に行き先はなかった。

その年の秋、稲刈りの終わった田んぼの中で、私は部落中の男の子（小学生以下）に交代で殴られたり蹴られたりした。「出て行け」「帰れ」と言われても出て行く所も帰る家もなかった。「いつ迄撲られるんだろう?」「ここの子（丹波の子）達はあの空襲を体験していないんだ。街は全て焼けて、お城迄落ちてしまつて（祖母はお城が落ちたと泣いていた。）今迄みたこともなかった遠い山並みがうつすらかすんで見えた翌朝のあの

光景を知らないから、こんなことを言うんだ」とぼんやりと考えながら撲られ続けた。

家族にはこのことは話さなかつた。皆忙しくて気がつかなかつたようだった。しかし、私には、異常な行動が増えたように祖母から毎日灸をされることになった。近所の子がそれを見て「何か悪い事したからお灸をすえられてるの?」と聞いたら、祖母が「カンの虫を退治してるんや」と答えた。カンの虫というのが居るのかと初めて知つた。今でも時々体がピクツと勝手に動いたり、することがある。終戦の年から十数年後のこと、撲つた子の中の1人から求婚された。彼はあの時のことはすっかり忘れてるようだつ

祝寿の方々ご紹介

た。私は、あの日あの時の彼の顔つきも撲ってきた拳の強さも私の心と体の痛みもすっかり記憶しているのだ。少しずつポーツとかすんで来ていた記憶が再びはつきり思い出されて、あの時はまだ幼かったから、何が起こったのか良くわからなかったのに記憶を呼びさまされて、悔しさとか怒りとか、口で言えない程の強い感情が湧いてきた。

「氷上って何とこの土地にふさわしい地名だろう。」とも思った。

⑥ 今迄を振り返ってみると私も申し訳ない事をした人もいる。又自分には記憶がなくても人に迷惑をかけたり、傷つけたりしてうらまれていることもあるかも知れない。50才

頃だったかこれらのことを母だけに話をした。母は「我等に罪を犯す者を我等が許す如く、我等の罪をも許し給え(主の祈り)」と違うか?」と言った。氷上に来なかつたら、生きてはいなかつたかも知れないのだから。感謝

※この文章を書かせて下さった編集部の皆様には感謝します。



撮影・岡田昌子

白瀧勝康様

① 昭和15年8月13日

② 成松東町

③ 昭和34年4月

④ 就職のため

⑥ 結婚50周年になります。夫婦共に元気に余生を楽しんでいます。

※何時もお世話になっていきます。毎回「山ざる」送って下さっております。ありがとうございます。

堂本修様

① 1940年(昭和15年)8月18日

② 氷上町三原

祝寿の方々ご紹介

- ③ 1959年（昭和34年）3月就職
- ④ 故郷の秋祭り
- ⑥ 家族や友人の皆に支えられての80才。感謝の気持ちで一杯です。

※毎号「山ざる」を楽しく拝読させていただいております。

「山ざる」の刊行がいつまでも続く事を祈っております。

徳外紘逸様

- ① 昭和15年10月31日
- ② 氷上町市辺
- ③ 昭和34年4月3日
- ④ 就職 市田（株）東京本店に勤務の為
- ⑤ 現在の妻と結婚する前に市辺の実家に帰った時

- ⑥ 姉2人、弟2人が柏原高校を卒業し、現在も5人とも健在です。まだ勤めています。（土・日・休日以外は毎日・通勤（電車で）しています。

赤井紀男様

- ① 昭和15年11月29日
- ② 氷上町稲畑
- ③ 昭和57年3月……：上京とは言えない場所ですが。
- ④ 会社の部門移転による転勤
- ⑤ 関東と関西の大きな壁が箱根山にあることは聞いていたが、東京からさらに約2時間先の利根川を越えたところへの転勤は、大変な抵抗があり、説得に苦労したが、転勤してくれた人は今、満足してくれて

- いることが一番うれしい。住めば都とはこのこと。
- ⑥ 体力的に衰えを感じる傘寿だが、人生100年、まだ20年もある。健康寿命で人生を全うすべく、努力していく。

小玉うめの様

- ① 1940年11月24日
 - ② 丹波市春日町多利
 - ③ 昭和42年春
 - ④ 勤めていた銀行を退職して結婚のため東京に来ました。
 - ⑤ 日本百名山、一各々の山の頂上にたどりついた時のすがすがしさはわすれられないですネ！！
- 日本300名山も北海道の日高山脈を残してあとわずか

祝寿の方々ご紹介



北アルプス奥穂頂上

す。自然災害で山に入れないのとヒゲマ出沒でこわい事も
あり様子見です。
⑥ 一つのまにか気がついたら80才になっていました。80才迄大きな病気もしないで生きていられる事がうれしいです。



奥穂から見た北アルプス槍ヶ岳方面



秋の涸沢（カラサワ）

前田武彦様

- ① 昭和15年12月19日
- ② 春日町
- ③ 昭和39年4月
- ④ 就職

足立東一郎様

- ① 昭和16年1月2日
- ② 青垣町
- ③ 昭和34年2月
- ④ 受験のため
- ⑤ (1) 阪神淡路大震災 (2) 東日本大震災 (3) 100年に1度といわれ、今も拡大中の感染症・新型コロナウイルスス禍です。策を誤れば、社会も経済もボロボロになってし

祝寿の方々ご紹介

まう恐れが心配です。

⑥大きな病気にも事故にも遭わずこられたのは、ただ運が良かったからと思っています。

若宮八重子様

残り少ない余生を静かに送っております。皆々様にも過去いろいろおありだった事でしょう。世界の平和と御家族の御健康を心より御祈り申し上げます。

吉見圭三様

①昭和16年2月19日

②市島町酒梨

③昭和35年3月

④大学入学の為

⑤天安門事件の直後に中国旅行に行き、杭州から上海への帰路、列車からみた風景です。

水田を牛で耕す農夫の姿、鋤すき、鍬くわなどの農具、大八車のような運搬車、列車が上海に近づくと、日本の閘屋さんとは反対に、車掌さんがテーブルの上のゴミを一斉に窓の外に投げ出したのです。戦後の丹波の風景を良くも悪くも蘇らせてくれました。

⑥あつという間に年をとりました。もう少しだけ本屋通いしたい。



撮影・岡田昌子

〈丹波布〉

氷上郡青垣町。かつてこの地方は養蚕がさかんで、生糸を染めず生なまりのまま横たて（緯）に入れ、草木染をした木綿で布を織っていた。今も古来のままの素朴な技法が残され無形文化財に指定されている。青垣町の高座神社は、蚕や繭の守護神で、その境内に立つこの地出身の細見綾子「で、虫」の句碑は、周辺にあった桑畑の風景を詠んだものである。

一筋の糸引き出すや繭踊る

沢木欣一

で、虫が桑で吹かるる秋の風

細見綾子

早稲の香の夜ごと緯白織りふやし

宮岡計次

冬来れば母の手織りの紺深し

細見綾子

（地名俳句歳時記 近畿編

中央公論社 昭和六十一年刊）



撮影：徳田八郎衛

心やさしきふるさと丹波

影山 一 惠（旧姓野村・多摩市）

私がふる里丹波谷川を後にしたのはもう六〇年も前のことです。

その日は丁度四月三日旧の雛祭りの日でした。私を見送る為に二人のいところが神戸より来丹、十八年間生れ育った我家を後にして福知山線谷川駅より大いなる夢を抱いて旅立ちました。汽車が駅より遠ざかるにつれ、母やいとこのちぎれる程手を振る姿がだんだんと小さくなっていったのが今もはつきりと思ひ出します。私の行く先は東京阿佐ヶ谷に住む兄、当時北里研究所に勤めており、その兄を頼つての上京でした。初めて見る東京はビルの乱立、街並の賑やかさと緑の少なさでした。またいつもお祭りのようにも思えました。

人並にホームシックにもなりましたが、希望ある未来がそれを打ち消してくれました。

未知の都会での生活が始まり、日本橋での会社勤めを定時に終えて、夢の足がかりでもある新宿の洋裁学校に通い充実した毎日でした。当時職場は殆んどが関東の方が多く、甲子園も宝塚も尼崎も皆大阪だと思つて居り兵庫県がどこにあるか知られていなかった。唯、デカンショ節だけは知っており、山家の猿が花のお江戸で芝居する一節で冷やかされたものでした。

上京後始めての盆休みには大阪から福知山線に乗り換え四ヶ月ぶりに見る車窓の眺めは新鮮でなつかしく思つたものでした。

大阪まで新幹線が走るようになったのはそれから数年後のことです。十二、三時間もかけての帰省はのんびりとしていて一駅過ぎる毎にふるさとが近づく思いがしました。

結婚後二人で丹波へ帰省することも幾度かあり福知山線の谷川までの間、当時は単線で今では定かではありませんが、ある駅で上り線の待ち合せて二〇分もの待ち合せ時間があり都会育ちでふる里のない彼にとつてはこの二〇分がゆつたりとした旅であり、非日常的であることに感激しておりました。しかし近代化と共

に数年前には悲惨な福知山線事故があり今では毎年慰霊が行われて居ります。

数十年前の大阪駅始発の福知山線、都会の景色から工場地帯、しばらくすると田園地帯へと。やがて山峡を縫うように煙をはきながら走る。左右の車窓の景色をのんびりと眺めながらの帰省旅は遠い昔のことになつてしまいました。

今、目を閉じると子供の頃には感じなかつた四方を山々に囲まれた丹波盆地の風景、季節の移ろいの中の生活が甦ってきます。

新年の初詣に始まり粉雪舞散る柏原の厄神さん、川代や鐘ヶ坂の満開の桜、篠山川の蛍合戦、高源寺や石龕寺など多くの由緒あるお寺の見事な紅葉等々、その一つ一つが密度濃く思い出されます。

また特筆すべきことは平成十八年に上久下地区の川代溪谷で一億数千年前の恐竜の化石が発見され、その名を丹波竜と名付られ広く世の中に知られるようになりました。

近年帰省した際、その地を訪ね、こんな山々に囲まれたこの地を気の遠くなる程の太古の昔に恐竜が闊歩

していたなんて想像だにして居して居らず、そのことに大いなるロマンに心が動かされたものでした。

ふるさとの山々や川などは今尚変らずそこに住む多くの同級生達が我が街としてしっかりと守ってください帰省する度に温かく迎えてもらい活き活きとしたふるさとに感動さえ覚えほんとうに有難く思っています。

丹波の風土の中で育くまれ、真面目で実直な働き者として多くの先人の方達が功成り名を遂げてこられたことに、ひとりの丹波人として誇りに思っております。

私は今、八〇歳を目の前にして平凡ながらも、心の栄養と安らぎを求めて俳句、俳画、太極拳と社会的には、多摩市の国際交流事業で主にアジア圏の方に日本文化のひとつとして活花で交流をして共に楽しんで居ります。

俳句はまだ初心者ですが、ふるさとに心を寄せて誠に拙句ですが詠みました。

霧を抱く山懐や丹波郷

故郷に続くとばかり雲の峰

霧の降る丹波の里の大豆畑

郷里さとよりの荷ほどく香り丹波粟
螢火を追うてはぐれし幼き日

(山南町出身)

昭和21年〜26年の丹波の生活

大塚 秀 式 (館林市)



昭和21年、生郷小学校入学式は日産の木炭車で母と出席した。当時、県内でも数少ない自動車だったと後で知った。父、大塚秀次は歴代続い

た村内唯一の開業医で、地主で村長でもあったが、敗戦により、戦犯追放で解任され、農地改革で農地を全て失った。従ってこの自動車に乗った記憶はこの時しかない。間もなく運転手もいなくなり、車もなくなつた。家には、この車以前、往診に使用していた馬車と馬小屋が残っていた。それでも、二人の女中さんがいて、私はそのうちの一人「たみちゃん」という女性に



可愛がられた。母は福知山の商家の娘で教師になり、隣村の村上家に嫁ぎ満州にいたが夫が死亡し、父と再婚したということだった。その母は、戦中、婦人会の会長を務め、戦後は家庭裁判所の調停委員などをしながら薬局で調剤などを手伝っていた。父は西脇市の医師、松尾家の二男で、養子として大塚家に入った後、二度結婚し、母は3人目だったということだった。母は村上家に一人男子を残し、父は前妻との間に一人の女子をもうけていた。僕には、異母の姉と異父の兄がいたのであるが、どちらとも一緒に暮らしたことはない、両親が亡くなるまで、この事実は誰からも知らされることはなかった。ただ、父と母は高齢で生んだ私を可愛いがってくれた。

さて、当時の医者は貧しい農村で経済的には大変だったようだ。国民健康保険制度がない時代、通院する患者はなく、真夜中に玄関の戸を叩い

て起こされることが多かった。昼は仕事で、夜中に我慢できずに訪れる患者が多かった。父はぶつぶつ言いながらも診察に応じ、翌日には自転車で行診に出かけた。往診から帰ってくると、私が往診靴をおろし、中を見るのが常だった。たいいてい少量の米や卵が入っていた。治療費を支払える家庭は少なかった。医者はやつぱり赤ひげだと父と母を尊敬していた。

父は普段は裏の畑で野菜づくりに励み、私はそれを手伝うのが常だった。母は袋手で眺めているだけで一切手を出すことはなかった。母は炊事をするこもなく、薬局にいる以外にはたまに、屋内の掃除をするぐらいいだった。炊事、洗濯はじめ家事は女中さんにまかせていたような気がする。母は家事が嫌いで、師範に進学し教員になったと聞いていた。

女中さんがいなくなつてからは飯炊きは、父と僕の仕事で、煙に悩まされながら釜で炊いた。料理は焼き魚とか、野菜の煮物できわめて簡単なものだった。僕の弁当のおかずも卵焼きと梅干というのが定番だった。鶏を庭に放し飼いで卵には困らなかった。たまに前の日の夕食の残りものだった。米がない時代で、麦飯

なら上等で、いもや大根が目立つ弁当で農家の弁当が羨ましい時もあったように思う。

それでも、丹波の食べ物忘れられない。春には少し離れた竹藪で筍が沢山とれた。家には、日本海でとれた新鮮な魚を卸商人が週に一度は寄ってくれて父が買っていった。また、夏には、川でとれた雑魚を屈けてくれる人、秋から冬にかけては山鳥や雉を屈けてくれる人もあり僕が羽毛をむしり父か姉（当時、女子医専……東邦大学に在籍していた）が捌いた。また、墓地のある山にあった松林では期間的に入山が許されていて、大量の松茸やシメジがとれた。大きな松茸は焼いて、次はすき焼きで、残りは佃煮にして食べた。今思えば、贅沢な話だ。しかし、当時は流通機構等の問題で都市に出荷することもなかったのだろう。子供のとお八つとしては、柿と栗で、柿は久保柿と富有柿が何本かあり、栗はお寺の裏山に遊び仲間と取りに行った。少しだけ、生郷小学校での生活の一端を思い出してみよう。当時の丹波は、夏は激しい雷、冬は雪と冷たい雨と霧でロンドンのようだと言ったことがある。村の神社に集合し10人前後が集まると6年生の指示で？

5 kmの道を歩く。夏は藁草履、冬は足袋に下駄が普通だった。しばらくして、ゴム靴が多くなった。冬は村はずれの2軒の屋根瓦を焼く大きな窯でしばらく暖を取るのが常だった。道路は山から材木を運ぶ馬力車か自転車しか通らない道で、バスが通るようになったのは、しばらく後だと思ふ。丹波の冬は雪や冷たい雨で寒く、ストーブ当番が少し早く登校し、ダルマストーブに枯れ木で火をつけるのだが、これが大変でたいい教室は煙で窓は全開だった。中学年になり、弁当が持参になると、ストーブの上、下においた弁当箱からさまざま匂いがしたものだ。材料の割木の製作は上級生の仕事だった。ストーブの燃料がコークスに変わったのは、何時ごろだったかは覚えていない。その頃には、大阪などから疎開していた級友達がいなくなり、教室が寂しくなっていたように思う。

小学校の修学旅行は奈良で、米持参で旅館に泊まった。夕食は暗くて何を食べたかわからず、黄な粉餅と言ったら、コロッケだと誰かに笑われたのを覚えている。東大寺、奈良公園だったと思うが、楽しい旅行だった。

(昭和15年1月28日生 水上郡生郷村市辺、15歳柏原高校1年2学期まで。大阪府箕面市、以後大阪府立豊中高校。東京、浪人1年。早稲田大学第一文学部哲学科社会学専攻。民間会社2年半。埼玉県三郷町、三郷南中学校教員。群馬県館林市現住所に移転、埼玉県内の小・中学校、町教委・県教委、校長9年退職。埼玉県家庭児童相談員、5年間(非常勤職員)以後、無職…家庭菜園、たまにゴルフ)

林先生の涙

三浦 宏(横浜市)



私がちようど七十歳になった今から十年ほど前のことである。当時は大阪に本社があるベンチャー企業に勤めていたから、会議のために月に一回関西に出掛ける機会があった。

ある時、その出張のついでに柏原町に住むAに会う事を思いついた。高校一年と二年で同じクラスだった

が、Aは二年の秋から休学したから会えば約五十年ぶりの再会になる。一年留年したAの連絡先は私の同窓会名簿に無く、長いあいだ音信不通の状態が続いていた。

今回のように、青年期後期から七十才に至るまでのすべての年月に亘って、一度も会わずに過ごした者同士が会う場合、相手はこちらが当時の思い出をもとに勝手に思い描く人間ではほとんどなくなっていて、最悪の場合は気心の知れない初めて会う赤の他人と考えるなければならない。人間の本質はそれほど変わらないと思う事もあるが、五十年の歳月が人間にもたらすものは、生半可なものではないとも思う。お互いに「彼は昔の彼ならず」なのだ。

Aは休学の頃からの希望を叶えて柏原町で内科医院を開業していた。肩に届くほどの長髪には驚いたが、成功した開業医に特有の快活さと人当たりの良さを備えた元気な老人になっていた。会った瞬間に、思いもかけず言葉遣いが高校一年の時のそれになり、私が危惧していた最悪のケースがひとまず回避された。

Aは私以外に柏原町に住む二人の同級生も呼んでい

て、三人を隣町まで車に乗せて割烹料理に誘った。彼は宴席にビデオ・カメラを持ち込み、「林先生は自分の人生の原点である」と言いながら私にカメラを向けた。撮ったビデオを先生に見せるから何かしゃべれという。

林健二郎先生は、高校一年の時のクラス担当で授業科目は数学だった。Aと私は先生の授業の信奉者だったし、私も先生は私の理系人生の出発点であると思っている。

そして高校一年の時から五十五年後のこの時、先生は患者としてAの病院に通っていたのである。

突然カメラを向けられて驚いたが、私は大体次のようなことをビデオ・カメラに向かつて言った。

「企業を定年まで勤めてから大学の教師になったせいか、私は板書が苦手で期末の授業アンケートを取るとかならず学生から「板書が汚い」と書かれ、その度に先生のきれいな板書を思い出しました。理論物理学者として有名なボルツマンの板書はそのまま教科書にしてもよいほどきれいだったと言われますが、自分と同じ物理学を学び、先生の授業を受けた端くれとして

顧みるとき、汚いといわれた自分の板書がはずかしかぎりです。この年まで人並みの社会生活を経験してきた私が改めて当時の先生を評させていただくとする、板書の美しさを始めとして、その振る舞い、容姿などすべてにおいて先生は様式美の人でした。」

昭和二十年三月十日の東京大空襲で深川を焼け出された我が家は、母方の祖母の故郷である山南町上久下に疎開した。この時七歳だった私はそのまま時の上久下小・中学校で学んだあと、柏原高校に進学した。

入学時のクラス担当教官である林先生は国立金沢大学数学科を卒業され、この時点で着任後数年が経っていたらしい。クラス担任としての先生からどのような高校導入課程や生活指導の授業を受けたのかは、今となっては一切記憶にない。しかし、先生の数学の授業は今でも鮮明に思い出すことができる。

定刻きつちに教室に入ってから、無駄口や冗談などが一切なく授業が始まる。授業の進展に従って次第に黒板をうめていく数式や説明図はその書き出されるレイアウトが予め決められているのか、必然的にこ

うでなければならぬといえる位置に配置されて行き、さらに文字や図そのものが美しく、授業内容を簡潔に説明する。板書されていくこれらの数式や図とともに、先生の説明が一切の冗漫の類をそぎ落としたものだから言葉のすべてに重み加わり、一言たりとも聞き逃すまいと授業に緊迫感が生じる。論理の数式化ともいえる数学の本質をこのような板書と話しぶりが語つていて、私は先生の授業を酔つたように聴き、数学を理解することができた。

先生の授業を一年間通して受けて分かったのは、その身だしなみ、振る舞いもまた、授業とおなじように折り目正しいことである。ハンサムであるとかスタイルが良いという印象を持つたことはなく、ただ身だしなみや立ち居振る舞いが端正なのである。季節の変わり目に腕時計のバンドが計つたように皮から金属に、あるいは金属から皮に替わる。生徒たちは皮のバンドが金属のそれに替わるのを見て、夏が来たとささやきあつた。

しかし、授業以外の例えば体育祭のときの整理係のちよつとしたミスに、はずかしそうに顔を赤らめられ

ることがある。いまから考えれば、これは大学を卒業した新任早々で世間ずれていない青年の微笑ましい生感であると同理解できるが、当時の私にとってはいささか情けなくも写つたものだ。しかし一方、次のようなことも感じていた。もちろん次に述べるよりも、もつと漠然とではあつたが。

もしかしたら先生は、その心の内の有り余るほどのナイーブな情感を持って余し、これと平衡をとるために折り目正しさの行動基準を自らに課し、さらには論理だけが通用する数学の道に進まれたのではないか。

同じクラスで同じように先生の授業に魅せられたのがAだつた。学校の帰りに高校の近くにあるAの自宅に寄つて、先生の授業のすばらしさを語り合い、その日の授業で理解があいまいだつた点を検討したりして二駅離れた私の村に帰る日が続いた。しかし、この生活がAの休学で突然断ち切られた。

Aのいなくなつた残りの高校生活では私にさしたる出来事はなく、一人でただ勉強ばかりをしていた記憶がある。

五十数年ぶりに会った数日後に、Aからメールがきた。林先生にそのとき撮ったビデオ・テープを見せたところ、先生は「様式美かあー」といいながら涙ぐまれたという。私は最初、先生も年を取り病気のこともあつて涙もろくなられたかと思つた。先生は三年の時もクラス担任でさらに数学の授業担当だったが、私は授業以外で接したことはなく、感動的な出来事を共有したこともなかったからこの涙には不意を突かれた。十六才の時以来再び、私は先生の端正さが端無くも破綻する場面に会つたことになる。

Aとはこの後、頻繁にメールのやり取りが続ぎ、あの時のメールで淡路島の洲本にある会員制のクラブに林先生を招待するので一緒に来いと誘つてきた。

私は先生には卒業以来一度も会っていない。この時点のはるか前に疎開先の身寄りには絶えていて、丹波は我が家にとつて戦後の思い出だけの遠い地になつていた。この長い無音が先ず私に先生に会うことをためらわせた。会うとなれば、今度は初めて教室外での関係を先生との間に作り直すことになる。このための時間が私の年齢ではもう残り少ない。会わずに過ごした五

十年の歲月は生半可なものではない。今回は、同じ五十年ぶりでもAが相手の時のように気楽に臨めるものではない。これらがさらに先生に会うことを億劫にさせた。このまま会わずに、先生との関係を高校の時の師弟関係に凍結させたほうが良いのではないか。結局、私はAの誘いを断つた。

この後もAとのメールは続いたがその頻度は次第に間遠になりやがて数年経つて途絶えた。私もベンチャー企業を辞め、関西に行くこともなくなつた。私には再び変哲のない老人の日常が流れ始め、林先生の涙のこともいつしか忘れていた。さらにややあつて、先生が亡くなつたことが知らされ、再会してから十年足らずの後にAが他界した。

八十歳になる頃、私はそれまで読み残した司馬遼太郎の著作を何冊か続けて読んでいたが、「歴史を紀行する」と題する文庫本もその一つだった。この本の加賀藩の国都金沢についての章中に「ここに残る秩序の美」と題する小見出しの項がある。ここで著者は市電のなかの老婦人二人が先に降りるのを長々と典雅なお

国言葉で譲り合っている様子を紹介し、これを「様式美の極致」であるとして金沢を秩序美、様式美の街と断じているのである。

ここに至って、私は先生の涙を次のように解釈したい。

Aが先生に見せたビデオ・テープの中の様式美なる言葉から、先生は金沢を、そして金沢から柏原町に来て始まった教職時代のすべてを一瞬のうちに想起された。それは、着任後まもない頃の教え子で、いまは自分の掛かり付け医として目の前にいるAとビデオ・テープの中の私を想起の起点とした、五十五年にわたる歳月と金沢から柏原町にいたる距離空間の、時空に広がる先生御自身の終焉近い生涯への感慨だつたに違いない。

時々Aの誘いを断って先生に会わなかった事を悔いることがある。しかし、偶然にもAと私が、先生のはるばるとした時空における時間軸の始点たりえたことの幸運も、私は思わざるを得ない。

（東京都江東区深川出身、山南町に疎開。柏原高校から

大阪大学理学部。NEC定年退職後静岡大学工学部教授。大学退官後ベンチャー企業顧問

手紙——「山ざる」を読んで——

勢川 武彦（中野区）

友人の神戸在由良力氏が寄せてくれた全くの個人的書簡ですが、「山ざる」をここまで読んでくれる人物がいるということを証する物としてご提供します。

編集・発行にご尽力いただいている諸兄姉にとつて励みになるのではと存じます。（山南町出身、柏原高校・京都大学法学部卒、大阪商船〈現大阪商船三井〉、中野区在住）

勢川様

「山ざる」（第50号）をお送りいただき、ありがとうございます。

丹波の想いが重なります。今、丹波は遠くなりまし

たが。

越智研一郎さんを思い起こします。高校の1年先輩でした。神戸新聞の記者をされている頃、何回か飲んだこともありませう。その後、神戸新聞を退職。但馬へ入り浸りになられていました。奥さんとも離婚。スキーブームの頃で、鉢北スキー場の設計、開発を手がけられていました。お会いすると、元記者には珍しく、言葉を抑えられませんが、情熱が感じ取れます。スキー場は完成し、顕彰碑が建てられていました。

その後はケイヴィングで活躍されていることを聞いていました。書かれているように広い地域で洞穴、鍾乳洞を発見され、その活躍は広く知られていたのでしょう。特に岩手県岩泉町の「龍泉洞」の探検では顕著な業績を上げられ、「龍泉洞探検に尽くした洞穴探検家、越智研一郎展」も開かれたようです。

その一方、彼は生きるのが不器用だったのでしょう。生きる糧を得るため、徳島、阿南の沖合で海底ケーブル敷設工事潜水作業中、事故で亡くなられました。

34歳でした。惜しい人を失いました。

渡辺隆男さんのことが書かれています。高校の友人

畑義則君も二玄社で働いていて、社長から後継を託されたが断ったことを隆男さんの弟、圭造君から聞いたこともありませう。

渡辺圭造君は単身、バーゼルで修業し菓子作りに励まれました。帰国後は独自に開発された菓子「バーゼル」で知られるようになり、八王子などで幾つかの「バーゼル」菓子舗の他カフェなどを開かれています。ネットでも知りました。

我が家へも2回ほど来てくれました。山中湖畔にテニスコートを持つているので、テニスをしようという招いてくれていました。その後、急逝され、無念です。

ご存知と思いますが、バーゼルはスイス3番目の都市で、街の中心をライン川が流れています。美術館も訪れたことがあります。ライン川を上り下りする貨物船の起点で、船をよく見かけました。

岡さんが子どもの頃の遊びについて書かれています。エスケンなども懐かしく思い起こします。

高見秀円（秀史）さんも書かれています。手紙を差し上げることにします。昨秋亡くなった山名君（清酒奥丹波蔵元）の家の近くの寺院に生まれた方です。

「丹波は女子高校球児の聖地」は初めて知りました。
藤原保君の文章は教えられて気が付きました。

まだ学生時代だったでしょうか。お会いして話した
ことがあります。郊外の半分農家に下宿していて、毎
日、山羊の世話をしなければならぬ。餌の草刈りと
乳しぼりが日課で、日々、定時にしぼるのが億劫とこ
ぼしていました。

私事にわたり失礼します。

過日、神戸高専の卒業生のクラス会（同窓会……舞
子ピラで1泊）に招かれました。

卒業時の37名中、19人が東京などから集まります。
宴席で私も思い出などを語ります。

二次会が始まるというのに、宿泊しない私をピラの
玄関で全員が見送ってくれます。

「先生、教師やっとなって良かったねー！」
別れ際に一人が言います。

あの時から半年になります。一人の生活にも慣れま
した。食べる物も自分で作っています。近くに娘が居

て助かりますが、最近、勤めが忙しく、週に2回ほど
来てくれます。

テニスはまだ楽しんでおります、明石公園か松蔭で。
今の頭と体を維持するのがだんだん難しくなります。

85歳にはテニスはかなりきついものを感じますが、
その一助と思っております夕方、半時間歩くことも。

最近、倉本聰の「昭和からの遺言」を読んでいます。
またことごとく書いて失礼しました。

取り急ぎお礼申します。

朝夕冷え込むようになりました。

お体を厭って下さい。

2019年10月20日

由良 力

（春日町出身、柏原高校・神戸大学卒）

文責（岡田昌子）



撮影・岡田昌子



宇宙船 「こうのとり」の 開発、一筋に

宇宙航空研究開発機構（JAXA）
有人宇宙技術部門HTV技術センター

技術領域上席・田邊宏太さん



（JAXA提供）

● インタビュアー
安井孝之

《研究業績とプロフィール》 1971年北海道生まれ。5歳の時に家族で丹波へ。柏原高校から大阪大学基礎工学部。大学院を経て1995年に宇宙開発事業団（現JAXA）に入り、開発に従事。2002年から約3年、外務省に外向、ウイーンの政府代表部勤務。帰国後は一貫して、宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）の開発、運用に関わった。

——宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）9号機が最後の飛行に成功し、国際宇宙ステーション（ISS）に到着しました。このプロジェクトにずっと参加されました。お疲れ様でした。

田邊 HTVプロジェクトは今回の9号機でひとまず終わります。私は1号機が打ち上げられた2009年9月の5年近く前にプロジェクトに参加しました。プロジェクトから一時的に離れた時期もありますが、10年以上このミッションに関わりました。

——HTVプロジェクトは何を目指したのですか。

田邊 1998年から日本や米国、ロシア、カナダ、欧州などが協力して建設が始まった国際宇宙ステーション（ISS）へ物資を補給するプロジェクトです。ISSでは通常6人の宇宙飛行士が常駐し、実験をし

たり、設備保持のための作業をしたりします。人間が生きている限り、水や食べ物やゴミと排せつ物の処理をしなければなりません。ISSで使う電池など機器の補充も必要です。そのための補給機が必要です。ISSへの物資の運搬は当初、米国のスペースシャトルやロシア、欧州の補給機が担っていました。日本は新しい方式を使ったHTVを提案し、2009年から運用を始めました。スペースシャトルの運用が終わった2011年以降は一度に多くの物資を補給できるHTVへの期待が高まりました。

——HTVは物資を補給するだけではなく、ゴミや排せつ物の処理もするのですか。

田邊 ゴミや排せつ物を宇宙空間に捨てるわけにはいきません。軌道上にどんどんたまりますからね。HTVは片道しか使えず、復路で大気圏に突入する際に燃え尽きます。ゴミなども一緒に燃やして処理します。

月や火星にも補給機飛ばす時代も到来か

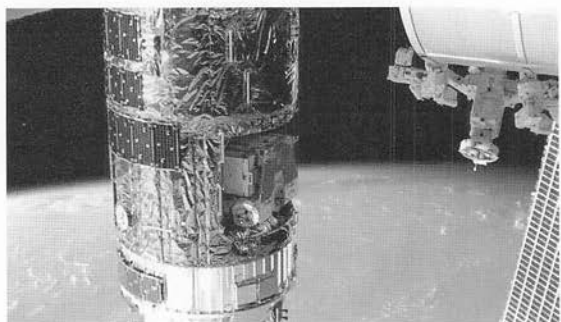
——ずいぶん先でしょうが、人類が宇宙に住むようになればHTVのような補給機が活躍しますね。

田邊 その通りです。HTVプロジェクトは9号機で終了しますが、後継の補給機「HTV-X」のプロジェクトが進んでいます。ISSへの物資補給だけでなく、月を回る軌道に建設予定の宇宙ステーション「ゲートウェイ」への物資補給も期待されています。輸送能力はHTVの1・5倍に増えます。

——HTVプロジェクトではどんなお仕事をされたのですか。

田邊 1号機の開発段階からかわり、最初は通信機の開発に携わりました。一方で1号機から4号機まではHTVの運用管制チームを交代で指揮するフライトディレクターの任務を担いました。24時間3交代態勢で管制室に陣取ってHTVを見守り、操作する役割です。2号機ではフライトディレクターの中で運用管制チーム全体の責任者に選ばれました。

6号機以降もHTVに関わり、7号機で初めて成功した小型回収カプセルの開発責任者でした。それまではHTVは帰路で燃え尽きるため、ISSから何も持ち帰ることはできませんでした。大気圏再突入時の超高温に耐える小型カプセルを開発し、その中にISS



ISSから撮映されたこうのとり9号 (JAXA提供)

内で生成したたんばく質の結晶などを入れて、地上に持ち帰ることができました。8号機では「バックルーム」と呼ばれ、トラブル時に技術サポートをする裏方役として働きました。

——月面着陸を目指したアポロ13号が深刻な故障をした時も地球に無事生還したのは解決策を冷静に探ったバックアップチームの存在があったからでしたね。

田邊 「バックルーム」も同じような機能です。ただアポロ13号のような致命的な故障はありませんでしたが、今回の9号機では運用管制班の班長としてHTV運用管制チームを含む運用業務全体のマネージャーを務めました。HTVプロジェクトは今回でひとまず終わります、私にとっても一

区切りです。

宇宙開発、日本が世界に負けぬ分野も

——日本の宇宙開発は米国やロシアなどに比べて遅れているのではないかとずっと言われ続けたと思いますが、現在はどうですか。

田邊 遅れている部分はあると思いますが、今では世界に負けていない分野があります。HTVはその一つだと思います。HTVは一回で6トンの荷物をISSに運べる大型の輸送機です。ISSに必須の大量のバッテリーを6号機以降4回に分けて運びましたが、こんなことはHTVしかできません。この10年間で世界をリードする流れを作ることができたと思います。また小惑星「イトカワ」から表面の物質を地球に持ち帰った小惑星探査機「はやぶさ」や、小惑星「リュウグウ」から帰還中の「はやぶさ2」も世界に先駆けたプロジェクトです。

——宇宙開発は何百億円、何千億円という巨額なお金が使われます。本当に役に立つのでしょうか。

田邊 そういう質問はよくお聞きします。でも今の生

活は宇宙と直結しています。気象衛星が飛んでいるから天気予報や台風情報が出せます。放送衛星を使えば、地球の裏側の出来事も同時中継できます。自動車のカーナビやスマホの地図情報が利用できるのはGPS（全地球測位システム）のお陰です。宇宙開発の成果は私たちの生活にずいぶん役立っていると言えるのではないのでしょうか。

一方で私は人の活動領域を広げていくことは生物の本能ではないかと思っています。今後、HTVは月や火星へと飛んでいきます。一層、頑張っていきたいと思っていますが、皆様にご理解いただけることが大切です。そのためにはJAXAも努力しなければいけません。宇宙で使う部品は過酷な環境で使うので高価になりがちですが、秋葉原で売っているような安い部品でも使えるものは使うという姿勢もこれからは必要かもしれません。

星空を見上げ、飛行機に憧れた少年時代

——なぜ宇宙開発に興味を持たれたのですか。

田邊 小さいころから大空を眺め、飛行機に興味を持



運用作業中の田邊さんの様子（JAXA提供）

で過ごしましたが、星空を見上げてきれいだなあと思ったり、パイロットになりたいという夢を抱いたり、鉄の塊の飛行機がなぜ空を飛べるのかわかりません。不思議に思ったりしていた少年でした。そのようなことが今につながっているのかなあと思います。

——理科や数学が得意で、大学で機械工学を学ばれました。そのころには宇宙、宇宙という思いでしたか。

田邊 最初から今のようない仕事をするとは思ってはいませんでした。ただ進学した阪大の基礎工学部は豊中市にあり、伊丹空港が近くにありました。当時住んでいた下宿からも近いところに飛行機がよく見える「千里川土手」という有名なスポットがあります。私は、そこに行つては手が届きそうな距離を飛ばす飛行機を眺

つていたと思います。丹波には5歳から住み始めました。氷上町葛野地区の中学校を卒業するま

めていましたね。4年の時に入った研究室が宇宙開発に近い研究分野を手掛けており、私は姿勢制御用の小型ロケットの研究を修士課程の2年まで続けました。そこで初めて仕事の対象として「宇宙」を意識したのだと思います。

家族で丹波にイターン

——不思議ですねえ。丹波では小さいころから星空や飛行機に関心を持っていたとはいえ、大学に進学したら飛行場が近くにあった。配属された研究室は宇宙。人生の糸に引かれているようですね。

田邊 丹波で育ったのも巡り合わせです。両親は丹波とは地縁も血縁もありません。父は北海道大学農学部を卒業後、いったんはサラリーマンになりました。でも牧場経営の夢が捨てられず、脱サラしました。北海道の日高で牧場経営を始めたのですが、酪農が厳しい時で牧場を閉鎖。それでも牧場で働きたくて就職口を調べ、神戸畜産という会社に再就職しました。その会社の牧場が氷上町の葛野地区にあったので、家族で丹波に住み始めたのです。



オンラインでインタビュー中のPC画面

——今というならイターンですね。すごい田舎に来たという感じだったのでしょうか。

田邊 私は北海道の日高にいた記憶はほとんどありません。兄が通っていた日高の小学校は全校生徒が10数人という小さな学校で日高の方が田舎だったようです。私は保育園から高校まではずっと丹波です。幼馴染は丹波の人ばかりです。両親は母親の故郷である岡山県には住んでいます。私にとっては丹波が故郷です。高校の恩師や同級生とは今も交流があります。私を育てくれたのは丹波です。

インタビューひと言

安井孝之

インタビュアーは6月15日にオンラインで行いました。パソコンの画面越しのやり取りでも田邊さんの冷静沈着ぶりが良くわかりました。強みは？と聞くと「諦めが悪いこと？でもこれは弱みかなあ」と。いえいえ強みでしょう。こうのとりの後継機にも関わっていかれるのかどうか。楽しみですね。

(氷上町出身)



親水公園を歩いて

井上 巖（葛飾区）



私の住居の近くに「小松川境川親水公園」がある。周囲に植栽と遊歩道を配した全長3・5kmの川の公園である。15年前に葛飾区のマンションに引っ越して以来、ウォーキングに良く利用していた。今年にはコロナ禍で私が通っていたジムが休館となり、運動不足解消のためにこの公園を歩く日が増えた。3月から6月にかけての親水公園を点描してみた。

1. 春の訪れ

この公園には桜の木がたくさん植えられており、今年もよく咲いた。宴会ができる場所が数か所あるが、今年は地域の花見会も中止となり、例年になく静かな花見シーズンだった。

桜より先に咲く花がある。ウメやコブシもそうだが、この公園にあるサンシュユ（山茱萸）の木も早春に花

を咲かせる。黄金色の小さな花が20個ぐらい放射状に集まって咲く。ハルコガネバナとも呼ぶそうだ。遠目には地味だが、近くで見ると繊細でなかなか豪華な花だ。この木の名前を聞くと、♪庭のサンシユウの木♪、と宮崎の稗つき節を口ずさんでしまうが、調べてみるとあれは「山椒」のことで山茱萸とは関係ないらしい。

春は芽吹き季節でもある。落葉樹が一斉に芽を吹いて野山が鮮やかに色づいてくる。力強く希望が湧いてくる自然の営みだ。以前住んでいた市川市で、通勤途中に見える雑木林の丘があった。春先のある日、冬枯れの雑木林の上部がざわざわしてくる。そして日毎にざわめきが大きくなり、無彩色の森が淡い萌木色に変わり、日毎に濃さを増していく。その力強さは、地底のエネルギーが噴き出してきているようにも感じられたものである。

親水公園の芽吹きはまず柳から始まる。垂れ下がった枝に鮮やかな緑の葉がのび、風になびくのを見ると「春がきたな」と実感する。やがて他の落葉樹も相次いで芽吹き、桜も次第に葉桜に変わり、公園が緑色

に染まってくる。

2. 新緑

落葉樹で最も多いのがケヤキである。ケヤキは大木に育ち、新緑が爽やかで、秋の黄葉も楽しめる優れた木だと思う。そのケヤキの新緑はちよつと面白い。一本の木の枝から一斉に葉が出てくると思いきや、枝によつて早いのと遅いのがある。木の先の方とか下の方とか、日当たりが良いとか悪いとかなどはあまり関係が無い。そういえば秋の黄葉・落葉も枝によつてムラがある。何故かな？



新緑の頃は空気が澄んで、陽光も強くなり、木々の緑が映える。陽の光を透かして見る新緑は特に素晴らしい。こんな朝の緑陰散歩は何物にも代えがたい爽快感を感じるものだ。〃時は春、日

は朝(あした)、朝(あした)は七時、片岡に露満ちて、揚雲雀(あげひばり)なのりで、蝸牛(かたつむり)枝に這い、神 そらにしろしめす。すべて世は事もなし。―上田敏の訳になる「春の朝」という詩がピッタリだ。でも、今年の春はすぐ暑い日がやってきて、こんな気持ちの良い朝はあまり続かなかった。

この時期は遊歩道の脇に植えられた多くのつつじが公園を彩るのだが、今年は印象が薄かった。何故かと思いついてみると、最近笹がはびこってきており、つつじを覆い隠したせいかもしれない。笹は深く根を張りどんだん横に伸びていくから駆除が難しい。今年はやたらと笹の繁殖が目立つ。いずれ笹ばかりになってしまうのではないかと気がかりだ。

3. 春落ち葉

この公園を年中掃除してくれているシルバー人材のおじいさんたちがいる。十二、三人が毎日持ち場に出て、竹箒で遊歩道をきれいに掃いてくれている。秋の落ち葉が多いのは当然だが、春も結構落ち葉が多い。常緑樹が古い葉を落とす「春落ち葉」だ。この公園に多く植えられているクスノキは特に春落ち葉が多い。



その赤い実が熟して大量に落果する。おじいさんたちの仕事は尽きない。

4. カルガモ

川にはカルガモが住み着いているが、今年は3組の雛の誕生を見た。5月半ばに10羽の雛が母ガモと泳いでいるのを見つけ、成長を楽しみに毎日通った。数人の人がじーっと見ているから、子ガモの居場所はずぐわかる。その場に着くと最初に子ガモの数を数え、10

羽いることを確認してホツとする。みんなそうだ。カラスなどの天敵にやられる子ガモが多いから心配なのだ。母ガモについて泳いだり、餌をあさったり、一列になって遊歩道を歩いて渡ったり、石の上に重なりあつて眠ったり、まるまるした身体でしぐさもかわい。大きくなるにしたがつて行動も大胆になってくるが、家族はずーと一緒だ。5、6週間もすると母ガモと見分けがつかないほど大きくなる。見分ける方法はあるおじさんが教えてくれた。「脚の色が違うんですよ」と。確かに母ガモの脚は濃い朱色だが、子ガモの脚は黄色っぽい。

6月下旬にまた新しい家族が誕生した。こちらの子ガモもやっぱり10羽。新しい楽しみができたと思んでいたのに、見つけて3日後から、ぼったり姿を見せなくなつてしまつた。まだ飛べない子ガモがそんなに遠くへ行くことはできない筈。他の人たちも心配しているが誰も見ていないと言う。カラスか猫かイタチにやられたか？それとも縄張り争いに敗れて一家心中を凶つたか？？いつか元気な姿を見せてほしいと願っている。

5. ザリガニ捕り

この公園がいつもより賑わつた期間があつた。緊急事態宣言が出ていた頃だ。小さな子供連れの若いお父さん達が出てきた。会社が臨時休業になったり、テレワークで時間に余裕ができて、駆り出されたのだろう。ほとんどがザリガニ釣りをやっている。棒の先に糸を付けその先にスルメを括り付けて、ザリガニがはさみで挟んでくれるのを待つ。釣れるのかな？と思うが、意外に結構釣りあげている。いつもは休日だけなのにこの間は平日も続いたので、ザリガニも災難だつた。ザリガニもきつとコロナウイルスを恨んでいることだろう。この公園にはカエルがいない。したがつて子供が喜ぶオタマジャクシが全くいない。メダカも魚もいない。子供たちの狩猟欲をザリガニが一手に引き受けているのだ。頑張れ、ザリガニ！

親水公園ウォーキングは私にとつて、季節感を味わえる貴重な機会だ。今後も長く続けたい。

(氷上町旧幸世村出身、77才、元会社員)

そろばんに始まり現在の私

坂口 充子（取手市）



私がそろばんに初めて触れたのは
中学二年で『一円也二円也……』の
読み上げ算からです。

高校進学相談で担任より尋ねられた時、大学進学は望めない経済事情でもあり、英語や数学は苦手&家庭科は裁縫が得意じゃないし……、『じゃあ商業科にしとけ』、『ハイ』といった状況で柏原高校の商業科に進学しました。

初めてのそろばんの授業で割算を掛算の九九で計算をすることを知りびつくり仰天。

私が中学で習ったのは『二二天作五……』（苦勞して九九を覚えたものです）。これを書くにあたり、割り算について調べてみました。

一九二七年 割り算九九が使われなくなり、商除法

（掛算の九九を使った割算）が普及し始めた。

一九三五年 尋常小学校で算術に珠算が必修となる。

一九五三年 社団法人全国珠算教育連盟が設立。

私（一九四五年生れ）が珠算を習ったのは一九五九年頃（中2）です。

今思えば当時より30年以上前の古い教育を受けたのだな、と我ながら苦笑……。高校の授業での読み上げ算等にはとてもついていけません。

クラスでは珠算検定で1級保持者があちこちに。同じ中学から商業科に進学した女子三人のうちひとりとは1級保持者でした。あとひとり（今は亡き友）は私同様。

そこで、母に頼み込んでそろばん塾に彼女と通いませました。初めての塾通いです。しかも小学低学年の子供に混じってでしたが私など足元にも及ばない位の上級者（当時はそう感じた）。私は必死でした。（高校入試の比じゃない位の猛特訓）約半年で3級（とりあえず履歴書には書ける）を取得してそろばん塾は辞めまし

た。簿記は好きでした。

部活は就職のためにタイプ部に所属。和文タイプは活字の多さと文字が反転して複雑なのでギブアップし英文タイプに転向。結果的には後の私にとって大いに役立ちました。

就職先は商業科とは無縁の人事（社員教育関係）の仕事でした（当時、給与計算はそろばんでの手計算、手書きの給与明細でした）。

約5年勤務して結婚……子育て、夫の転勤（転居）や単身赴任等で自由時間が増え脳トシのつもりで日商の簿記検定に挑戦、転居先では会計事務所、銀行（パート）、記帳代行の仕事などを経験。

この頃はそろばんが電卓に代わっていました。夫の転勤先で銀行勤務の頃、パソコンを買いたいと家族に相談するとPCメーカーに勤める長男は『マスコミに踊らされている』と一笑に付され、高校生だった次男は『買えば！使わなくなったら僕が使うから』と……私は次男のこの一言で『絶対投げ出すわけにはいかないぞ』と感じました。（子育て時代の頃『途中で投げ出してはいけない』と言ってきた手前もあり）長男、

夫と秋葉原に行き息子に決めてもらい購入しました。

デスクトップパソコンで今と違いとても大きな箱で届きました。パソコンの組み立て、設定は夫がしてくれるものとはばかり思っていました。2日経っても3日経っても……1週間たつても何もしてくれませんか。

そこで、夫に頼るのはだめだとわかり恐る恐る箱を開けて取説片手に組み立て起動できた時は万歳!! プリンターで印刷も成功!! しかし、わからないことばかりで一人暮らししている息子に電話して尋ねても『この前も教えた』……『これで3回目だ』冷たいものです。

これでは当てにできない。かといって投げ出すわけにもいかず（次男の思うつぼで親の面目丸つぶれ）それからはまず通信手段をとプロバイダー契約をしてメールで通信できるようになったときはとても嬉しかったものです。

そんな折、1週間（9時〜夕方5時まで）のパソコン無料講座に当選して受講。パソコンが面白く夢中になりました。このパソコンで大いに役立ったのが高校時代の英文タイプでした。



パソコンを始めたのは50歳手前…… 当時は主婦がパソコン操作するのがまだ珍しかった時代でしたのでわからないことをネットの相談コーナー（今から思えばネット上の同好会グループ）に質問するとみんなとても親切でした。そこでパソコンの勉強をしたようなものです。

そのメンバーとはオフ会があり大阪、京都、東京、山梨、福井、神奈川等が集まり、また、沖縄に単身赴

任していたメンバー（女性）宅に集まり、6人でワイワイとても楽しい思い出です。（その中には私が一番年長でした）

パソコンブームの始まりのころ富山県で『96年に過疎対策事業として希望する全世帯にパソコンを配布し、インターネットへの接続環境を整えた』ということが報じられ配付された高齢者宅では（使い方がわからず）『床の間に置いている』など……このことを知り私は、『高齢者の方たちにパソコン操作のお手伝いができるボランティアをやりたいな』と漠然と感じました。

そしてPC雑誌と通信講座でインストラクターの資格を取得。

現在は地域のボランティア団体に所属してPCサークルを担当、トラブル相談に対応する活動等PCに明け暮れる日々を過ごしています。

（出身 氷上町）

新型コロナと大学とりモート授業

井 徳 正 吾（横浜市）



コロナウイルスの猛威は衰えそうもない。全国で外出自粛中だが、大学も同様。私の所属する大学では、前期の授業すべてがリモート

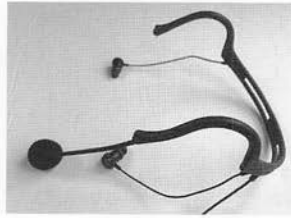
授業に切り替わった。このままでは後期もリモート授業になる可能性は高い（2020年7月10日現在）。多くの教員は全く大学に行くこともなく、自宅で授業を行う。これで往復3時間近くは省ける。背中にベツトリ汗でシャツがくっつく夏に、出勤が省けるのは大きい。クルマのバッテリーがあらがないか心配になるほどだ（私は学科長なので押印のためだけに二週間に一度の頻度で大学に行く）。

リモート授業は私の環境を変えた。パソコンも動画が円滑に配信できる高性能のものを購入した。パソコンに取り付けるカメラも解像度の高いものにした。マ

イクもヘッドタイプのものを買った。だから部屋の中を歩きながらでも講義ができる。先日には光ファイバー工事で大容量の回線に切り替えた。室内も模様替えをして、画面に映る背景がスッキリするようにレイアウトを変えた。そして今、私の机の上には、3つのパソコンが並んでいる。授業資料提示用、学生の反応を見る用、そして調べもの用である。これでリモート授業が完璧にできる環境は整った。後は私の問題だけ…。

リモート授業と言っても大きくは2つある。「Zoom」や「Googlemeet」と呼ばれるソフトを使った対話形式の授業。もうひとつはプレゼンテーション資料に音声や映像を録音・録画して学生が好きな時に見る形式の授業である。

前者はビジネスの会議でも用いられるもので、同時に教員と学生とがパソコンの前で向かい合う。そしてパソコンを通して、お互いの顔を見ながら授業を進めていく。チャットという機能を使えば、講義中に学生に質問を書き送ることもできるし、逆に学生から質問を受け取ることもできる。だから教室での対面授業



マイクとカメラ

と、さほど変わりはない。

一方、後者のスライド原稿に音声や自分の画像を録音・録画して行う授業は少し勝手が違う。事前に録音・録画が必要だからだ。学生は自分の好きな時間にそのファイル（データが入った電子の箱）をパソコンの上で開けて授業を受けることになる。

リモート授業は教員の教えるというスキルを奪う。このような授業を繰り返し返しても、教える技術は向上しない。教

える技術は、教えられる側の反応で鍛えられるからだ。向上するのはパソコンスキルだけ。昨今のパソコンの性能向上のお陰で、ソフトも高度化し、様々な機能が付いている。使いこなすのが大変だが、使いこなせば大きなメリットになる。だから謎解きのようにソフトの機能の解明にのめり込む教員は多い。なにしろ教

員はみんな凝り性。だから教えるスキルよりも、操作スキル向上に走る気持ちもわからなくはない。

リモート授業にも良さはある。Googlemeetを用いた授業では、学生からの質問が増えるのだ。対面では手を上げにくいのが、パソコン画面だと質問がしやすいようだ。一人で講義を聞いているために、他者の存在を意識することがないから。何も質問がないのは教員としてはちよつと寂しい。だから新鮮な驚きがある。

一方のプレゼンテーションソフトによる授業にも利点はある。なにしろ授業開始時間にパソコンの前に座る必要がないからだ。自分の空き時間に。おもむろにパソコンを立ち上げ、講義を聞くことができる。パジャマ姿であろうと、ノーマイクであろうと、朝食を摂りながらであろうと関係ない。自分の姿が映ることがないからだ。急用ができて、バイトしながらでも履修は可能だ。更に、学生は板書に追われることがない。ゆったりと授業が受けられる。分からない箇所は何度でも聞き返すこともできるからだ。

だけど考えてもみてほしい。事前に講義内容を吹き込む必要がある私は、学生の顔も見ないままに、無機



研究室にて ゼミ生と一緒に卒業写真

質なパソコンとマイクに向かって90分間、延々と喋り続けるのだ。何の反応もない機械相手に、一人孤独に喋る私の姿を…。ブツブツ…、ブツブツ…。何と滑稽な姿なことか…。

私の場合、授業の7割は後者のプレゼンテーションソフトを使用している。学生が好きな時に履修できるし、一方の私にしても好きなペースで授業が進められ

るから。学生がどのようになっているかわからないのでもいいことに、自分の好きなように、好きなペースで進められる。途中、質問で講義が中断することもない。ただひたすら空に向かって念仏のように喋ればいいのだ。授業時間も関係ない。多少、短くなっても、長くなっても、後に教

室使用者がいらないのだから気にする必要はない。一人で話が脱線して時間が延びても何の問題もない。また、学生の板書の時間を気にして講義を止める必要もない。収録も深夜でも構わないし、その気になればリゾート地からでも授業は可能だ。あくあ、なんといいいことづくめのだろう。リモート授業も悪くないなあ、と一人ほくそ笑む自分勝手な昨今の私。

でも一方で、教室に集まり授業を受ける意味とは何なのだろう？今までと同様の授業料をもらっているのか？だとすると対面授業の価値とはいったい何か？そもそもこのようなりモート授業で私の教えるスキルは向上するのか？いつかAIにとって替わられるのではないのか？それに、キャンパスの持つ意味とは何なのだろう？広大な敷地や教室は必要か？図書館はどうなる？部活はどうなる？職員だつてそんなに人員はいらないなあ、などと考える日々でもある。

私は授業の履修人数に応じてGooglemeetとプレゼンテーションソフトの2つを使い分けしている。Googlemeetを使って授業をするのは少人数の授業。多い場合はプレゼンテーションソフトだ。すべてを

Googlemeetにしないのは慣れ所以としか言いようがない。プレゼンテーションソフトは使い始めてもう30年近く。それにプレゼンテーションソフトだと、音声だけでも許される。つまり、喋り手の私の顔を映し出さなくても済まされる。古いソフトには録画機能がなく、言い訳の隠れ蓑にできる。私は多くの場合（授業科目によつて）顔を出さないで講義をする。コーヒーを飲みながらの録音も多い（笑）。一人で喋り続けるのだから、それくらいは許されてもいいだろう。

（氷上町沼出身。柏原高校第22回卒。早稲田大学第一文学部から博報堂入社。59歳で早期退職し、2011年から文教大学情報学部教授へ）



撮影・岡田昌子

今思えば

田村公平（熱海市）



今思えば、今年の2月12日、熱海市内、ホテル大野屋の大ホールにて私の主催する「ジーバークオノミクス」なるコンサートを開催することが、良くぞ出来たという思いです。450名以上の入場者を集めた音楽フェス。ぎりぎりのタイミングでした。その後の事態は、皆様もご存じの通り全てのイベントが中止の嵐です。

昨年の10月に、これまでの仕事に一段落をつけ残りの人生は音楽活動を行いながら老後を楽しく送ろうと、歩き出したばかりでした。

しかし、いいほうに考えればこの自粛期間は練習を行うには丁度良かったのかも。この期間、熱海のFM放送から元気を届ける活動はしたものの、やはり何とか聴衆の前での演奏活動が出来ないものかと日々考え



ていました。思いついたのが、昔から海外で行われていた「ドライブインシアター」。これなら3密にはならないはず。シアターならぬ「ドライブインコンサート」。これができる場所は一か所しかないと言われている。これができるところは、恥ずかしながら観光会館や文化センターという類の大きなホールがございません。大きな建設予定地そのものが市内には無いからという事です。

しかし私は、6年前に市立中学の統廃合により廃校となっている山の上の旧小嵐中学校跡地がその予定地にぴったりと、以前から密かに考えていましたので、車が何十台も入れて、周囲に音響の迷惑もかけず、直ぐにも利用可能な場所。ここしかない、膝をたたきました。

思い立ったが吉日。すぐさま現在の管轄部署である役所内の学校教育課を訪問。窓口には運よく知り合いの女性職員がいらして、しかも音楽仲間。「それは面白い企画ですね」と言って現在留守の上役に聞いておきますという事で連絡待ちで帰宅。翌日の夕方、その女性職員からTEL。「残念なのですが、グラウンドは車の乗り入れが出来ないので、使用不可という事です。」という思いもかけない返事。もう6年以上学校として使っていない広場が、校庭のような扱い？その日の夜は、あまりの情けなさに、Facebook上で目一杯愚痴をこぼさせて頂きました。やはり知人や仲間はこんな時ありがたいものです。すぐさま、沢山の方に応援のメッセージを寄せて頂き、また取り組み方も色々教えて頂きました。

気を取り直して翌日から早速多方面にお願い行脚。その中のある方から、「学校教育課にもう一度連絡を入れて、訪ねてみて下さい」という連絡を頂き、次の日に市役所へ。あつけなくOKでした。何方とは申し上げられませんが、それなりの方ですので、話をつけて頂いていた模様。予定日を決めさせていただき、早

3密回避し30曲披露

シニアバンド
「ジーバーズ」

速準備行動
です。下見
に現場へ。
電気ナシ。
トイレは古
い仮設トイ
レが2基。
周りは草
茫茫。日陰
ナシ。勿論
ステージは
ナシ。丁度、
国旗掲揚台
が残ってい

ましたのでここをステージに。やはり草茫茫々。コンサート予定日の3日ほど前に草刈り作業。会場のすぐ下の町内会長さんに、公民館のトイレを使用させて頂くお願い。周囲の3町内会長さんに当日は大きな音が出ますことを了解いただきました。新聞社3社に今回の企画を掲載依頼。熱海の音楽仲間を初め、東京から

も応援に来てくれる歌手の方々に出演依頼。電気がないため、大型の発電機を2台手配。

新聞に掲載されることは、やはり効果がありました。自粛や自重のなか故に、車のまま聞けるのは面白いらしく、静岡市、焼津市、富士市、伊豆の国市、伊豆市、函南町、等と遠くからの問い合わせ電話があり、道順をその都度お教えしました。

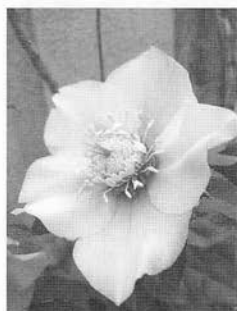
当日は、晴天。出演者には日陰ナシ。それでも約3時間。無事にドライブインコンサートを終えることが出来ました。ご来場の皆様の中には、車を降りて踊りだす人も。私の問いかけにはクラクションで返事をいただいたり。ステージが上がって一緒に歌ってくれる人。皆さんには十分楽しんでもらえたかと思っております。

今回のイベントは一つの前例になると思います。次に続く企画が誰からか出ることを期待しています。自粛や規制が緩和されるや否や瞬く間に第2派の波が押し寄せる気配です。なかなか通常のイベントを行えるのは難しそうです。自分たち「熱海ジーバーズ」も再度どこかで開催したいと思っています。

今回の郷友会も11月の予定でありながら、早々に中止が決まってしまうました。私はジーバーズのほかにクリステイーナ三田さんと言う日本のラテン歌手の大御所（熱海在住）の方と「ビバ！ラティーナ」というラテンバンドで演奏させて頂いていまして、郷友会に出演させて頂く予定でした。非常に残念なコロナ騒ぎですね。

まだまだコロナ禍が静まりそうにない現在、それぞれが細心の注意を払い、感染しないよう心がけ、新しい生活様式の下で元気に暮らしていきたいと思えます。皆様も十分に留意くださいますようお願い申し上げます。

（青垣町出身／柏原高校昭和47年卒。高校時代はプラスバンド部に在籍）



撮影・岡田昌子

コロナ禍の日々で、 思い巡らしたこと

上 高子（世田谷区）



きっかけは10年以上付き合っているある中国人女性・唐さんとのコミュニケーションだった。春節で上海から山西省の実家へ帰郷中、武漢の都市封鎖から始まったステイホームの状況をメールで知らせてきたのが始まり。急ごしらえの病院建設や強権的なロックダウンのやりかたに、「こういうときは独裁的指導者が効果的なのかも」と、いささか嫌悪感を覚えながらいたところ、そのうちパンデミックを抑え込んだ中国のマスク外交が始まった。

日本のマスクメディアはこの中国のやり方に批判的で、私も、「まずはウイルスの原発になったことを認め、謝ってからにして欲しい」とメールを送った。彼女は、米大統領が、「中国起源のウイルス」と盛んに強調し

ていることに反発して、「米兵がまき散らしたウイルスという報道もある」という。情報の偏りは双方にあるとは思いますが、いずれも相手の非を責め、自分の非は認めたくない、ということだろう。

謝る、許す、という行為

わたしは「アジアの新しい風」というNPOで、日本語を専攻したアジアの大学生と関わっているが、彼らに日本文化について問われるまま、振り返り、そのつど日本再発見をしている。その中で、日本人に顕著な特徴は、すぐに「すみません」と謝ることだと気づいた。

一方中国の名門・清華大学の日本語学科の生徒たちが、交換留学の一環として、全日空でインターンシップをしたとき、研修ではまず、「お客さんにはすみませんと言おう」と教わると知る。「自己主張をキチンとするよう育てられたので、自分が悪いと思わなくても、すぐ謝る日本文化になじむのには時間がなかった」とある学生の弁が印象的だった。

親のしついで印象に残っていることといえば、私の

場合「言い訳をせずにはまず謝る」こと。成松にあった東洋電機の終業サイレン（17時）を聞き逃し、遊び惚けてしばしば帰宅が遅れると、母に「手について謝れ」と叱られ、悔しかったことを今も鮮明に思い出す。

唐さんは、「ウイルスがたとえ武漢で始まったとしても、中国人も被害者だ」と主張する。それは認めるとしても、中国政府は最初情報を隠そうとして、対策が遅れたことを謝罪せず、ウイルスを抑え込んだことを自慢げに誇ったのが、私には不満だった。そんなことを周りの人に言うのと、「外交だからね。弱みを見せたら付け込まれるから、謝罪するわけにはいかないのだろう」という反応が多かった。

米中関係は悪化の一途

7月に入って、米中はますます相手国への攻撃を強め、領事館の閉鎖をしあうなど、遣り合っている。この連鎖はいつまで続くのだろうか。

そんなことを考えているとき、テレビで南アフリカ共和国の故ネルソン・マンデラ大統領のドキュメンタリー番組を観て深く感動した。マンデラは、反アパル

トヘイトの政治犯として半生を監獄で過ごしたが、釈放されて黒人初の大統領になったとき、「白人への復讐はしない」と宣言した。報復をバネにして活動を続けてきた仲間は、そんなマンデラに初めのうちはひどく失望し不満を持ったという。

マンデラは、獄中で悟ったのだ。27年間にむさぼり読んだ世界の歴史書には、はつきり書かれている。すべてこの「復讐の連鎖」が世界の不幸を生んでいる、と。いつときの報復で満足を得ても、反撃される。やられた相手に同じ苦しみを与えることを生きる目標にし、「私の傷を思い知ったか」と得心するまで恨み続ける気持ちは、わからないでもないが、それでは連鎖は止まらない。マンデラのように、先に自からストップをかける決意と寛容さが必要なのだ。

一般論と自分の問題

こんなことを第三者の目で一般論として受け入れている者も、自分の問題はまた別なのだろう、と思うことがある。元ノートルダム清心学園理事長故渡辺和子氏は、9歳のとき、目の前で銃弾を浴びた陸軍大將を

父に持つ。『置かれた場所で咲きなさい』という著書で、人を許すことを推奨しながらも「二・二六事件は私にとつては許しの対象から外れています」とインタビューに答えている。やはり、と思った。

そういう私にも、「許せない」と思う相手があった。その時は、なんとか相手にこの悔しさを知らしめ、穴埋めを要求したいと思った。復讐心と処罰感情である。でも今は、いつときの感情に流されて関係を破局させずに来たことを、よかったと思っている。もしあの時、復讐して相手をやり込めていたら、のちのち自分の非寛容に苦しんでいただろう。



何が復讐心に歯止めをかけるのか。子供のころ通っていたキリスト教会での教え、「右の頬をぶたれたら、左の頬を」の教えが、記憶の底に残っていたのかもしれない。自尊心もあるだろう。まずは時間を稼ぐことがよいようだ。受洗者である渡辺氏はのちの二・二六事件の犯

人たちと和解したという。事件から50年後のことである。マンデラも、幼少時に親からリーダーの資質として「寛容の精神」を教えられていたが、若いころは闘争的だったとか。獄中での長い自省の年月が必要だったのだろう。

人類が減びないためには、互いに非を認め、
赦しあう関係を

次のメールでは、唐さんにこう書こう。

「自然界では、我々人類は運命共同体です。確かに中国人もウイルスの被害者ですね。日本も原発事故では津波による被害だから、世界に謝罪しなかった。お互い誰かのせいにするよりも、力を合わせ共に闘いましょう。でも中国政府は、情報を隠して最初の対応が遅れたことについては全世界に素直に謙虚に、謝ったほうが、世界は中国をもっと好感を持って受け入れるでしょう」。

（氷上町成松出身。現在npo法人アジアの新しい風
理事長代行）

〔丹波路〕

丹波の国は兵庫東部と京都府中部を占める旧国名で、山陰道八国の一つ。もとは六郡、のち七郡となり、明治以降は多紀・氷上の二郡が兵庫県に属し、他は京都府に編入された。（中略）丹波路は古代から京と山陰、日本海と瀬戸内を結ぶ要路で中世には細川氏、ついで明智光秀が統治、光秀は名領主の名を得た。（以下略）

行春や西山の辺の丹波路

丹波路や比良八荒のおすそわけ

栗飯や氷上泊りの二三日

峠見ゆ十一月のむなしさに

高浜虚子

西山泊雲

松瀬青々

細見綾子

（地名俳句歳時記 近畿編 中央公論社 昭和六十一年刊）



撮影・岡田昌子

私の職場

里山建築と茅葺きを世界へ未来へ

上野 弥智代

丹波の 民家が原風景



群建築デザインコース卒業

筑波大学芸術系技術補佐員を経て、
2004年より里山建築研究所。

筑波山麓にて里山を生かす住まいの設計に取り組み、震災復興支援、地域のまちづくりや茅葺き文化の継承と発展のための支援活動に取り組んでいる。一般社団法人日本茅葺き文化協会事務局長。一級建築士。

上野弥智代（うえの やちよ）
神戸生まれ丹波育ち。2002年筑波大学芸術専門学



国重要文化財 旧友井家住宅

ある日、筑波の事務所に手紙が届いた。そこには、1枚の美しい茅葺きの写真とともに、昨年9月に紹介していただいた丹波新聞の「ひと」欄を読んでお手紙をくださったことが書かれていた。素敵な先輩から、丹波、茅葺き、そしてこの関東水上郷友会に繋がる嬉しいお手紙だった。今年には思いもかけない世の中になり、春も夏も帰れなかった。次はいつ帰れるのかな。そんな今、ふるさと丹波に思いを馳せながら書いてみたい。

丹波の古い民家で育った。通り土間からカラカラカラと格子戸をくぐ

ると、土間には五右衛門風呂があり、板を沈めながら熱い釜に触れないようにそーっとお風呂に入った。薪をくべるのはおじいちゃん役目だった。その土間の脇には広間があり、黒く光るつるつるの柱を裸足で登ったり、広間の縦横に架かる松梁は真っ黒で、天井も高くて暗いので、それを大きな鏡に映しながらそろそろと冒険気分でする歩き、という今思えばよくわからない遊びもしていた。夏は床几を庭に出し、畑でもいできたトマトや谷川で冷やしたスイカを食べ、縁側で何かやっているおじいちゃんやよく遊んだ。座敷はお客さんの部屋だと普段はあまり入らなかったが、雷が鳴ったときには線香を焚くと落ちないと思っていたので、仏間で線香を焚き、座敷で汗だくになりながら布団をかぶって隠れていた。それが私の原風景。

神戸でプログラマとして働いていたときに、阪神淡路大震災にあった。そのことがきっかけで思うところがあり、その時理屈は分からなかったけれど、自分が育った民家を感じていた、いいなと思える木の家をつくりたい、と筑波大の建築デザインに再進学した。大学では9歳離れた同級生達と共に、極狭の宿舍に暮らし、広いキャンパスでしょっちゅう迷子になりながら授業を受け、学校に泊まり込んで課題をしたり、遊んだり、サークル活動に没頭したり。二度目の大学生活は面白いことと出逢いの連続だった。そして、木造、伝統構法の先生に出逢い、私の原点だった民家にまた深く巡りあうこととなった。

先生の専門は民家であり、建築構法。研究室では、実測調査や聞き書きに、全国各地の民家を訪ねた。そこで、民家の構法から、その材料と背景にある里山、暮らし、生業、職

人の技、そして地域性を学んでいた。研究室では、屋根、壁の構法のうち、とりわけ、茅葺き、板倉の研究に取り組んでいた。私にとって板倉はあまり馴染みのないものだった。それもそのはず、関西では戦国時代以降、森林資源の枯渇と都市化で防火の要請が高まり、木の文化から土の文化へ移行が進み、土壁や土蔵が広く普及していたからだ。その後を知る。

そんなある年の夏休み、実測の練習をしてみようと、実家で主屋と倉の実測調査をやってみた。すると！土蔵だとばかり思っていた倉は、中が板倉だったのだ。内側はそれほど厚くはないがマツの落とし板で、外側は土蔵のように土で塗り籠めてある。倉の変遷の過程で、板がだんだん薄くなり、それを土で塗り籠めたものもある、と授業で聞いたではないか。丹波は森林資源が豊富だったんだな、それもマツがあっただんだな、

そういえば母が、昔は松茸を日常的に気軽に食べていたようなことを言っていた。よく耳にしていた裏のマツタケ山つて、松林だったのか。遅ればせながらどんどん繫がってきた。すると今度は父が、座敷の天井の上に土敷いてあるん知つとつたか、と言ってきた。もちろん知らなかったが、それも、西日本では大和天井といつて、防火と断熱のために天井裏に土が載せてあるところがある、と授業で聞いたことがあった。そして破風には通気口が開けてあるとも。全てそうなっていた。

丹波の風景、民家、暮らし、自分のやっていることが、伝統に結びついていることにあらためて感銘を受けた。

大学の研究室でそんなことを学んだ私は今、恩師と研究室の仲間と一緒に、筑波山麓に里山建築研究所という設計事務所を立ち上げて、日本

の森林資源と大工技能を生かした木の家、板倉の家づくりと、茅葺き民

各地の職人さんと共に取り組んでい

録される見込みだ。

家などの保存活用に関わる仕事に勤しんでいる。近年大きな災害が続く中で、東日本大震災の際には、地域産材を生かした板倉の仮設住宅を実現することができた。そしてまた、被災地である南三陸で、自分の山の木を切つて家を再建する皆さんと、地域の職人さんと一緒に復興の家づくりを手伝えたことは、神戸の震災を機に建築を志した私にとって、大きなやりがいのある仕事であり、これからの自分の生き方が見えてきた

丹波との嬉しい繋がりには人との出逢いもある。小さい頃よく遊びにいった公園に、素晴らしい茅葺きの民家、重要文化財旧友井家住宅がある。今私は、日本茅葺き文化協会という茅葺きの全国組織の事務局長をしているが、その茅葺きの事業の中で、友井さんと出逢った。友井さんは茅葺きにもゆかりがあるが、檜皮葺きという丹波が誇る伝統技術の技能者であり、その全国組織のリーダーの1人だ。友井さんはほぼ10世代で、中学、高校が同じ。数十年経つてまた丹波と茅葺きが縁で巡りあえたことにとても驚き、また励まされた。そして大先輩の村上さんや大野さんともそこで出逢うことができた。今年、檜皮葺き、茅葺き、檜皮採取、茅採取は伝統建築工匠の技として、ユネスコ無形文化遺産に登



昨年5月に日本で開催した国際茅葺き会議で世界の茅葺き職人らと



仮設住宅の断熱材に茅を利用

ような思いでもあった。災害を乗り越える地域産材と大工技能を生かした板倉の家づくりにも仲間と

丹波という小さな地域で、檜皮葺きと茅葺きという、日本が誇る伝統技術を世界に次代に伝える人達がいる。私もその後ろに続く1人でいられることをとても誇りに思う。そして生涯を通じてこの仕事を続けることで、丹波が歴史文化を受け継ぐ豊かな地域であることの一助になれば、本当に幸せに思う。

(日本茅葺き文化協会事務局長)

俳壇……………

年齢を考へる暇も無い日々が過ぎコロナ菌の出現！ 最後の入院に致したく膝の屈伸でございませ。長男に一層迷惑をかけてをりますが良くして呉れます故感謝の日々でございます。

久呉 道子（熱海市）

大正の筋通しけり冬山河
湯の町の川添ひ豊か未央柳
令和の世大正も居て朧月
より添ひて歩く幸せ菖蒲園
五月雨の宇宙の菌の総浚ひ
清見寺九人揃ひし盆の墓
かなかなや国宝羅冠の微笑相
十六夜や月にコロナの菌不在

※

昨秋、主宰する俳句会が、米寿祝いを開いてくれた。家族の勧めで車の免許を返納した。折しも

コロナ予防の自粛生活。草取りの毎日である。

金子 徹（富士市）

— 近況七句 —

補聴器役立たず白息見ておりぬ
密かなる大嘗祭の夜富士に雪
生きてきた歳だけいっぱい咲く桜
八十八夜茶を汲みて明く令和
免許返納肩に小春日乗っけて歩く
行きたい会いたいコロナ休校春隣
戦後遙か酸っぱさも無き夏みかん

※

父が兵隊に取られてからそろそろ八十年を迎えようとしています。泥沼の中国戦線で死にました。子供五人は皆息災にしています。

坂上 勝朗（板橋区）

家籠更衣の時を失へり
勲七等父の位牌を巡る夏
鬼薊見れば売られし牛想ふ
麦扱の首のあたりの痒さかな

ほろ苦き目刺に里のいや遠く

※

丹波に住み古りて八五年。世の移り変わりを、
ひしひしと感じる昨今。農業人口も激減、母校の
全児童数も六一名とか。人口が増えて欲しい。

大野 昶（丹波市）

化石掘る鑿には優し春の雨

岩落ちて逆巻く水に春こぼれ

慈雨あびて翠鬱息を吐くごとし

見渡せばひろがる稲穂晩夏光

三尾峰のふもとの里や小豆乾す

※

私の教会生活は六月十日になりますと五十八年
になります。成松の伝導所で受洗いたしました。
感謝しています。

藤田 玲子（入間市）

花冷えや続くニュースはコロナのみ

息子の電話マスクあるかと朝の九時

教会も続けて休むコロナ禍な
説教はパソコンで聴く日曜日
家籠り今日も昨日もバナナ食む

※

恐ろしいウイルスと闘いながら六月を迎えて先
の见えない日々です。猫ちゃんの散歩時や、丹波
の頃を詠んだ句です。

木呂場 明子（八千代市）

蠟梅にも陽集まりてこころ合う

少しだけぬくもり欲しくてジャム作る

諍かひて道ある月の羨しきかな

いろ深くアネモネ咲いて風冷たし

すすき立ち間々に残りのつゆくさの青

陽を追いてそれなりに染まる冬芽かな

子を偲びまた沙羅のはな静かなり

豪雨去り光の中にシジミ蝶

痛々しいほどに蝉鳴き今日の老い

白き畑グミ光る午後幼き日

※

世界中でコロナウイルスによる感染者が出始めた二月頃感じた「恐怖」と、緊急事態宣言の解除後の今とは少しウイルスへの感じ方も変わってきたように思います。

ただ、劇場も映画館も、美術館も博物館も、動物園も、遊園地も、スポーツも中止になり、人が人に会うことさえも叶わない事が『日常』になるなんて！……

上田 道代（目黒区）

春浅く死神そこにいる気配

棺抱えコロナが走る春地球

沈丁花おもわず近寄りマスク剥ぐ

くちなしはマスク越しにもかぐわしく

コロナなどどこ吹く風の鬼薊



撮影・原谷洋美

詩座（或いは視座）……………

パンデミック

上 高子（世田谷区）

我が脳内は ド・パンデミック

寝ても覚めても 新型コロナ

テレビが届ける 世界の映像

地球丸ごと 身近になった

我が脳内は 努・パンデミック

文化比較の 国際競争

東西分ける グラフのデコボコ

フアクターX 説明しよう

我が脳内は 怒・パンデミック

ニューノーマルは 世界一様

マスク 手洗い ソーシャルディスタンス

新型コロナよ！

多様な文化 失わしめるな

歌壇……………

年をとるほど一日を短く感じます。長男と三女との同居生活ですっかり体がなまってしまいました。卒寿まで後一年、元気で迎えることが出来るでしょうか。

足立 美都子（春日部市）

田植時せき止められて満々と水嵩増した古ふる

利根川とねがわに会う

週に二度りハビリで会う友人は同じ事聞く又

かと思う

今読みしばかりの記事が思い出せぬじりじり

迫る認知症の文字

痛む膝こらえて歩く植物園その三十分はリハ

ビリとして

総入歯となりてしみじみなつかしきわが歯で

かみし食物の味

※

今までに聞いた事もないコロナに見舞われて自
粛する生活を味わった五月である。早く収束を願
うのみである。

荻野 哲男（狭山市）

マスクした誰かわからぬご婦人に会釈を交わ
し道すれ違ふ

健康でいられる事の幸せを病院にきてつくづ
く思う

秋立ちてすすきが揺れる葉の先はいつしかふ
つくら穂が色づきぬ

犬引いて朝の清しき露踏みて無言で歩く今日
の倅せ

夏はゆく秋の気配はするすると栗の実太り枝
垂れさがる

※

宅配の欠品なども多い中、息子一家三人で食品
など色々届けに二度来てくれました。丁度満開の
姫りんご、すずらん十本、あじさい等孫に見せる
ことが出来ました。いつもは、満開の時にみせた

いなあと残念だったのです。

木呂子 恵美子（清瀬市）

名も知らぬ美しい蝶庭に舞うくちなし・山椒・
何を食べてか

この身には明日の生命いのちは解らねど又咲く花を
見たしと思う

春日部の忠霊塔の石庭に三種のすみれこぼれ
咲きしを

孫の背の長き黒髪なでたきを今は「三密」と
しばし手とどめる

ただ祈るコロナなんかには負けないでー丹波の
友よ今生きる人たちよ

※

「ふるさと会」欠席通知の葉書に、一首添えさ
せていただきます。

木呂場 明子（八千代市）

文鎮の重さは筆先に残しつながら呼び込み
終とす

※

非常時となりあらためて今ある恵まれた環境に深く感謝しています。自然に励まされ、健康にも問題なく、人の和もそこそこ保っています。

山本 述子（三浦市）

藍染めの母の浴衣の袖丈直し夏祭りには弾けてみよう

横須賀のジャズフェスティバルに引き込まれ癒されゆきぬしばらく振りに

さりげなく金木犀のひと枝を手折りくるるは

氏子の媼

郷土誌の記念号届き懐かしくひと夜のうちに読みつくしたり

禍を受くる理由^{わけ}あるこの地球^{はし}をどう変へゆかユーホー見をり

※

画面を通じてでもその気魄は素晴らしい！でも悔しいかな、虚しいかな。三月二度チケットを買

い直して、でもこの目で見ることがかなわなかった舞台。

上田 道代（目黒区）

無観客の花道を行く老優にエールを贈る

YouTubeに

※

コロナに怯えながらも、スケジュールから開放されたステイホームを悪くはないかもと過しておりましたが、社会や経済の様変りには驚かされることばかりです。

田中 一美（八王子市）

コロナ禍のテレビニュースを憂えつつ外見渡せば山桜咲く

数日で身罷りたりしひとのことと思えばコロナ怖しかりし

ホウの花ハコネウツギの咲く道を距離はかりつつ歩く夕暮

家籠る日々にも馴れて戸惑ひぬもやしのようになるやもしれず

コロナ禍にまぎれるように届きたる友の訃報
に甦へる日々

※

コロナの猛威で台風十九号もかすんだ気がしま
す。当事者にとつてはそうでもないのでしょうか。
そして、今年は理由^{わけ}ありが一杯出る気もします。

福田 治子（横浜市）

爪跡というには傷が深すぎて牙でも足りぬ台

風被害

理由^{わけ}ありというならその理由^{わけ}知りたいな安く
なってるそれなりの理由^{わけ}

※

初夏へ、マスク縫いつつ。

原谷 洋美（杉並区）

満開の桜のさきの青空へこころ放てりコロナ
の鬱も

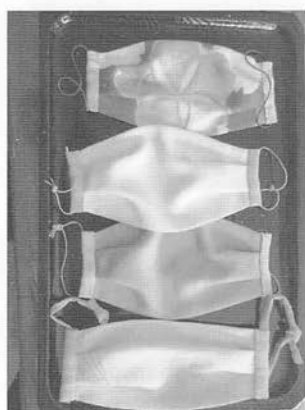
光冠と美^はしき名前を持ちてゐしコロナ淋し
春の宇宙に

堀を越え浅黄小玉のあぢさゐは水待ち風待ち
色を待ちゐる

やはらかに波打つ四角の苞ならむ山法師の白
あぢさゐ紫

針穴に糸を通せば縁側の鼻めがね越しの祖母
と目が合ふ

絹糸のきゆつと締まるる手ぎはりにこころ遊
ばす初夏のたまゆら



撮影・原谷洋美

My Gallery

レイアウト・岡吉明

阿江 麗子さん（柏原町出身）



23歳で結婚して、最初に暮らしたのは長野です。

それから主人の転勤で転々としてきましたがいつも手芸好きの人に恵まれ色々と作ってきました。そして主人の退職後新横浜で14年近く、初孫の布絵本（知育絵本）から始まり、服、アンパンマン、ドラえもん小物等作っていました。そして今は毎月第3日曜日に手芸仲間5人とランチをして情報交換し、まねをして作ったり、本を参考にして色々作っています。

My Gallery

徳田 八郎衛さん（柏原町出身）



柏原町北中橋からの小南山



柏原町荻野酒店のノウゼンカズラ



山南町谷川のコスモス



氷上町石生 高谷川岸辺



春日町東中 8月の休耕田



柏原町母坪の南天

ほとんどの道路が自動車専用道路のようになった今日、自転車では丹波市全部を回れません、少しでも郷愁を味わって頂けたら幸いです。

My Gallery

島津 和子さん（山南町出身）



高校を卒業して約60年。色々なことがありました。主人の転勤であちこちに行き、その中で何時もかたわらに手芸がありました。本を見ながらの独学で、ここ何年かは「つるし雛」作りに夢中。ひよんな事からお見せすることになりびっくりしています。今年是非常事態で家に籠っていますが、趣味の手芸に癒されています。
「コロナ禍の終息願う つるし雛」

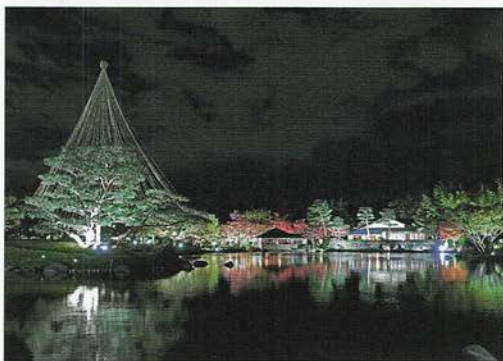
My Gallery

岡 吉明さん（柏原町出身）

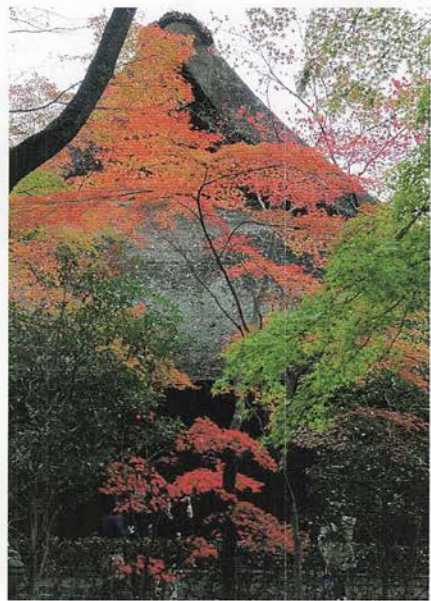


昭和記念公園（朝一番に入場 一般の方が歩く前の銀杏並木です）

平林寺



昭和記念公園・ライトアップ



東京近郊の紅葉

例年、11月下旬～12月上旬にかけて見事な色付きを見せてくれます。紅葉の名所は他に日比谷公園等色々あります。是非一度訪ねてみてください。



新宿御苑

簡単レシピ 男のレシピ

丸川宥次郎

金柑ジャム

材料

金柑 500 g

砂糖 250 g～167 g

注) 砂糖の量は一般レシピでは2分の1ですが、私は糖分を控えめにするため3分の1にしています。これより砂糖の量を少なくすると日持ちがしないので注意。

作り方



- ①金柑をよく洗います。
- ②金柑を煮ます。味見して苦いようなら15～20分苦くなければ少し柔くなるまで(市販されている物は苦くないものが多い)。
- ③冷水で冷やす。
- ④ヘタと種を取り除く。
注) ヘタと種は完全に取り除くこと。ジャムの方に入ると苦くなる。又この時金柑の中にある果汁はジャムの方に入れる。種は小さい鍋で少なめの水で20分程煮る(ペクチンを抽出するため)。
- ⑤フードプロセッサーかミキサーでペースト状にする。
この時水分が少なすぎるとペースト状に成りにくいので少し水を入れる。水の量が多いと後で煮詰めるのに時間が掛かるので注意。
- ⑥鍋にペースト状の金柑と砂糖と種を煮た煮汁を入れ火にかけて煮詰める。
火の強さは中火の弱火。火力が強いと早く出来るがこげやすく、弱いと焦げる心配は無いが時間が掛かる。

- ⑦木べらで鍋の底をまんべんなく混ぜる。手を止めると焦げるのでとにかく仕上がるまで混ぜ続ける。
すると黄色かった金柑がオレンジ色に変わる。粘度は木べらで混ぜたとき鍋の底が一瞬見えるようになるとそろそろ仕上がります。少し柔らかいようでも冷えると粘度は上がります。
- ⑧すぐに食べる分はタッパーに、長期に保存する分は瓶に詰めます。一般レシピでは瓶は煮沸消毒するようになっていますが私はしません。瓶は台所用洗剤でよく洗い水気を切り、あまり冷たい様でしたら湯煎して少し温めます。
そこへ火を止めてすぐのジャムを瓶の口一杯迄入れ直ぐ蓋をする。この時瓶の中の温度は100度近く空気も殆ど無いので、黴の胞子も腐敗菌も死滅するため、蓋を開けなければ常温で1年近く持ちます。缶詰と同じ原理です。ゼラチン等の不純物が一切入らない、食物繊維が豊富な健康的なジャムです。是非お試し下さい。

簡単レシピ 女のレシピ

大島信子

ネバネバサラダ (2~3人分)

材料：

アボガド 1/2 個

オクラ 3本

山芋 5~6cm

わさび・しょう油適量

わさびしょう油でなく

ボン酢でも

マヨネーズでもお試しください



作り方

材料を 1cm 位に切る

オクラは小口切りにする

材料を混ぜ合わせる

※この写真はネバネバサラダの基本形で、イクラは彩りの為に添えたものです。

サラダにはお好みでマグロのブツ・生ハム・スモークサーモンなどを加えて頂いても美味しくなります。

オクラ：栄養価も高く夏バテ防止や免疫力アップに効果あり。

アボカド：ナトリウム・トランス脂肪・コレステロールを含まない食品。ヘルシーで美容にもお薦め。

山芋：タンパク質やビタミンB群、同Cのほかカリウムやマグネシウムなどのミネラルも多く、高血圧の予防効果が期待できる。

《画業30周年記念》

笹倉鉄平展 ～心やすらぐ光の情景～

【会期】 2021年1月23日(土)～2月1日(月)

【場所】 上野の森美術館：東京都台東区上野公園1-2

※入館料が必要となります。(金額は2020年7月現在未定です)

※詳細に関しましては、会期近くになりましてから「笹倉鉄平ホームページ」をご確認くださいませ。<https://www.teppej.net/>



「モーゼルのぶどう畑と、笑顔になる水辺」油彩 2015年 41.0×72.7cm

〈こゝろあひかり〉

画業30年という節目を迎えられた今、深い感慨を覚えております。

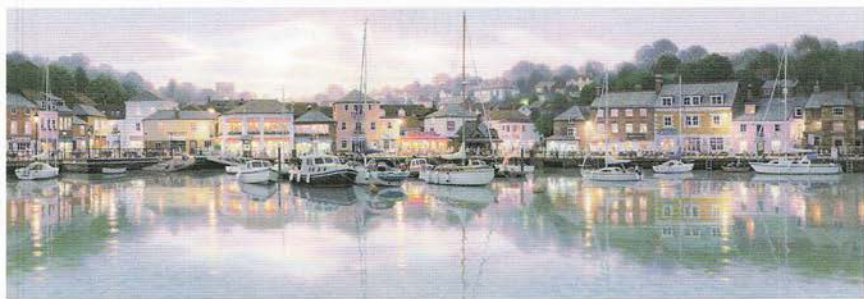
ここへと辿り着く道は、柏原高校の美術班で「描く喜び」を学んでいた日々から、紆余曲折しつつも延々と続いてきたように思います――

丹波の故郷から東京の美大へ、そして4年間デザインの勉強をして卒業後、広告業界へと進みました。そこで正に忙殺される毎日を通すうち、ストレスから胃をやられてしまい、救急車で運ばれる程に身体を壊す経験もしました。

それがきっかけとなり、「時間に追われれずに、描きたいものを描く」という道を真剣に考え続けた後、30代半ばに画家へ転向する決心をしたのでした。

そこからは出会いや運にも恵まれ、何よりも、本当に多くの方からの応援やご支援に支えられながら…無我夢中でここまで走り続けてきたように思います。

画家になって、一番うれしく感じておりますのが、自分の絵を観た方々から頂く「安らぎをもらった」「温



「両手ひろげて」油彩 2017年 65.0×181.0cm



「クリスマス・タウン」油彩 2011年 27.3×91.0cm

かく優しい気持ちになる」「光に希望を感じる」「心に沁みる」等々のお声です。

絵をご覧頂いて、そんな風に「また明日から頑張ろう」と感じて頂けるということに、絵描きとしての喜びや、少しはお役にたてている——という意義深さも実感するからです。そして、逆にそこから、自身が苦しかった時に乗り越えるパワーをもらってきたのだと気づき、感謝の気持ちでいっぱいになります。

また、「行ったこともない外国の風景なのに、懐かしさを感じる」といったお言葉もよく頂きます。これは、幼少期〜多感な少年時代を過ごした故郷丹波で得た、のんびり心が解放されるような感覚と郷愁とが結びつき、僕の心のどこかに常に息づいていて…絵の中に宿るから、ではないかと確信しています。それは、帰省する度に感じた感覚でもあります。

そのことを思うにつけ、こうして毎号表紙に僕の絵を掲載して下さったり、展覧会へいらして頂いたり…等、応援をして下さる同郷の皆さまと、ふるさとの地への深い感謝も、改めて沸いて参る次第です。



「日の出・富士・印象」油彩 2020年 162.0×65.0cm



「僕とポピーと秘密の店」
油彩 2012年 31.8×41.0cm



「オンネア」油彩 2016年 33.3×60.6cm

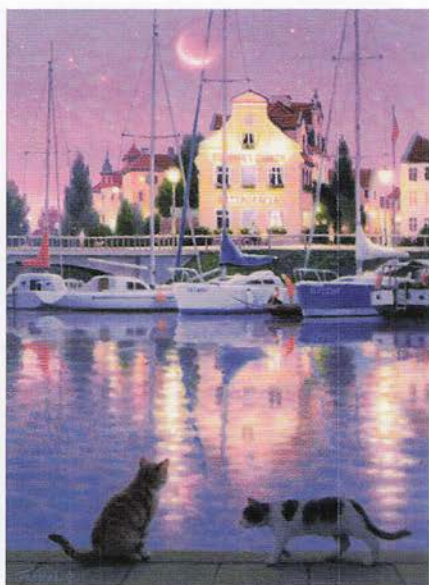
30年という長い年月、支えて下さった沢山の方々への御礼の想いと節目を、何か形にしたいと思っておりました。それが、これまでで最も大きな展覧会として、年明け1月末から「上野の森美術館」にて開催を予定しております「画業30周年記念展」です。

ところが、予想だにできなかったこのコロナ禍で、大手を振って「是非いらして下さい」と言いづらい状況になってしまい、大変複雑な心境です。一度は、中止せざるを得ないのか…と悩みもしました。しかし、多くの方が苦渋や忍耐を強いられる鬱屈した状況下で、少しでも暗い空気をやわらげらるよう、絵を観て楽しんで頂く機会を設けることこそ、アーティストの仕事として大切なことだと思ひ直しました。

幸いにも、この美術館は天井も高く空間も広々としておりますので、感染対策下での鑑賞環境としては良い方でないかと思うのですが…。感染状況による折々の情勢などによって、会期直前までやきもきと気になる状況は続くのでしょうか。



「ゆっくり流れてゆく」
油彩 2017年 33.3×24.2cm



「ゆっくり過ぎてゆく」
油彩 2017年 33.3×24.2cm



「暖簾をくぐって」油彩
2014年 91.0×35.0cm

画家／笹倉鉄平
1954年生まれ。県立柏原高等学校、武蔵野美術大学商業デザイン科を卒業。グラフィックデザイナーを経て、イラストレーターとなり、主に森永製菓のパッケージイラスト（200点以上）を10年にわたり描く。
毎日新聞カラー別刷り版裏表紙に、ドイツ、フランスの風景画を連載の後、'90年より画家としての制作活動に専心し、以後200作品を超える版画を発表、画集、DVD作品集なども刊行され、好評を博している。
'91年以降、全国有名百貨店での個展開催多数。2004年、'05年、イタリアにて、'06年、北京にて、'08年、パリにて展覧会を開催。
'15年、「京都・フィレンツェ姉妹都市提携50周年記念事業」の一環として、両市後援のもと、京都、フィレンツェそれぞれにおいて個展を開催。

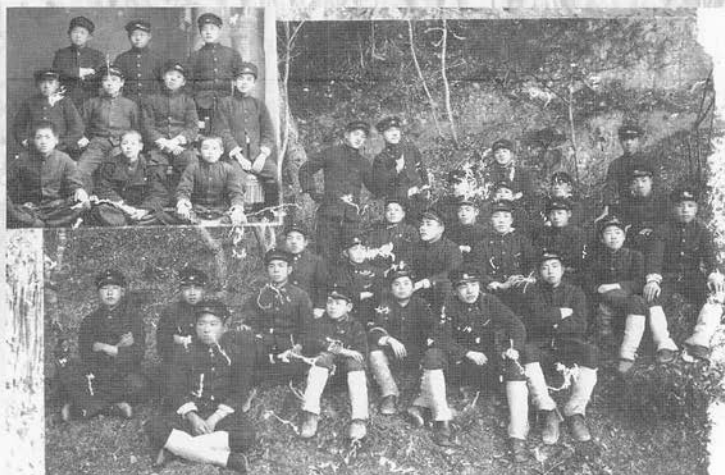
それでも、芸術の持つ「人々の心に希望をもたらす力」を信じて、前を向いて開催の日を迎えたいと思っております。

笹倉鉄平

丹波を撮る

写真と文：徳田八郎衛

変わる丹波変わらぬ丹波(1) 明治時代の柏原中学生 1



↑明治42年3月15日、柏原中学校校西学友団（旧新井村・氷上町区域・青垣町区域）の第8回生（久郷節太郎・沼貫、松尾林之亮・成松、藤井義勝・美囊郡淡河、村山重治・沼貫、能勢啓治・新井の6名）送別会。何らかの理由で参加できなかった下級生は別途集まって撮影している。美囊郡淡河は今の神戸市北区である。



↑明治43年3月、同じく校西学友団の第9回生送別会。2列目右から二人おいて村弘三・佐用郡三日月、安孫子義治・成松、徳田富二・新井。第9回生数名が欠けている。

変わる丹波変わらぬ丹波(2) 明治時代の柏原中学生 2



↑明治42年12月24日、夏に繰り上げ卒業して兵学校へ進んだ大西瀧治郎生徒が正月休暇で帰省。迎える第9回生有志と岡林依水軒で記念撮影。前列右から小寺誠太・芦田、草別謙次・多可郡野間谷、大西・芦田、阪東國雄・吉見、後列右から岡本周平・多可郡比延庄、徳田富二・新井、鯉田太市・神崎郡船津、列外右から矢持義雄・大路、山口新之助・葛野



↑明治43年3月、寄宿舎生活を終える第9回生7名。前列右から栗市春治・生野、福井勇藏・福岡県、村田稔・印南郡東志方、芝忠夫・飾磨郡城北、後列右から小寺辰次・芦田、野口壮一・神戸市、橋本卯一郎・加東郡上東条。

丹波を撮る

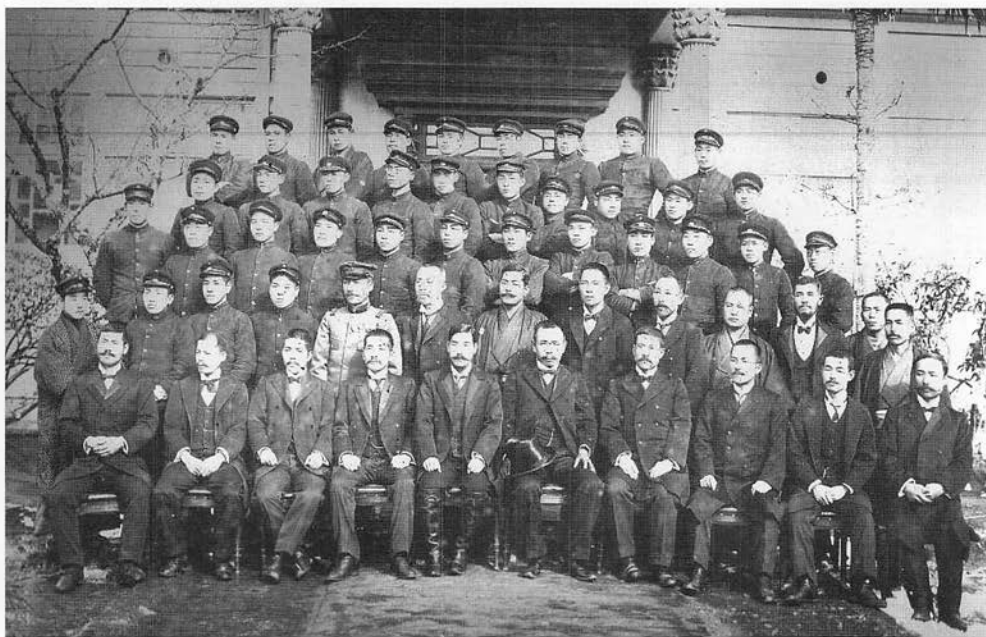
変わる丹波変わらぬ丹波(3) 明治時代の柏原中学生 3



←第9回生徳田富二が描いた同級生のクロッキ一。目鼻立ちが前頁に登場する大西瀧治郎生徒に似ている。この二人は親友でもあった。

卒業式が近づくと、在校生たちは4年生を中心に「振武館」と呼ばれる屋内体操場で卒業生送別会を2時間もかけて実施している。手品師や漫才師も登場する。「二君とも馬鹿に僕らをほめたてた。皮肉られたような、すまないような気がする。」という正直な5年生の寄稿も見られる。

↓明治43年3月26日、第9回生36名（入学時は66名）の卒業写真。校長は同38年10月に姫路中学校校長より転任した大石誠一。36名のうち20名が旧氷上郡外の出身である。



変わる丹波変わらぬ丹波(4) 明治時代の柏原中学生 4



←第9回生徳田富二が描いた理科・動物の観察記。ファープルの「昆虫記」さながら、解説ではなく先ず観察から導入したもようで、植物についても同様の観察記を残している。

↓教師2名に引率された第9回生（2クラスのうちの1クラス）が野外教育を受けている。2年生あるいは3年生の動植物授業であろうか。未だ明治時代であるのに卒業記念写真以外にも度々写真撮影が行われているのは驚きである。



丹波を撮る

変わる丹波変わらぬ丹波(5) ちょっと寂しい厄除祭



アミューズメントが満ち溢れている今日、昔の栄華と比べるのは酷であるが、厄除さんは寂しくなった。「授業なんかよりも地域の伝統行事の方が大切だ」という乱暴な理由で（そうとしか思えない）中学校の授業から引き抜かれて参道の交通整理に奉仕したが、モミクチャにされ生命の危険を感じた、と今の中学生に話しても信じてくれない。今は案内ボランティアの方が参詣者よりも多いのだ。



その代わりに、手品や香具師に代って、このようなパフォーマンスが登場。



変わる丹波変わらぬ丹波(6) 黒井の町の二つの話題



←黒井城址（保月城址）への登山客急増で山肌が荒れるのに困った丹波市が「金属の登山道」を設置したところ、情緒が消えると悪評ふんぶん。人も豪雨も増える一方だから、やむをえないのでは？

↓2020年1月5日、2年ぶりに全日本バレーボール高校選手権大会に出場した氷上高校女子バレーボール部は、1回戦で福井工大福井高校と対戦したが惜敗した。出発前の全員写真（丹波新聞社提供）。



丹波黒豆が日本農業遺産
申請へ

丹波の黒豆は世界一大粒の黒豆。煮ても皮が破れにくく、漆黒の色艶、芳醇な香りが売り。江戸時代中期から「くろ豆は丹州笹山の名物」と書物にも記され、名物だった。だから歴史は300年以上に及ぶ。丹波には高い山がなく、水が不足がち。その乾田を利用して栽培したのが始まりだ。

その丹波黒豆は日本農業遺産を目指している。農業遺産とは、長年、継承されてきた独自の農林水産業と関わる文化・景観などのシステムを認定するもの。助成金の支払いはないが、農家の人々を勇気づけられれば、いと市では認定を目指している。

丹波焼きがオリピック
記念品のひとつに選定

丹波焼きは平安末期に始まり、

800年以上の歴史を誇る。「日本六古窯」のひとつ。今でも50軒ほどの窯元があり、日本遺産に選ばれる大きな要因になった。しかし、戦争中には地雷製造の役割を担われた。陶器は耐酸性が高いことに起因する。そんな地雷が登り窯跡で発見され、篠山市今田支所に保管されている。

そんな悲しい歴史を刻む一方、明るいニュースも。丹波焼きが東京オリピック大会関係者に贈る記念品95品の中に選ばれたのだ。丹波焼の杯がオリジナルデザインの風呂敷に包まれて贈呈される。東京オリピック、ぜひとも実施してほしいですね。

丹波・青垣町がまたもや
映画のロケ地に

2018年に映画「恐竜の詩」が丹波・青垣をロケ地に製作されたことは先に紹介した。今度は丹波・青垣町の江古花園

をロケ地に映画製作が行われている。戦後間もない頃に起きた紙幣偽造事件を題材にした「二七札」（仮題）。監督はキム兄の愛称で親しまれている木村祐一さん。出演は段田安則さんや板倉俊之さんなど。丹波の風景は時代設定の昭和25年にふさわしいかららしい（笑）。

新型コロナウィルスで
丹波に釣りブーム？

新型コロナウィルスのために、丹波ではちよつとした釣りブームが起きているようだ。地元釣具店の話によると、四月に入ってから例年よりも客数が増加し、休校のお陰でファミリー層の客が増えたという。釣りはソーシャル・ディスタンス確保にはもってこいのレジャー。日本海に釣りに行く途中に買

つていく阪神方面からのお客も多いという。確かに他人と距離を保つには釣りがいいのかも。丹波では釣りブーム

丹波がプロレスの聖地に
なるか？

社会人レスラーで組織する「丹波プロレス」(TAMBA CARNIVAL)が2020年6月に丹波市の前山小学校体育館で開かれ初代丹波プロレス王者を決めた。社会人レスラーなので、みんな平日は仕事を待つ。週末だけ神戸や奈良、和歌山などから丹波に駆けつけてありがとう！ですね。

何足も靴を盗む困った来
たキツネ

時々テレビでも放映されるが、今年もまた狐の仕業がテレビで放映された。春日町黒井では野生のキツネが軒先にある靴を盗み、ねぐらに持ち帰るといふ珍事が続いている。その数200足。専門家によると餌と靴を間違えているらしい。また来年もテレビに流れるかも！

丹波から

撮影：徳田八郎衛 大岡橋から下流を見る

丹波風土への思い

柳川 拓三（丹波市）



「ふるさと」その言葉の響きに、人は懐かしさと温もりを感じる。それは幼少期を回顧した時の祖父母、両親、兄弟、先生、竹馬の友を思う感情に何故かよく似ている。人は生まれ育った環境に支配され成長していく。とりわけ四季の移り変わりを肌で感じながら自然に抱かれて暮らす田舎育ちの人間にとって、ふるさとの自然に対する郷愁は感慨深いものがある。宇宙という途方もない空間に広がる銀河系の太陽系に属する「地球」と名付けられた星。その中に「日本」という島国がある。南北に長く、山林が七五%を占めるその国土の中で、人々は幾歳月にわたる経験から、英知によりその土地に適合した営みを繰り返し広げてきた。先祖代々受け継がれている「風習」には、その営みに対する祈りが込められている。「風習」「風

格」「家風」「社風」「風物詩」「風合い」と言った言葉の『風』とは永年の間に培われたものであり、良く似合っていることを意味する。では『風土』とは…。

「永年の歳月に培われ、そこに染み付いたもの」と言う意味であろう。地球と言う星の中に「日本」と言う感性豊かな伝統文化の麗しき国の風土がある。日本と言う国の中に「丹波」と言う美味し産物を育む誇り高き地域の風土がある。そして丹波と言う地域の中に「夢の里やながわ」と言う丹波に生まれ丹波と共に生きる店の風土がある。

「風」が季節^{とき}を運び「土」が生命^{いのち}を育む営みは、その自然の中で繰り広げられ夢はその『風土』の中で、歳月^{とき}を越え駆け巡る『丹波風土』

この文章は弊社が平成二五年三月に「夢の里やながわ本店」を開業した時に『丹波風土』というロゴを作りその思いを記したものである。智能が生み出す新文明の開化と時空を超えたグローバル化の進展により、永年に亘って培われてきた有形無形の様々な風土は風化し過去のものとして姿を消していくことが懸念され

る。食文化に込められた願いの文化、おもてなしの文化等を書き綴ってみた。

「身土不二」の教え

大昔、道も無く、車も無く、情報も無かった時代を考えてみますと、生きる為に、その土地に生息する動植物を食していたと思われれます。そしてやがて土を耕し作物を育て、狩猟で得た魚や野生動物を食する自給自足の生活が始まります。質素な食物を生きる為の糧とし、子供を育て、亡くなれば、土葬として埋葬されて生涯を閉じたものと思われれます。

人は生まれ育ったその地に育まれた生命（動植物）を食する事により生かされ、子孫を繋ぎ亡くなれば土に還ったのです。『身土不二』とは自分の身体とその生まれ育った土地は一体のものだと言う教えです。

又「三里四方」と言う言葉があります。生まれた場所の「三里」つまり十二km四方の産物を食するのが自分の身体には最も適していると言う考え方で、日本人がその土地に定住して暮らす農耕民族であったからこそ生まれた考え方で、日本人が自然との共生を図って



れんげ祭り会場

きた証です。日本国内でも旅に出て水が合わずにお腹を壊したとか、ジンマシンが出たと言う話を聞きますが、生まれて幼少期を過ごした自然環境が最も良いのかも知れません。

『地産地消』の教えも基本はその土地で生産されたものをその土地で消費するのが、身体には最も良いということですよ。

『薬食同源』と言う言葉もあります。「薬で治療するのも、良い食品を食べるのも源は同じである」と言う考え方で、「生命力薬効」と言えます。つまり生命力の宿るできるだけ新鮮な食物を摂るのが理想の食生活だといえます。

又、日本は四季のある国として旬の産物が豊富にあります。自然の摂理の中で、自然の営みにより産した旬の動植物は、最も味・栄養価とも優れています。人工的に年中生産される時代背景にあり、旬

が見失われていますが、季節を味わう贅沢は、心身ともに良薬といえます。

「端午の節句」「桃の節句」に込める願い

柏餅に使う柏の葉には意味があります。柏の木は落葉樹ですが、冬でも落葉せずに葉を付けています。普通の落葉樹は落葉して、後に新芽が吹いてきますが、柏の葉は新芽が芽吹くのを見届けて落葉するのです。つまり、子孫が途絶えないようにと、子供の成長を守る親の願いを込め柏の葉を使っているのです。

又桃の節句の菱餅にも意味があり順番があります。三色ある中で、一番下は緑で春先の新緑を、二段目は白で残雪を、そして一番上はピンクで桃の花を現しています。それと共に緑色は食物を現し健康に対する願いが込められ、二段目の白は清浄を、一番上のピンク色は魔除けを意味しています。女の子のすくすくとした成長を菱餅に込めているのです。

秋祭りに込める思い

秋祭りの多くは五穀豊穣に感謝する収穫祭で、神輿に神様をのせ、練り歩きます。

現在は作物の品種改良が進み、栽培技術も研究され、機械化による省力化も図られてきました。又、気象衛星からの情報をコンピュータが分析し数日先の天気予報が正確に得られる世の中になりました。現在はこのような恵まれた状況にあります。大昔は、人力で一生懸命作った産物が収穫直前に、予期せぬ台風で壊滅状態になったこともあるでしょう。人々は荒れ狂う状況を神の怒りとして、神社を建立し、神様に祈りを捧げ、崇め奉ったものと思われず。全国各地で又百貨店やスーパーでも収穫祭として催しが繰り広げられますが、大切な事が忘れられているように思います。それは『感謝』の気持ちです。現在のように食すること苦勞しなくなった飽食の時代背景の中で、希薄になった生きていくための食に対する『感謝』の気持ちを呼び起こす収穫感謝祭であつて欲しいものです。

「いただきます」の意味

私たちの生命は、数知れない先祖様のご縁により、天から賦与されたものであり、生きて行く上でも、多くのご縁に支えられ生まれ、生かされています。又、

人は生きていく中で、多くの命を頂いて生かされています。水は別にして、食しているものは全て、元々命があつたものです。私たちはその生命を食べて生まれ生きています。つまり多くの動植物の生命を頂く事への感謝を込めて「いただきます」と手を合わせるのです。ご仏壇やお墓で、ご先祖様に手を合わせるのも、私と言う生命を授けて頂いた事への感謝の気持ちなのです。又、神社で手を合わせるのも、神様に見守られ生かされている事への感謝の気持ちなのです。人類の物質文明の進展により、「人間が欲する目に見えるものは手に入れてきた反面、目に見えない大切なものを失つた」と言われます。手を合わせる日本の文化を取り戻したいものです。

山紫水明の国「日本」

日本には中国から仏教の伝来とともに伝わったものが沢山ありますが、緑茶もその一つです。緑茶は平安初期に最澄・空海が種子を持ち帰つたとされています。そして鎌倉時代に栄西禅師によつて書かれた「喫茶養生記」には「茶は養生の仙薬なり。延命の妙術なり」

と記され、「朝茶は七里帰つてでも飲め」との諺があるように、それくらい一日の始まりにお茶を飲むことは良いとされています。

そのお茶は製法により紅茶（発酵茶）・ウーロン茶（半発酵茶）・緑茶（不発酵茶）に分類されます。これには国々の気候風土が大きく関与しています。大陸では水が硬水のため緑茶は不向きで、紅茶やウーロン茶のような発酵させたお茶として製造されます。硬水では自然の味わいを求める緑茶は不向きなのです。一方、緑茶は発酵させた紅茶やウーロン茶に比べて、蒸す事により発酵を止め、自然に最も近い状態を残して製造



新芽茶園

したもので、非常に味わいも繊細なものです。これは日本の気候風土と日本文化、感性豊かで繊細な国民気質が、独自の「日本茶」と言わしめる緑茶の世界を生み出したものです。葉として渡ってきた緑茶の原形は、蒸

して揉むという製造技術を確立し、生活の中にとけ込み、食事のお茶、おもてなしのお茶、嗜好品としてのお茶に発展していきます。更には遮光した茶葉を石臼で挽いた抹茶を生み出し、茶道と言う作法を通じて人の道を説いた茶人としての独特の文化を築いていきます。それと共に、緑茶や抹茶を楽しむために急須や陶器、抹茶茶碗、又鉄ビンや茶せん、炭といった付随した伝統工芸品も生まれました。

2013年に「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。これは日本人の自然を尊ぶと言う伝統的食文化が評価されたものですが、ここにも日本人の感性と素晴らしい水が大きく関与しています。「季節を表現し、出汁をとり素材の持ち味を引き出す」といった料理の手法だけではなく、和食の料理人を支える人々や素材、器（生産者・漁師・ダシ昆布・鯉節・干し椎茸・醤油・みりん・陶器・漆器等）も大きな認定要因になったようです。「洋食」は点であり、「和食」は点を繋いだ線であり、自然との共生の文化であると評価されたこともうなずけます。日本茶や和食だけではなく日本には様々な伝統古来の素晴らしい食文

化がありますが、それらは全て山紫水明の国の貴重な遺産、日本人の気質として、今後どの様な文明社会が訪れようと、シッカリ受け継いでいきたいものです。

日本人の遺伝子

東日本大震災の後、被災した人々が配給の水に並ぶ行動に世界各国から称賛の声が寄せられました。日本人にとって、あたり前の行動が他国では信じ難い光景だったのです。その国民性、美德は日本人の気質として今なお脈々と受け継がれているようです。

1549年に日本を訪れたフランシスコ・ザビエルが「日本人より優る国民は見当たらない」と評し、第二次世界大戦で日本の敗戦が色濃くなった時、かつて駐日大使を務めた対戦相手のフランス人が「世界でどうしても生き残ってほしい民族をあげるとしたら、それは日本人だ」と言ったそうです。

日本国家の未来を見つめる時、日本人の遺伝子の中に組み込まれた目に見えない美德が、言葉となり行動となり、日本人らしい様々な文化を生み出していくことを願っています。

追記

縁尋機妙えんじんきみょう

実践の哲学者森信三先生の言葉に「人は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず一瞬遅すぎない時に」とあります。そして陽明学者の安岡正篤師が遺された言葉に「縁尋機妙」があります。これは「良い縁が更に良い縁を尋ねて発展していく様は誠に妙なるものがある」ということです。

私は春日局没後375年の時を経て、正にこの言葉を嘯みしめる体験をすることになりました。



春日の局の生誕地とされる丹波市春日町の興禪寺山門

私の生まれた丹波市春日町は明智光秀の重臣齋藤利三の娘（幼少名お福）で、後に徳川三代將軍家光の乳母となり、大奥の制度を築いた春日局の生誕の地です。そして弊社は丹波の特産品の加工業とその加工品を使った和洋菓子の製造販売を丹波市にある店舗「夢の里やながわ」で営んでいます。



店内風景・商品など



丹波風土 東京春日店

何時の日か東京市場に丹波のコンセプトショップを構えたいと思っていました。そして出店場所を検討するにあたっては、「何故ここに出店したのか」という明確な選定理由を第一義にしたいと考えていました。

そのような折に「東京に春日通りがある」との情報を得て、2017年5月初めに東京都文京区に向き観光案内所で、春日局のお墓がある春日通りに面した麟祥院を教えてください。早急に足を運びました。ひっそりと

した境内の奥まった場所にひと際存在感を有したそのお墓がありました。参拝しての帰り道、山門の所で頭に手ぬぐいをした職人風の方が作業をしておられ「こちらのパンフレットはありませんか」と尋ねたところ、中に入って取ってきてくださいました。「春日局の生誕の地丹波市春日町から来ました」と言うのと至極驚かれたのですが、その方が麟祥院の住職矢野宗欽様だったのです。もしもその時にお会いしていなければ、その後の状況は変わっていたかもしれません。中に通じていただきお話しを伺い驚くべき因縁を知ることになります。

矢野住職は前年の10月14日（春日局の命日）に途絶えていた春日忌を約100年振りに復活されたそうです。そして「春日局が生まれた所がどのような場所なのか行ってみよう」ということで、奥様と11月に丹波市春日町にお越しになっています。春日局が生まれた興禅寺に行かれ帰りに道の駅「丹波おぼあちゃんの里」で丹波黒大豆のお菓子「お福豆」を購入して帰られたそうです。実はその「お福豆」は1989年NHKの大河ドラマ「春日局」が放映された時、3歳まで



東京文京区・麟祥院の春日の局の墓

2018年9月春日局が祀つてある

この地で過ごしたとされる春日局の幼少名をとつて弊社が商品化、製造したものです。
矢野ご夫妻が来丹されたその半年後、私はまるで使者としてそのご縁の糸に手繰り寄せられるように麟祥院様にお伺いしていたことになりました。その後懇意にしていただき、その年に開催された第2回目の春日忌法要から参加し、参列された方々に丹波黒大豆の枝豆等を持参、販売させていただいています。

「出世稲荷神社」の近く、春日通りに面した場所に念願の「丹波風土東京春日店」を開店しました。弊社の店舗ではありませんが丹波のコンセプトショップとして、又春日局生誕の地と眠る地を結ぶ役割を担っていききたいと考えています。

麟祥院様との出会いから波

紋が広がるようにご縁は広がり、湯島天満宮の押見宮司様、周辺地域の名士の方々、更には文京区の区長様にもお出会いすることができました。又麟祥院様と興禅寺様の交流も始まり、麟祥院様に関わりのある方々が丹波市春日町にご訪問いただき、矢野住職様には黒井城祭りの武者行列にも参加していただきました。

2016年10月14日約100年振りに再開された春日忌法要。春日局様のお導きにより広まっていく良縁の輪。森信三先生の言葉と共に「縁尋機妙」の妙味を実感せずにはいられません。今後どのような時代が訪れようと、科学の力では解明できない何かによつて掌られているものがある。私はこの度の経験から日本という風土の中に宿っている神秘的な力を感じるのです。
(1954年丹波市生まれ。1993年株式会社やながわ代表取締役就任。2005年春日ふるさと振興株式会社代表取締役就任。2005年10月夢の里やながわ開業。2008年4月道の駅丹波おばあちゃんの里開業。2013年3月夢の里やながわ新装オープン丹波市観光協会会長)

丹波ブランド紹介

その11 丹波の特産「トウキ」

大学連携で新しい風

トウキ葉を食品に

お茶で髪が黒くなる?!

古西 純

(丹波新聞社)

丹波市山南町和田にある「薬草薬樹公園リフレッシュ館丹波の湯」。私はこのお風呂がある和田校区に住んでおり、たまに家族で訪れてほっこりさせてもらっている。地元で栽培された薬草「トウキ（当帰）」の葉を使った薬草風呂がこの施設の「顔」。トウキ葉はセロリのような独特の香りがあり、苦手な人もいるかもしれないが、私は好きだ。今回は、「山ざる」編集部の依頼により、山南地域で特産化をめざしているトウキについてお伝えしたい。

トウキは、セリ科シシウド属の多年草。「根」が、



ポット販売された「丹波当帰」の苗（ウエルネスサプライ社提供）

漢方薬として用いられ、「当帰芍薬散」などの薬が知られている。また、漢方薬ではない「葉」にも、血行を促進し、体を温める成分があるとして、「丹波の湯」でも入浴剤に使われてきた。

「丹波の湯」を丹波市から指定管理受託している株式会社ウエルネスサプライの垣田善之さんによると、「トウキは冷え性にも効果があるとされ、特に女性に人気がある薬草」という。

もともと、山南町和田地域は、江戸時代から続く薬草栽培の歴史がある。同地域での薬草栽培は、1840年（天保11）に、桑樹の間作として「オウレン」が導入されたのが始まりという。オウレンは一時、全国90%以上のシェアを持つほど栽培がさかんだったが、残念ながら現在は生産者がいな

丹波ブランド紹介



オープン20年の「リフレッシュ館丹波の湯」



リフレッシュ館の加工施設で乾燥されたトウキ葉（ウエルネスサプライ社提供）

くなっている。

トウキを栽培し始めたのは、1988年（平成元）。オウレンに代わる新しい特産を探していた葉草組合の役員らが目を付けたのがトウキだった。

2000年（平成12）にはリフレッシュ館がオープンし、併設の処理加工施設で葉の乾燥ができるようになった。葉は入浴剤として商品化され、需要が増えていったが、生産者の高齢化が進むと、トウキもまたもや先細りつつあった。

こうした状況に“転



独特の香りがある「トウキの湯」。乾燥トウキ葉が使われている（ウエルネスサプライ社提供）

機”をもたらしたのは、兵庫医療大学（神戸市中央区）との連携だった。

丹波市、兵庫県医療大学は2015年、「葉草振興の連携活動に関する協定書」を締結

これを基盤に、同大学薬学部チーム「薬活オウルズ」が、葉草葉樹公園に拠点を置いたプロジェクトをスタート。地元の「山南町葉草組合トウキ生産部会」や「ふるさと和田振興会」と連携し、地域振興の視点も取り入れながら、トウキの栽培と活用の研究が進められることになった。

プロジェクトでは、2012年（平成24）の法改正で、食用に使うことが可能になった「トウキの葉」に着目。地元企業と“コラボ”してトウキ葉を使った食品の開発を進め、「パン」・「塩」（葉草葉樹公園）、「う



「丹波の湯」で販売されているトウキ葉を使った
地元商品

エクトも昨年か
ら始まった。収
穫した葉は組合
で買い取り、児
童会の収入にも
なった。
さらに、ブラ
ンド化を進めよ
うと、昨年、山
南地域で栽培さ
れるトウキを

どん」(丹波製麺所)、「せんべい」(いづみみや製菓)、「新
葉茶」(クラモト)などが次々と誕生した。
また、商品開発を進めるなかで、そもそも生産者の
減少でトウキ葉が十分に確保できないという課題が出
てきたため、大学と農家が一緒に栽培にも取り組むこ
とに。昨年からは、生産部会と大学が共同ほ場で苗づく
りをしている。

「葉が足りないのなら、地域の人にも協力してもら
おう」と、小学校を通じて家庭に苗を配布するプロジ

「丹波当帰」の名前で販売することに。今年は、和田
振興会として初めて「丹波当帰」のポット苗を200
個販売し、遠方から買いに来ってくれた人もあったとい
う。

こうした動きの中、4年ほど前には8人まで減って
しまったトウキ生産部会の農家が、今年は15人にまで
増加。しかも、今までのいなかった30—40歳代の若手が
3人もいるという。



昔の葉関係の道具などが並びフレッシュ館内
の展示コーナー

同生産部会の後藤康介さん(64) 〓山南町井原〓は、

「私が一番下だった
が、若い人が3人も
入ってくれた」と喜
びつつ、「トウキは
まだ産地といえるほ
どの栽培量ではない。
人数が多くなっても
売れるよう、まずは
需要を固めていきたく
い」と話している。
また、和田小学校



トウキ生産部会との合同ほ場で草引きをする兵庫医療大学薬学部の学生たち

「ば」と期待する。過疎地での大学連携は、さまざまな面で良い影響を与えているように見える。

同大薬学部の石崎真紀子研究員から面白い話を聞いた。「トウキの葉にも含まれているアデノシンという薬効成分は、血管拡張作用があり、冷え性や肩こりに効果があることが分かっています。2年前に、トウキ葉のお茶を約30人の高齢者に3カ月間毎日飲んでもらったところ、『髪の毛が黒くなった』という人もいた

の4年生児童が、毎年、兵庫医療大学を訪れる交流も続いてきた。ふるさと和田振興会の有田豊会長は「大学との交流で、子どもたちが薬草に詳しくなった。薬草に興味を持ち、地元に戻ってくるきっかけにもなれ



和田地域づくりセンター駐車場の花壇で栽培されているトウキ。左はトウキ生産部会の後藤さん、右は有田自治振興会長

んです。検証してみないと分かりませんが、毛細血管が広がることで、もしかしたらアミノ酸の吸収量が上がったのかもしれない」。

…これは、若白髪と肩こりによる頭痛もちの夫の助け舟かも。さっそく「丹波の湯」へ買いに行こう。

芦田均翁と憲法第9条に 込められた平和希求の信念

足立敏 晤（茅ヶ崎市）



第1 はじめに

1 故・芦田均翁の幼少期
歴史に残る有名・著名人が語られるときは、必ず出身地（生誕地）がどこであるか述べられるが、故・芦田均翁（以下、「芦田均」という）は、丹波国天田郡中六人部村宮（現・福知山市宮）に生を受けた。父・鹿之助、母・しげは、三男三女をもうけ、均は五番目の次男であった。

芦田均は、5歳の時ジフテリアに罹った。当時は、難病で看病していた母・しげまで感染し、それにとどまらず、姉の「はる」「よし」もジフテリアに冒された。懸命の治療にもかかわらず、母・しげ（31歳）、姉2人も相次いで死んでしまった。はじめに罹患したのは、均であるのにその本人が助かり、母と姉たちが死んでしまったことに後ろめたさを感じ、3つもの棺が家の



父・鹿之助、兄・治一（写真前列）と。明治42年2月9日。

門から出て行くのを見るのは耐えられず、父の後ろに隠れて涙を流しながら手を合わせた。

2 芦田均の少年期と柏原との縁

中六人部村の小学校に通ったが、高等小学校に入る時になって、均は生家を離れ、亡母の出身地・兵庫県水上郡柏原町（現・丹波市）にある「崇広高等小学校」に進学した。織田藩の大庄屋を務めた旧家である「小谷幸」の家へ預けられた。継母・寿美は子だくさんで均への躰が出来ないのを知った父・鹿之助の配慮によるものであった。均の経歴の上で初めて「柏原」の地との深いつながりが出来た。小谷家の女主人「幸」は、



均時代の母夫人、明治44年元旦（16歳）。



一高広高等小学校後列右が均田、明治49年9月12日。



第47代内閣総理大臣
芦田均

ぜられた。外交官生活
を続けるうち、戦
前の軍部の台頭に危
機感を抱き、政治家
への転身を考えるよ
うになった。昭和7

しつかり者の老女で、規律正しい生活を教え込み、均
は毎日決まった時間きちんと勉強するようになり、「時
間の大切なこと」もこの時、身に付けた。「崇広高等
小学校」の2年を終えて、引き続き旧制・柏原中学（現・
柏原高校）へ入学し、中学の5年間も小谷幸の薫陶を
受け、この時期が人間形成の上で意義ある日々であつ
たと申して差し支えない。

第2 旧制・第一高校入学時から始まった外交官から
政治家への道

明治37年には、長じて旧制・第一高校（東京）に入学
し、弁論部で活躍したが、元衆院議員の父・鹿之助の
血を引き弁論に賭ける情熱は並々ならぬものがあつた。
明治40年、東京帝国大学法学部に入學し、大正元年
東京帝大を卒業し、在学中に合格していた外交官及び
領事官試験により同年8月、露国在勤の外交官補に任

年2月外交官を辞して、衆院議員に当選し政治家の道
を歩み出した（45歳）。

戦後、幣原内閣の厚生大臣、片山内閣の副総理兼外
務大臣を歴任し、昭和23年3月10日には、第47代内閣
総理大臣に就任した。同年10月15日昭和電工事件によ
り総辞職の止むなきに至り、在任期間は7か月余の短
命に終わった。昭和電工事件は、その後、東京高裁で
無罪が確定した。

芦田均は、但馬出身の「衆院議員・斎藤隆夫」を尊
敬し、同人の軍部批判演説（いわゆる「肅軍演説」）
による除名には、反対票を投じ戦前・戦中を通じリベ
ラルな政治姿勢を貫き通した。終戦とともに筋金入り
のリベラリスト・議会政治家として活躍したが、昭和
34年6月20日、享年71歳で永眠した。（称号Ⅱ従二位、
勲一等旭日桐花大綬章）

なお、昭和31年10月13日には、柏原高校創立60周年
記念式典に来柏し、記念講演した記録が残されている。

第3 憲法第9条誕生の基礎となった「芦田修正案」
にみる慧眼力

日本国憲法は、昭和22年5月3日施行後、一度も改
正されることなく今日に至っているが、近年、国会で

憲法調査会が発足し改正問題が議論されるようになった。改正条項は、第9条をはじめ多岐にわたっているようであるが、ここでは現憲法第9条に限定して「芦田修正案」について触れてみたい。

◎ 政府草案

国の主権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、他国との間の紛争の解決の手段としては、永久にこれを抛棄する。

陸海空軍その他の戦力の保持は許されない。国の交戦権は、認められない。

◎ 帝国憲法改正特別委員会小委員会による修正案

委員長 芦田均

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

1 芦田均と憲法改正への熱意



昭和23年3月、芦田内閣発足（前列左から水谷長三郎、竹田儀一、西尾末広、芦田均、一松定吉、苫米地義三）。

衆議院帝国憲法改正特別委員会小委員会の委員長に就任した芦田均は、芦田均日記に「これは、画期的な仕事であるだけに私にとつては厚生大臣や国務大臣であるよりも張り合いのある仕事であると考えている」と記し、当時の燃えるような熱意が伝わってくる。

前記両案のアンダーラ

インの個所を修正したが、GHQは異を唱えることなく通り、国会の議決を経て、世にいう「芦田修正案」がそのまま憲法第9条第1項と第2項になっている。

2 芦田均が国会の憲法逐条審議等で示した考え方

憲法第9条第1項の冒頭に『日本国民は、正義と秩序を基調する国際平和を誠実に希求し』と附加し、

第2項に『前項の目的を達するため』の文字を挿入したのは、「戦争放棄、軍備撤廃を決意するに至った動機が、もっぱら人類の和協、世界の平和を念願に出

発する趣旨をあきらかにせんとしたのであります」と述べ、芦田修正の意図を微妙な表現ではあるが語っている。国会の審議は、第9条の精神を謳歌するだけで、芦田委員長報告に対し何の疑義も挟んでいない。

また、後年、芦田は雑誌『世界』（岩波書店発行）昭和27年5月号の「戦争放棄と戦力」の中で、「この修正を加えようと思いついた動機は、自衛の武力を保持するためには、侵略のための戦力を禁止する意味を明らかにすれば宜しいのであるから、ここにいる『前項の目的を達するため』とは、侵略戦争放棄という目的を達するための制限である」と書いている。

芦田修正は、憲法第9条の根幹をなすものであり、「自衛権まで放棄したものでない」の精神に立ち、我が国に自衛隊の存在を可能にした（警察予備隊↓保安隊↓自衛隊）。終戦直後で日の浅い混乱期にあっても、冷静に国の将来を見据え、憲法の中でも重要な条文である第9条誕生に大きな力を発揮したことは、その慧眼力と信念に深い感銘を覚える。

第4 おわりに

憲法改正の手続きは、憲法第60条に定められ、改正の原案を衆院議員100人以上または参院議員50人以上

上で国会に提出し衆参両院で審議される。衆院議員と参院議員のそれぞれ3分の2以上が賛成した案が国会の改正案となり、国民に発議（提案）される。発議した日から60日以後180日以内に、18歳以上の日本国民による国民投票が行われる。改正の承認には「国民投票で有効投票の過半数」の賛成が必要になる。承認されると天皇が「国民の名で」改正を公布する。即ち「憲法は国民が定めるもの」だからだ。

現在、国会では憲法調査会が動き出し各党による議論が始まっているが、将来、私達が憲法改正について国民投票することになるか否かは、ひとえに国会の審議の進み具合にかかっている。憲法改正に当たっては、故・芦田均翁が掲げた「国際平和希求の精神」の信念が引き継がれることを願ってやまない。（文中敬称略）

以上

（参考文献）

最後のリベラリスト・芦田均 著者・菅野 澄（文藝春秋）

日本国憲法の誕生増補 著者・古関彰一（岩波書店）

9条の誕生 著者・塩田純（岩波書店）

（昭和17年生 青垣町出身）

日本のバレーボールの 礎を築いた丹波の山猿

日商岩井初代社長 西川政一

荻野 祐一

(丹波新聞社社長)

昭和39年10月23日。東京オリンピックの女子バレーボールで、日本の「東洋の魔女」がソ連チームを下し、金メダルをつかみ取った。その表彰式に丹波市出身者がいた。

作家の城山三郎は、小説『鼠』の中でその人物を「老紳士」と表現し、次のように書いた。

「控え目ながらも、老紳士はそのとき笑みを浮かべていた。日本チームの優勝の陰には、この老紳士のほぼ半生を賭けた苦闘があったからである。日本のバレーボールを、この老紳士はいわば手塩にかけて育ててきた。女子選手たちの栄光の陰にあつて、この老紳士の努力はほとんど世に知られていない。だが、老紳士はそれで満足している。縁の下の力持

ちに慣れ切ったからである。もちろん、バレーボール界で老紳士の名を知らぬ人はいない。国際バレーボール協会副会長、日本バレーボール協会会長。その人は、日商の社長である」

「その人」とは、明治32年（1809）、丹波市市島町下竹田に生まれた西川政一である。

日本中が湧いた1964年の東京オリンピックからもう半世紀以上が過ぎた。「東洋の魔女」という言葉を知らない若い人が少なくない。ましてや、西川政一という人物について知る人は、ふるさとの丹波市でも少なくなつた。新型コロナウイルスの発生がなければ、今年開催されるはずだった東京2020オリンピックにちなみ、日本のバレーボールの礎

を築き、女子バ

レーボール金メ

ダルの陰の立役

者になつた西川

について書かせ

てもらおうと思



市島町下竹田出身の
西川政一

う。

西川の旧姓は須原という。竹田小学校に学んだ。ここで政一少年は、のちに「絶対忘れ得ぬ人である」と回顧する人物に出会った。小学校の3年生から3年間、担任してもらった吉見伝左衛門だ。

伝左衛門は小学校に奉職したのち、鴨庄村の村長を務め、寒村の鴨庄を救うため、一部村民の反対に遭いながらも当時としては最大級のため池を築造。死後、「丹波の農聖」と仰がれた人物だ。政一少年は、そんな伝左衛門先生を慕い、伝左衛門が下宿していた寺にしばしば遊びに行き、感化を受けた。



山南町下滝出身の永井幸太郎

竹田小学校を卒業後、神戸の鈴木商店に入社した。伝左衛門は旧制柏原中学校への進学を促したが、家の経済的事情もあってかなわず、小学校校長の勧めで鈴木商

店に入った。かつて神戸御影の師範学校で教べんを執った校長はそのとき、鈴木商店幹部の子弟の家庭教師をしていた。その縁から、成績優秀な政一を推薦した。政一は、伝左衛門と校長先生に対する恩を終生持ち続けたようで、後年、田舎に帰ると、必ず二人の墓に参ったという。

周知のように鈴木商店は一時代を画した商社。そんな会社に入社したといっても、小学校上がりの少年に与えられる仕事は、社員から頼まれて銀行や郵便局、取引先の会社へ使いに走るといふもので丁稚同然だった。身なりも筒袖の和服に三尺帯、草履だった。

ある日、先輩社員から鈴木商店に永井幸太郎という丹波出身者がいることを教えられた。永井は山南町下滝の生まれで、政一より12歳年上だった。当時ロシアで仕事していた永井に政一が手紙を出したところ、ロシアの首都の絵はがきで返事が来た。そこには「同じ丹波の山猿、世界を相手にしつかりやろ」と書かれていた。政一は感激した。政一は晩年、「今の私があるのは、そのときの感激と発奮が動機



竹田小学校にある二宮金次郎の像に刻まれた西川の詩

だといつても過言ではない」と振り返っている。

『英語を勉強しよう』と決意した政一は夜学に通い、日曜日にも会社に行つて、ひとりて勉強した。そんな政一の懸命な姿に目を止めた人物がいた。鈴木商店の支配人として会社を支えた西川文蔵である。文蔵は政一に、我が家に下宿し、学校に行くよう勧めた。政一はいったん鈴木商店を退社。神戸高等商業学校（現神戸大学）で学んだ。文蔵は、経済学や経営理論を身につけた人材を育て、鈴木商店を近代化したいと考えていた。そんな文蔵に見込まれたのだ。

ちなみに先の永井も旧制柏原中学校を卒業後、神戸高商で学んだ。鈴木商店には、永井をはじめとした「高商派」と言われる派閥があつた。

政一が神戸高商で学んでいた大正7年、鈴木商店の焼き打ち事件が起きた。大正3年に始まった第一次世界大戦による好景気でインフレが起き、米価が暴騰。庶民の不満は、米を買い占めていると事実無根の新聞報道がされた鈴木商店に向かった。焼き打ち後、鈴木商店は傾き、大正9年、文蔵が心労から47歳で死去。遺体のそばで、政一は文蔵の妻から、「主人に死なれた今、あなたを家に連れてきた主人の思いが理解できる。主人は、自分の寿命を予知していた、後事を託すために、あなたを家に連れてきたに違いない」と言われた。この言葉に政一は肅然とした。

政一は、文蔵の娘と結婚し、西川家に入ることになった。永井を仲人に結婚式を予定していた昭和2年4月3日の前日、一大事が起きた。鈴木商店が倒産したのだ。結婚式は中止になった。

「鈴木商店の灯を絶やすまい」。そう誓った永井らは、新しい会社をおこした。当時、鈴木商店には綿花や綿糸などを取り扱う日本商業という子会社があり、その会社を整理すると共に会社を立ち上げたの

だ。日本商業の経営責任者は永井だった。

倒産の翌年の昭和3年、「日商」が誕生。資本金100万円、社員39人という小さな所帯ながら同志たちが結集した。このとき政一は29歳だった。

船出した日商に、「3年も持てば、逆立ちもの」と揶揄する声もあったが、順調に発展。昭和20年、永井は日商の社長に就任した。

政一の活躍もめざましかった。昭和28年には常務32年には専務に昇格。翌33年、社長に就任した。さらに昭和44年には岩井産業と合併し、日商岩井を創立、初代社長に就任した。

しかし、この年の秋、政一は脳血栓で倒れ、会長に退いた。日商の社長時代、北極と南極以外はすべて行ったというほどに世界を駆け巡り、馬車馬のように働いた無理がたたったのだ。

政一を粉骨碎身させたものは、文蔵と金子直吉の精神だった。鈴木商店の番頭として会社を牽引した直吉には、「三井、三菱を圧倒するか。それとも彼らと並んで天下を三分するか」という野望があり、その野望が実現するならば命を縮めることをいとわ

なかった。その裂帛の気迫を政一は忘れることがなかった。また、直吉の信任が厚く、女房役として奮迅した文蔵は実際に自分の命を削ってまで鈴木商店に尽くした。政一にとって「師であり、父であり、神でもあった」という文蔵の志を政一は引き受けた。バレーボールに話題をかえたい。

政一とバレーボールとの出会いは神戸高商時代だった。昼休みに面白半分バレーボールを楽しんでいた姿が先輩の目に止まり、大正12年、極東大会に出場することになった。当時、男子の学校でバレーボールをしていたのは全国でも一握りだったからだ。秩父宮様も観覧される大会に勇んで出場したものの、中国とフィリピンのチームに零敗を喫した。政一はこの屈辱に奮起した。

国民の間にバレーボールを普及させなければいけないと、関係者に働きかけ「関西排球協会」を設立。神戸の自宅に協会の本部を置き、みずから機関誌の編集・発行にあたった。「排球」と名づけたガリ版刷りの機関誌で、年に4回発行した。バレーボール

の文献を翻訳して手引書を作り、全国の主だった学校に送った。自分で宛名書きをし、費用はすべて自分が持った。劇場を借りて映画会などを催し、その収益をバレーボールの強化費に生かした。外部との交渉などの雑用もこなした。

この関西排球協会がのちに日本バレーボール協会へと発展していった。西川は昭和23年、協会の会長に就任。30年間も会長を務めた。

昭和39年の東京オリンピックで、ついに政一の宿願が実現した。表彰式で政一はIOC委員の先導役を務め、選手たちの涙を間近にした。政一はそのときの感慨をこう書いている。「東洋の真女（決して魔女ではない）の感涙を見て、私もまた胸が熱くなつて涙がにじみ出るのだった」「私はこの日の感激を一生忘れ得ないであろう」

冒頭に紹介した作家・城山三郎の作品『鼠』は、鈴木商店の焼き打ち事件を題材にした経済小説であるが、城山は、政一の著書『伸びゆく葦』に序文を寄せている。その一部を引用する。

「勤めていた会社が倒産する。サラリーマンにと

つては、天地もひっくり返るような一大事であったろうが、西川さんはその前後も、会社の仕事に疲れ切ったあと、バレーボールの振興のため、新妻と力を合わせてガリ版を切ったり、資金をつくったりと奔走を続けた。一文の得になるわけではなく、誰かに認められようというでもない。バレーボールを通して日本を愛したためである。日本のバレーボールの隆盛は、西川夫妻のこうした長年の努力のおかげのように、わたくしには思える」

政一は昭和61年、87歳で亡くなった。

政一の母校、竹田小学校には二宮金次郎の像が立っている。戦前、郷里の村長に頼まれ、銅像を寄贈したのだ。あいにく戦時中に供出されたため、戦後、石像にかわったが、台座に刻まれた政一の詩は建立時のまま今も残っている。

「幼き日の思ひ出は ふるさとの上に 将（はた）父の上に母の上に すべては 励みの心のいづみよく努めよく学ぶ ふるさとの 幼き子等を思ひつつ」とある。

政一は郷里をこよなく愛した人でもあった。

丹波の歴史

今も残る古代の地名

村上 泰 樹



はじめに

昨年7月に開催された「令和元年度柏陵同窓会東京支部総会」の柏陵セミナーで「丹波の歴史」について

お話をする榮譽に浴しました。お話しさせていただいた内容は、3万年前の旧石器時代と1300年前の奈良時代の丹波市についてです。前半の3万年前のナウマンゾウの話に時間を取られてしまい、後半の奈良時代についてあまり触れることができず心残りでした。幸いなことに本会誌「山猿」に紙面をいただく機会に恵まれましたので、十分にお話しできなかった古代氷上郡の地名について紹介させていただきます。

『和妙類聚抄』と古代氷上郡の地名

『和妙類聚抄』（以下和妙抄と呼ぶ）は平安時代中期の承平年間（931～938）に源順（みなもとのしたごう）が編纂した辞典です。本物は残っていませんが、多くの写本が現存しています。写本は10巻本と20巻本があり、20巻本には国郡郷名が記載されています。しかし写本によっては欠落している部分もあり、ひとつの写本では全容がわからないこともあります。『和名類聚抄郡郷里驛名考證』（池邊彌著）は諸写本を整理し古代の郡郷里名が復元されています。氷上郡の場合、「高山寺本」（平安時代末期写）、「大東急本」（室町時代中期写）、「元和古活字本」（元和3年・1617年）等で郷里名が整理されています。この研究によると古代氷上郡内は東縣と西縣に分かれ、東縣には栗作（山南町）、拳田（柏原町）、石生（氷上町）、船城・春部（春日町）、美和・竹田・前山（市島町）の郷里があり、また西縣には佐治（青垣町）、伊中・賀茂・氷上・石前・葛野・沼貫（氷上町）、井原（山南町）、余戸（？）の郷里があったとされています。「縣」（あ



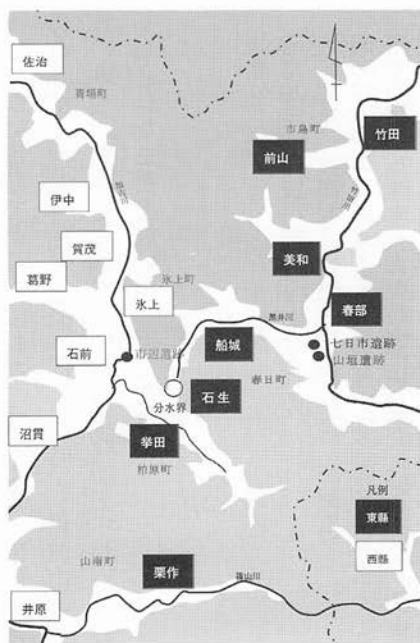
3万年前の狩人達（春日町七日市遺跡）兵庫県立考古博物館常設展示より

がた」とは古代の行政区分のひとつで、古代氷上郡の場合、東西の両縣による分割支配が行われていたと思われる。東縣が竹田川沿いと柏原町と山南町の東部分の郷里、西縣はほぼ加古川（古代氷川）沿いの郷里が含まれます。ピンとこられた方が多いと思います。

「余戸」（あまるべ）を除く古代の郷里は、現在の丹波市のなかに、地名として痕跡をとどめています。これらの地名はとりあえず『和名抄』が書かれた平安時代中期までさかのぼることが可能です。ではいったいつごろまで遡るのでしょうか。次は考古学の発掘調査で出土した木簡からその疑問に迫ってみます。

木簡に見る古代氷上郡の地名

古代氷上郡内の郷里が書かれた木簡は、当時の都であった奈良県平城宮内と明日香村から出土しています。いずれも律令制下の税として納める品物に添えられた荷札です。その中のひとつに明日香村石神遺跡から出土した「□評佐遲（佐治）」があります。「評」（こおり）は7世紀後半の地方行政単位のひとつで、古代氷上郡内の地名を記した最も古い木簡と思われる。その後大宝令（701）により「評」が「郡」に代わり、その下に「里」が置かれます。靈龜元年（715）頃に「里」が「郷」にかわり、その下に「里」（こさと）が置かれます。これから紹介する木簡はこの時期に該当し、年代は奈良時代（8世紀）です。まず年代が確



実におさえられる資料として、和銅3年(710)の「石負里」(石生)木簡、天平宝字年間(757~764)の「沼貫郷」があります。この他に奈良時代の「井原郷」・「氷上里」・「竹田五十戸」の木簡が見つかっています。また地元の発掘調査でも郷里名が書かれた木簡が出土しています。舞鶴若狭道建設に伴って発掘調査された春日町山垣遺跡の「春部里」や北近畿豊岡道建設に伴う氷上町市辺遺跡で出土した「石前郷」などの木簡があり、古代氷上郡の地名の起源が7世紀後半~8世紀(奈良時代)まで遡ることが明らか

になっていきます。

おわりに

『和妙抄』によると、古代氷上郡は東縣と西縣によって分割支配が行われていた可能性があります。歴史学者の平川南氏(現人間文化研究機構構長)は、春日町山垣遺跡、氷上町市辺遺跡の木簡を研究し、山垣遺跡を「氷上郡家別院」、市辺遺跡周辺に「氷上郡家」の存在を想定されました。そして『和妙抄』の記載どおり、古代氷上郡が東縣と西縣の二つの役所によって支配されていたことを明らかにされました。興味のある方は『律令国郡里制の実像 上巻』(平川南著 吉川弘文館 2014)に詳しく書かれていますのでご一読ください。

私は現在の丹波市柏原町に生まれました。古代の「拳田郷」になります。子供の頃から聞き及んだ地名の起源が奈良時代まで遡り、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代を経て現在まで残されていることに感謝しています。歴史を学ぶ一人として、古代の史料にてくる地名の場所を同定できることが、研究を進める

上でいかに重要であるかはわかっています。本稿を書くなかで、以前平川氏とお会いした時、「丹波市は古代の地名がたくさん残っている貴重な所ですね」とお話しされたことを思い出しました。

経歴

昭和29年 丹波市柏原町に生まれる

昭和48年 兵庫県立柏原高等学校卒業（25回生）

昭和48～52年 駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻

昭和57年 兵庫県教育委員会に埋蔵文化財技師として採用

以後春日町七日市遺跡、氷上町市辺遺跡など県内の発掘調査に従事。兵庫県立歴史博物館勤務を経て、兵庫県立考古博物館の準備室に勤務し、同博物館の設立に携わる。その後（公財）兵庫県まちづくり技術センター（埋蔵文化財調査部次長）に Outreach、平成27年に退職。

平成29年（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任技術専門員として勤務後、令和2年に退職。

専門分野

日本考古学（兵庫県内の陶磁器・鉄生産研究）

もともとの研究テーマは「兵庫県の陶磁器」ですが、

平成12年（2000年）に宍粟市内の中世製鉄遺跡「小茅野後山遺跡」（こがいのうしろやまいせき）の調査をきっかけに、ひょうご歴史研究室に所属しながら播磨北西部域の鉄生産について研究しています。

所属学会・研究会

日本考古学協会

ひょうご歴史研究室 たたら製鉄研究班研究協力員

業績

■主な研究等

「播磨北西部の古代鉄生産研究の現状と幾つかの視点」『ひょうご歴史研究室紀要』第3号 平成30年（2018）

・共著「古代末から中世の製鉄遺跡・宍粟市安積山遺跡の研究に向けて」『ひょうご歴史研究室紀要』第5号 令和2年（2020）

また『三田市史（美術編・考古編）』、『新宮町史（資料編）』、『揖保川町史』に執筆参加

■展覧会

・平成10年度兵庫県立歴史博物館秋期特別展 『三万年の旅ナウマン象から汽車土瓶まで』、平成18年度・兵庫県立考古博物館（仮称）先行ソフト事業・地域文化財展『古代の役所と村』（春日町郷土資料館で開催）

山ざる研究

水分れフィールド ミュージアムへのエール



徳田 八郎衛（浦安市）

1 石生を知らせて万年筆を頂く

築32年となる氷上町石生の水分れ資料館が、谷口進一丹波市長の強いリーダーシップで遂に改築されるこ

とになった。来館者が年間二千余名という現況から飛躍するため、名称もカタカナに換えるそう。だが名称がカナになるだけでは解決できない。何しろ丹波人は宣伝しない。時は昭和30年、岐阜県出身の大物政治家、大野伴睦氏が「鈴鹿山系と比良山系を切り開き、琵琶湖経由で太平洋と日本海を結ぶ運河を造ろう」と呼び掛けていた。地元知恵者の構想らしいが、高校生の筆者は生意気にも反論した。「パナマ運河の最高高

度は180メートル。鈴鹿山脈の峠もその程度の高さ。だが日本一低い石生の中央分水界を越す国道175号沿いに掘れば高度95メートルです。すでに江戸時代末に大阪の豪商が運河開削を提案しています」と手紙で伝えたのだ。

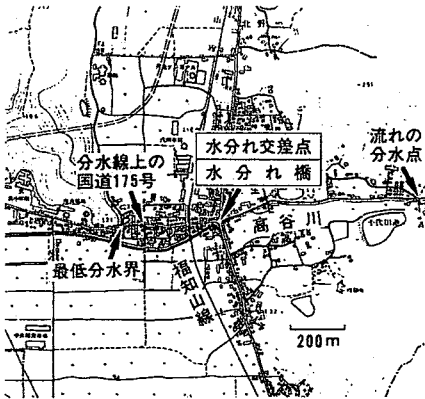
ゴミ箱へ直行かと思ったが何と返事が来た。「そんな低い中央分水界があったの？郷土から海外までよく調べたね。貴重な意見有難う」という簡潔な文だが、筆者の氏名を刻銘した万年筆が添えられていた。だが最後の助言が身に染みた。「もつと世に知らせなさいよ」。簡単な札状を差し上げたが、正直にこう書くべきだったかもしれない。「昔から当地の人士は謙虚の塊です。はしたない宣伝などしません。だから国の手で石生分水界と氷上回廊を世に知らせて下さい」。

30年後、筆者は東京兵庫県人会会報「ふるさとひょうご」に「分水嶺にかかる橋」と題して石生水分橋を簡単に紹介した。昭和61年4月のことだが驚いた。多くの方から問合せを受けたのだ。「橋にも石生駅にも案内板一つない」「TVドラマを誘致して売出す抜け目のない町が多い今日、この謙虚さ自体が天然記念物」と嘆いたのに同情し、「もつと世に知らせなさい」

と書いてきた方も居た。この地形に興味を持つ人なら誰しも「もつと売出せ」と思うのだろう。

2 石生を知らせて資料館誕生

ところが寄稿の翌年、県から何と4億円の補助金を頂き、橋から600メートル上流の岨部神社傍で水公園と資料館の建設が氷上町の手で始まった。自然破壊との非難もあつたが翌々年4月には常陸宮ご夫妻ご臨席の下に完成式。夏には反対方向に流れる両水系を抱える市町村長を集めて「第1回水分けサミット」が



説明に使った当時の地図

開催される。帰省した筆者を石生商店街の方々が現地いそべで小森健吉氷上町長に引き合わせて下さったが、資料館を見て違和感を覚えた。南極の水が

溶けて海面が100メートル上昇すれば本州は当地で東西に分断され、氷上回廊変じて氷上海峡となるジオラマは見事だが、素人が理解できることはそこまでだ。石生分水界のみならず氷上回廊が、即ち加古川流域や由良川流域が日本でも稀な低地帯であることの説明が足りない。素人もこれを理解すれば南北両水系の淡水魚の共存や、大きな高瀬舟が海岸から70キロも遡って中央分水界近くまで来る不思議が飲み込めるのに。

素人だけでなく、「日本の分水線を歩こう」という玄人も来るのだから、いや、来るようにすべきだから彼らも満足させないといけない。そのためにも由良川水系が加古川水系との争奪戦に勝ち、以前は大江町南有路付近にあつた分水線が石生迄南下してきたことを丁寧に説明すべきだが避けている。これを知れば石生から黒井に向かう地形が通常の峠とは違い、旧加古川中流部の面影を残しているのが理解できるのだが。「水分け資料館は、氷上回廊をテーマにした展示にリニューアルするため現在休館中」と市のサイトに記されているから大きなエールを送りたいが、名称を「氷上回廊水分けフィールドミュージアム」に替えるのを機に、ここを丁寧に説明して欲しい。

もう一つ失望したのは、加古川の水運を物語る高瀬舟の模型。舟も船頭もレプリカなのは仕方が無いが、実物はもっと大きかったのではないか。標準は15石積みで、長さ4間1尺と種々の史料に描かれている。この展示では筆者が住む浦安市の郷土資料館が水面で運行する一人乗り（スペースがある）で見学者を3名乗せるが、「べか舟」の大きさである。

3 きめ細かい案内板も客人を喜ばす

古風な峴部神社の手前に出現したイタリア式庭園は何のため？神社とは似合わないが、どうやら人工的な滝を見せ、幼児に水遊びさせたいらしい。「この土木費の一割でも資料館の展示物充実に回したら」と嘆いたが、日本中どこでもトップダウンで造る、いや、造って頂くハコモノはこんなものだ。残念なのは、地元の水分橋愛好者・研究者たちの考察や伝承を受けた詳細な案内板が無いことだ。歴史探訪だけでなく分水線探訪の客人も正確性とロマンの両方を求める。これに応えるのは地元研究家ならではの小さな案内板であろう。

平成の世になってから、水上町郷土史研究会主催の

「水分れの分水線を歩く会・講演会」に招待を受け、下手な講演の後、研究家とソロソロ歩いたが、「昔からここが分水線だ」「でも溝工事で変りました」と賑やかなこと。古い案内書を携えた愛好者のために、こういった討議を活かした細かい案内板も必要なのだ。分水線の見世物が街中にあるのは便利だが、街中故に流れはよく変る。以前の水分橋は盛り上がっていたので、「橋の北詰の雨水は水分交差点を経て由良川へ。南詰の雨水は下の高谷川を経て加古川へ」が良く見えたが、今は旧国道全体がかさ上げされて橋と同じ高さとなり雨水の流れもよく見えない。

高谷川に沿う分水線上の大和屋旅館に降る雨も、南向きの屋根が北向きの屋根かによって各々南北の海へ分れて行くが、公園工事に伴い高谷川右岸の町道がかさ上げ・舗装されたので、南の高谷川へ流れ込む雨水も北へ行かざるを得なくなった。工事前に暗渠を設け元通り高谷川へ流せば情緒が保てたのに残念だ。

4 石生水分れ工事の釈明文

様変わりしたのが高谷川の南北分水点である。以前は自然にY型で分れていたのにキチンとT型に整えら

れ、北向きの流れは本流の高谷川から直角に分れていく。「右は日本海へ、左は瀬戸内海へ」という表示を見て歓声を上げる人や「ウム、水中分水界だ」と感慨に耽る人はいいが、困るのは「客寄せにわざわざ北へ分水したな」と断罪する玄人だ。

玄人には二つの根拠がある。まず高谷川右岸の道が整備されたので、北向きの水は以前のような橋の下ではなく立派な暗渠に流れ込む。分水線の下にトンネルを掘ったと誤解される。もう一つは、川の争奪戦で流れば自然に一本になるからデルタ地帯は別として水中分水は全て人工的なもの、とする専門家の知見だ。山形の山寺（「奥の細道」で有名）や飛騨の蛭ヶ野峠の見事なT型分水（石生と違って分れた水は反対方向へ流れる）も、専門書では人工的と解説されている。

石生の場合ほとんど誤解だ。中世から北の地頭地区の希望で灌漑用水を分水してきた。それを記した案内板がここにも必要であろう。当地の地誌を知らない著述家に「客寄せに」と描かれては大変。すぐに手紙を差し上げたのは堀淳一さんだ。本業は北大物理学教授だが、副業？の「地図のたのしみ（河出書房新社）で日本エッセイストクラブ賞を受賞。そして文庫発行

「地図の風景」全20巻の共著者となり、その「近畿編Ⅱ（大阪・兵庫）」では篠山盆地、栗柄峠や石生分水界を訪れて紹介しておられる。

だが世界の水源や分水を歩くため定年を待たずに退官された。筆者の「石生分水れ工事の釈明文」が届いた時は「ドナウ・源流域域行―ヨーロッパ分水界のドラマ（東京書籍）」の編集でご多忙だったが、その年の秋に来て下さった。その観察は平成8年刊行「誰でも行ける意外な水源・不思議な分水―ドラマを秘めた川たち（東京書籍）」で「日本海と瀬戸内海に分かれる水」として記されている。蛭ヶ野峠には「人工的にそういう分流を固定化することなら容易にできる」と厳しいが、石生の分水は「暗渠で道路をくぐったのち灌漑溝に入る」と暖かく描いている。有難うございました。

この本でも著者は「私は地理学・地形学のアマチュア。楽しんできただけ」と謙遜するが、専門の学者よりも多くの分水ファンを育ててきた。フィールドミュージアムも是非分水を楽しむ仲間を育ててほしい。

（満州奉天市生まれ／柏原町出身／元防衛省勤務／（財）平和・安全保障研究所客員研究員）



■柏原高校元教師が書いた本

岸名経夫著

中井権次一統を中心とした 装飾彫刻探訪記

中井権次顕彰会発行 丹波新聞社制作

著書は平成26年9月から平成29年10月まで丹波新聞誌上に掲載された内容をもとに刊行されるなど、関係者では既に十分なる評価がなされていることから、弊職による著作のご紹介などは今更とも覚えましたが、山ざる編集からの依頼でもあり整理させていただくこととしました。

柏原高校の恩師である、著者岸名経夫先生から初めて中井権次一統の名前を伺ってから10年近くになります。柏原に帰省した機会に先生宅を訪問すると、北近畿一帯の寺社・仏閣を訪れた際に江戸時代の在柏原の中井権次と銘うたれた彫り物に魅了され、ご退職後

に元同僚のお二人と一緒に調査を続けられたことなどを伺いました。

広範な地域に現存する美術品として再評価された彫刻作品の多くは、中井家の何代もの彫り物師により制作された作品とされています。こうした作品は、中井権次顕彰会として岸名先生を中心に「中井権次の足跡1ガイドブック」として記録されるなど、東京でも柏陵同窓会東京支部と氷上郷友会などで郷土で再評価された文化財として紹介されました。

その後も顕彰会の活動は拡がり、丹波新聞の連載をもとに今回の「装飾彫刻探訪記」が発刊されるに至りました。



探訪記に収録された寺社・仏閣は、丹波をはじめ篠山・但馬・京都・播磨まで広範囲にわたり150余の多くの作品数に驚かされます。

また、地元のお寺や神社が具体的に紹介されていますので、親しく便覧としても楽しむことが出来ます。例えば柏原町では、五社稲荷神社は柏原八幡神社の側にあり、大歳神社はすぐ脇の太鼓櫓とともに石田部落の寄合所として利用されています。この近くの古市場に芦田均元首相の下宿がありました。読者の皆様もご自分の出身地を懐かしく感じられるのではないのでしょうか。このように日経新聞全国版でも紹介されるなど、長く市中で眠ったままになつていた美術品が再評価される瞬間に出会えたことは貴重な体験でした。

(谷 敬三)

■郷土について書かれた本

坂本敏夫著

典獄と934人のメロス

定価1600円(税別)

大正12年の関東大震災で重罪犯を収容する小菅刑務所では外塀の大半が倒壊したが、有馬四郎助典獄(刑務所長)の徳に応えた1300人の囚人は一人も逃走しなかった。だが横浜刑務所の被害はもっと大きい。外塀は全壊。庁舎もほぼ全壊して看守や囚人の多くが下敷きになり、街から火の手は迫る。1100人余りの囚人と140人の職員は一体になって防火や救護に当たった。ここでも脱走者はない。

典獄は、初の帝大卒監獄官吏として著名な椎名通蔵36歳。役人の中で監獄官吏は最下層の卑しい仕事という世評の中で、「刑の目的は応報に非ず。教育による更生」という信念から高等文

官試験合格後、この道を選び、刑事学由来の教育刑思想で囚人の信頼を築いていた。

監獄法の定めでは天災事変により囚人の避難も護送も不可能であれば24時間に限って解放(保釈)でき、その権限は典獄にある。司法省は激怒するだろうが全責任は自分が負う。この決定に感涙に咽びながら外へ出た解放囚は、危険な作業の中核となり県知事や市長、市民を感激させる。だが彼らが悪事を働いているという流言飛語を司法省は鶴呑みにした。11月には解放囚934名の全員帰還が確認されたのに、すでに「未帰還人員240名」と公表していた司法省はそれを訂正せず、今もこ

れで通している。

司法大臣は誰か?加藤友三郎首相の急逝を受け、9月2日に船出した第二次山本権兵衛内閣に農林大臣との兼任で入閣した警察官僚出身の田健治郎であった。「市谷、小菅ほか各刑務所に損害生じれども脱獄者なし」の第一報に田はニンマリしたが、「横浜刑務所は外塀建物全壊。典獄は独断で囚人を解放。解放囚による犯罪被害多数」の第二報で真つ青になる。ここで「それは事実か。確認を」の一言でもあれば田も震災史に名を残すのだが。

救護活動のため「門限」までに帰れない兄の身代わりとして相模原から横浜まで40キロを走る女学生をはじめ、多くの「メロス」が感動を与えてくれる。



(徳田八郎衛)



■郷土について書かれた本

小和田哲男著

『明智光秀・秀満―ときは今あ
めが下しる五月哉』

ミネルヴァ書房 定価2500円(税別)

NHK大河ドラマの主人公に関する著作が雨後の筍のように店頭に氾濫する現象は、今年の明智光秀に始まった訳ではない。春日局、西郷隆盛、真田幸村と枚挙に暇がなく、「浅井家三姉妹」となると年中並んでいる。慢性的不況の出版界に天敵？ テレビが塩を送る美談であれば非常に結構なことだ。だが「花の生涯」の頃は、これほど多くの解説本は出回らなかつたように思う。当時の国民は、講談本も含めてよく本を読み、井伊直弼の生涯も評価も大雑把に知っていたから「このドラマでは彼がどう描かれるだろうか」に興味を持った。ところが今は読書しない人、歴史を知らない人が多いので、

テレビで初めて知る人も多いそうだ、

あるNHK高官を「民放なら数回の放映でまとめる話をダラダラ一年間引張るからフィクションだらけ」と責めたら、「貴殿の世代なら小学生の頃から歴史に馴染んでますが、今は若者どころか中年の部長さんが『平家の滅亡は一の谷でなくて壇之浦？ 平家を都から追い出したのは頼朝でなくて義仲？ そんな人居たの？ 全日本を相手に戦ったのは会津藩だけかと思つていたが長州藩も？』と驚く時代。彼らの教育のためにも大河ドラマの使命は重いのだ」と逆襲された。

だが「視聴者の感動を高めるため」数々のフィクションが加わり、人物も

デフォルメされていく。だからこそ人物像や歴史を正しく伝える解説本が重要になる。本書の著者、小和田哲男静岡大学名誉教授は戦国史が専攻で、特に今川・織田以降の時代に造詣が深い。2019年刊行の本書には、2010年代に加速された光秀研究の報告が漏れなく網羅されている。

江戸時代はもちろん昭和になつても『明智軍記』などの俗書しかなかつた光秀について、高柳光寿の『明智光秀』(1958)が出るまでは、古文書に基くまともな伝記が無かつたことを知つたのも著者の注釈のお陰である。

(徳田八郎衛)



令和2年度柏陵同窓会東京支部総会・懇親会等の開催が中止に

コロナ禍の影響拡大を受け、予定していた令和2年度の柏陵同窓会東京支部の常任理事会、理事会、総会の全ての開催が中止になりました。

令和2年度の役員会は、先ず3月8日（日）開催予定の常任理事会が中止になりました。振り返りますと、新型コロナウイルスの感染が広がる影響を避けるため、各種催しが三密を避けた対応や開催中止の検討を始めた頃でした。

次いで、4月26日（日）の理事会は三密を避ける開催を会場の主婦会館と検討しましたが、最終的に書面開催とすることで理事の皆さまの了解を得ました。

理事会では、7月12日（日）に予定

していた支部総会・懇親会開催の見直しが検討され、150名を超える参加者の三密を避けた会を維持することは困難として、今年の開催を断念いたしました。

総会の報告事項のうち、会務報告は会員の皆様に総会中止のご案内と一緒に郵送し、会計報告と改選後の支部役員名簿は来年度の総会で改めて報告することになりました。

なお、令和2年度の柏陵同窓会はその後の個別の検討により、本部（5月）、阪神支部（6月）、東海支部（9月）、京滋支部（10月）の総会開催が全て中止となっています。

令和3年度の総会・懇親会は、7月11日（日）に学士会館の開催を予定しています。26回生幹事学年の皆様、セ

ミナー講師の村上英明氏（26回生・村上寺社工芸社代表・山南町）には、来年に繰り延べてお願いいたして下さいます。会員の皆さま方の奮ってのご出席をお待ちいたしております。

（柏陵同窓会東京支部長 谷 敬三）



撮影・岡田昌子

◆赤井 正洋さん

ご無沙汰しています。当日は家族旅行中の為出席できません。今後ともよろしくお願いいたします。

◆足立 かをるさん

「山ざる」50号とても中身の濃い記事ばかりで感動致しました。返事が遅れ申し訳ありませんでした。元気に暮らしております日々感謝と有難うです。欠席ですが皆様に宜しくお伝えください。来る年もどうぞお健やかに迎えください。

◆足立 さつきさん

いつもお世話になっていきます。仕事の為参加できず残念です。引き続きよろしくお願いいたします。

◆足立 美都子さん

白内障手術治療中で体調がすぐれませんので欠席させて頂きます。

◆安達 健一郎さん

当日用事があり欠席させて頂きます。悪しからずご了承下さい。

◆飯田 光雄さん

又今年も元気で同郷の皆様にお会いできる幸せを感じています。

◆伊藤 徳栄さん

シルバーの会で就いたお仕事を平成27年に退職して現在は読書と手芸（ペーパークラフトテープを使って小物入れのカゴを作り、周りの方に差し上げています）楽しい日々を送っています。

◆井本 京子さん

ご連絡ありがとうございます。主人がなくなり1年が過ぎましたが毎日思うことばかりです。送っていた「山ざる」を仏様に供えました。天国で喜んでいるでしょう。

◆白井 田鶴子さん

丸川珠代さんの講演楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

◆白井 元弘さん

83歳になりました、昨秋妻に先立たれましたが、毎日元気に暮らしております。未だ海釣りを楽しんでおります。

◆内田 泰代さん

「山ざる」はふるさとを思い出しながら読みながら、身近に感じられる大事な存在です。ご送付ありがとうございます。

◆内堀 祥司さん

申し訳ありません、皆様に宜しくお伝えください。10月母の法事で柏原に帰ってきました。

◆大石 佐代子さん

渡邊名誉会長の逝去の記事にびっくり致しました。郷友会でお会いしたり、

ゴルフで一緒にした時も、やさしい笑顔でした。ご冥福をお祈りいたします。今回は欠席させて頂きます。

◆大垣 忠男さん

90歳になり元気にしております。皆様に宜しく。

◆大城戸 しず代さん

「山ざん」誌いつもありがとうございます。古希の記念にワイワイ旅を楽しんでいます。皆様のご健康をお祈り申し上げます。

◆大島 信子さん

いつもご案内ありがとうございます。当日予定が入っており欠席させて頂きます。ご盛会をお祈りいたします。

◆大塚 秀式さん

祝寿のご案内ありがとうございます。これまで一度も出席したこともなく、多分何処かでお出合いした方はい

ないと思います。

◆大西 三善さん

当日は草野球の試合があり会に出席できません。ごりようしゅうください。盛会をお祈りいたします。

◆荻野 悦男さん

ご盛会をお祈りいたします。

◆形田 恒夫さん

11月で満71歳、勤めは今年で終わりにします。この15年間の休日(年間約150時間)は町内の除草と清掃が中心でした。おかげで足腰が丈夫になり体重も3〜4kg減量しました。今のところ健康です。

◆金出 一郎さん

年来の肺気腫とそれに伴う心臓疾患により酸素ボンベを携帯しての外出を余儀なくされていますが、それも最近自宅周辺に限定されてきて残念なが

ら「ふるさとの会」への出席を断念せざるを得ません。当日の盛会を祈念いたします。

◆菊池 洋子さん

86歳元気にしています。音大時代の生徒達と年に1回無料コンサートを開いています。

◆岸田 勇さん

インド出張中の為欠席致します。

◆岸本 里子さん

いつもお世話になっております。私が幹事をしている会が24日にあり、残念ですが欠席いたします。ご盛会をお祈りいたします。

◆北川 安男さん

ふるさとの会のご案内ありがとうございます。都合により参加できませんが盛会と皆様のご多幸をお祈りいたします。

◆木呂子 惠美子さん

いつも大変お世話になりました。ありがとうございます。50号の「山ざる」今までの表紙絵など興味深い内容が一杯で編集の皆様のご苦勞を思いつつ拝見しています。

◆木呂場 明子さん

いつもご案内頂きありがとうございます。そこそこに生きておりますが、出歩く自信が全くございません。申し訳ありません。句の駄作を送らせて頂きました。

◆久呉 道子さん

「今年の酷暑は凌げないよ」と思っていましたので、歩むすこやかな女性の表紙を掌に感無量でございます。編集部の皆様ありがとうございます。丸川珠代先生、越川病院でのお生れとは郷土の誇りでございます。

◆河本 幸子さん

日々元気に過ごしております。「ふるさとの会」のご盛會を祈っています。

◆小西 允子さん

いつもお世話になりました。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

◆小山 孝雄さん

ご案内頂き誠にありがとうございます。残念ながら孫達の学校の文化祭に行く約束をしており都合が付きません。11月は超多忙!! 紅葉狩りに次々と各地を巡り、文化行事に参加、写真展を催しOB会もない状況です。うれしい。

◆近藤 利春さん

いつもお世話になりました。ありがとうございます。「ふるさとの会」、皆様でお楽しみください。

◆坂上 豊さん

事務局の皆様、会の運営にご苦勞様

です。益々のご発展とご健勝を心から

ご祈念申し上げます。小生八十路、囲碁三昧の日々を過ごしています。

◆笹倉 鉄平さん

当日は私の運が悪く、またもや海外出張中でお伺いすることができず大変残念に思います。ご盛會を祈願いたします。

◆正呂地 悟さん

ご案内ありがとうございます。残念ながら今回は出席できません、盛會をお祈りしております。私共は高齢者の仲間入りを果たしました。動作は少しづつ鈍くなっていますが、もうしばらく大丈夫でしょう。皆様のご健勝を祈っております。

◆杉岡 明美さん

お世話になっております。寄せ来る年波を押し返し、押し返し、毎日歩いておりましたら近年にない大風邪を

ひき歳を思い知ることとなりました。今回は用心して欠席と致します。以後は年をわきまえて行動いたします。ご盛會を！

◆千葉 淳子さん

いつも楽しみに「山ざる」拝読しています。ありがとうございます。皆々様の増々のご健康をお祈りしています。

◆塚口 恭一さん

生家も売却、墓も移転、故郷はますます遠くなりました。私ども夫婦の会話（丹波弁）を孫が真似て皆を笑わせています。盛會を祈ります。

◆出町 京子さん

舞踏会と重なる為出席できません。渡邊会長には随分お世話になりました。ご冥福を祈ります。

◆十倉 直樹さん

「山ざる」を楽しく拝読しています。

盛會を祈念します。

◆西川 宣孝さん

「山ざる」50号おめでどうございませう。会の運営会報の発行にご尽力いただける役員の皆様感謝申し上げます。

◆西畑 健一さん

老齡の為何かと出不精で欠席いたします。

◆西村 昇さん

関東に住み始めてもう40年近くになります。標準語が気になった時期もありましたが、今では関西弁を聞くこと逆に懐かしく感じ関西とりわけ丹波での生活を思い出す昨今です。私自身未だに丹波の言葉が抜けきらず周囲の反応にもあまり動じずに溶け込んで過しております。

◆野村 節三さん

「山ざる」50号（小生寄稿）お送り

いただきありがとうございます。記念すべき50号笹倉鉄平画伯による表紙画も趣があり、内容も大変充実して会員の一人として嬉しく思います。尚今年のお会には、心臓病他の処置後経過は異常ありませんが、あまり無理は出来ないので残念ながら欠席いたしますが当日の盛會をお祈りしています。

◆灰野 悦昭さん

元氣です。都合がつかず欠席します。皆様のご健勝を願っています。

◆林 進さん

毎度お世話になります。「ふるさとのお会」のご案内ありがとうございます。当日は小江戸川越ハーフマラソンに参加して申し訳ありませんが欠席とさせていただきます。

◆原 エマさん

いつもお世話になりありがとうございます

います。申し訳ありません今年は予定が入っており欠席させて頂きますが来年は参加させて頂きます。よろしくお願ひいたします。

◆日置 孝彦さん

お世話様です。ご案内を頂戴しありがとうございます。諸般の事情により出席叶わず悪しからずご容赦願ひます。恐縮至極に存じ上げます。

◆廣瀬 安伸さん

いつもお世話になりありがとうございます。今年は会社の〇四会行事と重なり残念ながら欠席させて頂きます。ご盛会を心よりお祈り申し上げます。

◆福田 治子さん

体力に自信が無い為欠席させて頂きます。ご盛会をお祈りしております。

◆藤岡 洋子さん

いつも「山ざる」ご送付ありがとうございます。

ございます。柳川さんのお店に近いうちに訪問したいと思っています。「山ざる」の原川美恵子さんの記事を拝見し故郷を思い出しました。

◆細川 倫夫さん

80歳へのご丁寧なご案内誠にありがとうございます。郷友会の益々の発展を祈念いたします。欠席申し訳ありません。

◆細見 充彦さん

当日は丹波に帰省中の為欠席いたします。

◆松田 けい子さん

残念ながら欠席させて頂きます。

◆松原 久明さん

お陰様で元気に暮らしています。

◆三木 亮さん

今回所用有り欠席いたします。ご盛

会を祈念いたします。

◆三觜 洋子さん

何時も案内ありがとうございます。ご盛会を祈っています。

◆山口 敏之さん

海外赴任中の為欠席とさせて頂いたいただきます。ご盛会をお祈りしています。

◆山口 泰男さん

盛会をお祈りいたします。

◆横谷 逸子さん

いつもありがとうございます。膝痛の為遠くへ行けません、申し訳ありません。



撮影・岡田昌子

◎寄附者芳名(令和一年度)

兵庫県東京事務所所長

竹村 英樹殿(ふるさと会御祝儀)

二〇、〇〇〇円

柏稜同窓会会長

竹内 牧人殿(ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

丹波新聞社社長

荻野 祐一殿(ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

丸川征四郎殿(ふるさと会御祝儀)

三〇、〇〇〇円

岸本 勲殿

二〇、〇〇〇円

安達健一郎殿

一〇、〇〇〇円

中居 篤子殿

一〇、〇〇〇円

廣内 卓生殿

一〇、〇〇〇円

藤井 栄蔵殿

一〇、〇〇〇円

堀井 隆川殿

一〇、〇〇〇円

柳川 拓三殿

一〇、〇〇〇円

山口 敏之殿

一〇、〇〇〇円

吉見 弘文殿

八、〇〇〇円

谷口 浩章殿

七、〇〇〇円

梶原 やす子殿

五、〇〇〇円

谷口 捷殿

五、〇〇〇円

中松 美年子殿

五、〇〇〇円

赤井 正洋殿

三、〇〇〇円

足立 敏昭殿

三、〇〇〇円

足立 義雄殿

三、〇〇〇円

石橋 昭彦殿

三、〇〇〇円

粕谷 迪子殿

三、〇〇〇円

金出 一郎殿

三、〇〇〇円

絹川 正殿

三、〇〇〇円

近藤 和行殿

三、〇〇〇円

坂上 豊殿

三、〇〇〇円

笹倉 鉄平殿

三、〇〇〇円

鶴田宏・ゆき子殿

三、〇〇〇円

野垣 有殿

三、〇〇〇円

林 進殿

三、〇〇〇円

原 利允殿

三、〇〇〇円

廣瀬 安伸殿

三、〇〇〇円

藤田 純殿

三、〇〇〇円

藤田 千治殿

三、〇〇〇円

細見 允彦殿

三、〇〇〇円

渡辺 昌彦殿

三、〇〇〇円

岸本隆・敏子殿

二、〇〇〇円

佐伯 盾比古殿

二、〇〇〇円

徳舛 雅孝殿

二、〇〇〇円

本城 英明殿

一、五〇〇円

足立 武夫殿

一、〇〇〇円

足立 東一郎殿

一、〇〇〇円

稲岡 俊一殿

一、〇〇〇円

井本 京子殿

一、〇〇〇円

上田 雄彦殿

一、〇〇〇円

白井 元弘殿

一、〇〇〇円

大野 均殿

一、〇〇〇円

北川 安男殿

一、〇〇〇円

久呉 道子殿

一、〇〇〇円

小林 和子殿

一、〇〇〇円

杉岡 明美殿

一、〇〇〇円

勢川 武彦殿

一、〇〇〇円

田中 忍殿

一、〇〇〇円

西川 宣孝殿

一、〇〇〇円

細川 倫夫殿

一、〇〇〇円

安原 和己殿

一、〇〇〇円

山下 雅弘殿

一、〇〇〇円

余田 幸夫殿

一、〇〇〇円

❖ 本誌にご協力有難うございます

すべての
働く人のために、
タイヤは強く
進化した。

優れたロングライフ、より確かな耐摩耗性能、
さらに向上した性能が働く人たちをサポート。

よりタフになった、ヨコハマのライトトラック用タイヤ、LT151R。
インゴースト-アール
このタイヤには、プロに選ばれる理由があります。

LT151R

New High Performance Radial Tire for LIGHT TRUCK

 **YOKOHAMA**

○ 損保ジャパン

SOMPO 保険の先へ、挑む。

「安心でいたい」

「安全でいたい」

「健康でいたい」

それはきっと、誰もが抱く切なる願い。

そして私たちの願いは、

人々の普通の想いに寄りそう、

パートナーであり続けること。

変化の先を常に予想し

捉えることは、私たちの使命。

「最高品質のサービス」で、

すべての人にお応えします。

保険の先へ、挑む。

損害保険ジャパン株式会社 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 Tel:03-3349-3111 <https://www.sompo-japan.co.jp/>

ひょうご出会いサポート 東京センター

恋活・婚活のお相手さがしを兵庫県がサポートします

スマホでお相手探し、申し込みできます

- ・登録手数料 5,000円/年（20歳代の方は3,000円/年）
（※登録手数料以外はかかりません）
- ・結婚を希望し、20歳以上の独身の方
- ・はばタン会員システムにアクセスできるスマートフォンを
お持ちで、自ら操作できる方



お気軽にお問合せください！

東京都千代田区大手町2-6-2 パナソニックグループ本部ビル3F
開館日：火・水・金・土10:15～18:30

TEL (03) 6262-3035

❖ 本誌にご協力有難うございます

NPO法人アジアの新しい風 理事長代行
<http://www.npo-asia.org>

上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414
TEL / FAX 03-5426-6714
e-mail takako-ue@t05.itscom.net

「日本についてもっと知りたい」「日本の大学へ留学したい」「日本企業に就職したい」など日本愛を語る学生たちに、メールで日本語のサポートをしていただけませんか。この交流を通して自己啓発が促されたという会員が多く、日本文化への開眼のみならず、アジア、世界への目が啓かれます。詳しくは、ホームページをご参照ください。



地元兵庫県産の酒米と神地寺山伏流水を用いた
古式和釜、三段仕込み、槽搾りの創業以来
ほとんどスタイルを変えない伝統的な
仕込み方法と、江戸時代より続く
寒仕込みにこだわる

丹州氷上之地酒

奥丹波

時代を経ても変わらない
深い味わいと穏やかな香りの純米酒
そして、現代の
酒造りの粋を極めた
純米吟醸酒・純米大吟醸酒を
中心に仕込んでいます

創業江戸享保元年
山名酒造株式会社

TEL 0795-85-0015
<http://www.okutamba.co.jp>

関東氷上郷友会の益々のご発展を
祈念いたします。

 **埼玉りそな銀行**
RESONA

ふるさとは
遠きにおいて
思ふもの



ふるさとを離れたあなたに、ふるさとの土の匂いを伝えます。

丹波新聞社

E-mail tanba@tanba.jp

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201

tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

丹波新聞

検索

携帯サイトは
こちら⇒



あなたの町の「石屋さん」
そんな石屋をめざしています！！

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和36年卒

いしやは ここよ



☎ 0120-1480-54

事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425

工場 〒669-3314 丹波市柏原町拳田13-1

TEL 0795-72-3032

FAX 0795-72-4343

<http://www.tanba-sekizai.com>

今、求められている

新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送
データ入力等の情報処理、コールセンター、
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

————— いつでもよりよいサービスを —————

BSS

株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉県市花見川区宇那谷町 1501-2

TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865

<http://www.betterservice.co.jp>

e-mail：kinugawat@betterservice.co.jp

関西丹波市郷友会会報

たんば 第5号

(11月発行予定)

郵送料のみで負担にて配布致します。

[申し込み先] 関西丹波市郷友会

[事務局] 大阪市西区新町2-15-27
サンキン内 (tel.06-6539-3201)

創設120周年記念丹波すく
すく大賞(令和元年12月に
決定)の受賞団体の紹介記
事等を掲載。

なお、令和2年度総会は、コロナ禍のため中止と致しました。

たんば

関西丹波市郷友会会報
第5号 2020.11.1

丹波と東京を繋ぐ丹波のコンセプトショップ



春日局様の生誕の地「丹波市春日町」と、
眠る地「東京都文京区」を繋ぐ丹波のコン
セプトショップとして平成30年9月に

「丹波風土 東京春日店」を開業いたしました。弊社は丹波市春日町で
丹波の栗・黒豆・大納言小豆を中心にした加工品を製造し、更にその
加工品と丹波産の卵、牛乳、米、酒、フルーツ等を使った和洋菓子を
製造販売しています。今後丹波ブランドを守り広げる為に、田舎の
生産地と東京の消費地を結ぶ役割が担えたらと思っています。関東氷上
郷友会の皆様にも是非ご利用くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 **やながわ** 兵庫県丹波市春日町野上野209-1



風丹
土波
東京春日店

〒113-0033
東京都文京区本郷1丁目35-26
ラレーブ文京本郷ビル1階
TEL 03-3868-5610

都営地下鉄 大江戸線 三田線 東京メトロ丸ノ内線 南北線
「春日」A1、A2出口より徒歩 「後楽園」4B出口より徒歩5

郷友の皆様へお願い

▼同じふるさとをもつ者の親しさは、親兄弟にも似て快よく、その気がねのない交りは、互いに清新なほげみを呼びおこします。そんな仲間のひろがりをも、この小誌は求めつつけます。

▼この雑誌は毎号全会員に贈ります。同郷者の全員が会員ですから、登録のない方や住所変更等がありましたらぜひお知らせください。

▼関東氷上郷友会は、すべて有志のボランティア活動によって運営されています。『山ざる』誌や通信費等の資金源も、有志の寄付、協賛広告料、郷友会会費等によって支えられています。

▼広告料は名刺広告五千円、半頁広告一万五千円、全頁広告三万円です。何卒ご協力お願い致します。

▼年会費の二〇〇〇円は会の運営を支える重要な資源です。同封振込用紙にてお振込みください。よう願ひ上げます。

▼これだけ充実した会誌をもつ同郷会はないとうらやましがられるたびに、“丹波のきずな”の強さを思います。

(山ざる編集部)

医療法人社団 順孝会 理事長 / 医学博士
順天堂大学眼科 非常勤講師

足 立 和 孝

〒347-0015 埼玉県加須市南大桑一六二〇一
TEL 〇四八〇-六五-五九八八
FAX 〇四八〇-六五-六〇九七
E-mail: kazu358@pastel.ocn.ne.jp

株式会社ナレッジリンク
足立国際会計事務所

足 立 知 佳 子

代表取締役
税理士・米国公認会計士 (Certificate)
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘一-三-四 U-IW11自由が丘ビル六〇二
TEL 〇三三七-一八-八〇四七 FAX 〇三三七-一八-八一四七
E-mail: cadachi@ata.gr.jp

足 立 静 雄

石 橋 順 子

PCC大洋

岡 吉 明

〒351-0014 朝霞市膝折町四-四-三〇
TEL 〇四八-四六〇-一六〇一
FAX 〇四八-四六〇-一三九七
<http://www.pcc-taiyo.co.jp>

岡 田 昌 子

岸
田
勇

上
武
正
次

金
出
一
郎

坂
上
明

くすの木 14 (14 回生部会)
にれの木 20 (20 回生部会)

木呂子
恵美子

仲
一
聰

坂
上
豊

坂
上
勝
朗

合唱指揮者

笹
倉
強

〒 352 | 0014 新座市栄四一五―二五
TEL・FAX 〇四八―四七七―五六四〇

高
見
秀
史

いい眠りのためのNPO法人…
SASネットメールマガジン
magazine@sas-j.org をご覧ください。

柏陵同窓会東京支部 支部長

谷
敬
三

東京都 豊島区池袋本町四―二二―十七
TEL 〇三―三九七―七八二六
携帯TEL 〇八〇―三三九九―七二四七

谷口浩章

鶴田宏

エネクスフリート株式会社
西日本支店 支店長

土井聖司

〒813-0018 福岡県福岡市東区香椎浜ふ頭三一―一四
電話 〇九二―六八一―六八〇二

日本舞踊 西崎祥
端唄 根岸妙

西山裕三

かおりよし農園
こしひかり他うるち米・紫黒米・雑穀米・生産販売

田中忍

〒669-3642 丹波市氷上町香良三二三
電話 〇九〇―二五九四―〇七四六

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央五六―九―七二二
電話 〇九〇―九九七七―七七九三

〒669-4302 兵庫県丹波市市島町
中竹田 一一七一

原
谷
洋
美

株式会社
メイク

代表取締役
広瀬寿和

〒160-0003

東京都新宿区本塩町二十三第二田中ビル
電話 〇三―三三五四―〇二二一
FAX 〇三―三三五四―二二二一

藤
原
ひ
さ
子

エネクスフリースト株式会社
関東支店 支店長

古
池
竜
也

〒347-0046

埼玉県加須市大字平永五三七
電話 〇四八〇―六二―二四〇〇

青葉山 真照寺 都立八王子霊園隣り
八王子 青葉霊苑 第二期墓地分譲案内中
和合廟(永代供養墓)受付中

住職
堀井隆川

〒193-0821

東京都八王子市川町四九三―二
電話 〇四二―六五二―二〇一一
FAX 〇四二―六五二―二〇三三

Gemba Lab 株式会社

代
表
安
井
孝
之

〒101-0026

東京都千代田区神田佐久間河岸七〇
第二田中ビル三八号室

❖ 本誌にご協力有難うございます



附録DVD：コンピュータ上で全頁閲覧可能！

B5判変型(260×190mm)・上製布貼表紙・函入・総3056頁

本体価格：48,000円＋税

●書体字典の最高峰。未曾有の二十一万字収録！

大書源

二玄社創立五十周年記念出版
全三巻十索引冊
〔附録：DVD・書道史年表〕

漢字の姿は、一つではありません。
三千年の歴史の中で、数多くのスタイルが生まれました。

●魚の例……

魚の例……

鍾繇	顔真卿	歐陽詢	米芾	空海	王羲之	小野道風
甲骨文	金文	石鼓文	說文篆文	居延漢簡	張遷碑	吳讓之

殷の甲骨・金文から清末の齊白石まで、あらゆる時代の様々な書体を収集し、二十一万を超える史上最多の字例を収載しました。二玄社の半世紀に亘る出版活動で蓄えた膨大な資料を基礎に作り上げた、書体字典の決定版です。

株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美



二玄社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>

集	記
編	後

★今年の新学期はコロナ禍で高校もテレワークでのスタートになりました。直後に始まったIT満載のオンライン授業に巻き込まれ、青息吐息の日々が始まりました。システムの操作や課題の配信、生徒からのレスポンスのチェックなどあつという間に時間が過ぎて行きます。IT化といっても仕事が楽になるわけではないようです。これからもオンラインでの活動は持続されさらに加速されるようです。日本のテレワークとオンライン授業はコロナ禍の申し子だと後世に伝えられることでしょう。

(石橋)

★「東京から帰省してる」と騒がれぬよう始発列車で早朝の黒井城址へ登ったが、居場所もないほど登山者で一杯。これなら金属登山道も必要でっせ。

(徳田)

★人と人を隔てる新型コロナウィルスを身を以て実感した半年ですが、有り余るコロナ時間に自宅廻りをゆっくり歩きながら、善福寺川を泳ぐ2mもある編蛇、カルガモ親子の成長、突然湧いて群れ飛ぶ夏あかねなど、小さな自然を発見しました。それは丹波の大自然に育まれた遺産子が甦って来たような懐かしい日々で

もありました。

(原谷)

★3月〜5月頃、無事確認連絡メールが増えた。新型コロナウィルスについて見解を紹介したり、マスメディアの報道を解説しあつたり、動画やエッセイを転送しあつた。そしてこの6月7月、その喧騒はトーンダウンしてきたのに、ウィルスは活発に勢力を広げている。世界中が一樣のアタフタで、一挙にグローバル化が進んだ感じ。日本国の政府のあまりにもみっともない対応にあほらしくなつた。個人的には終活の大事な時期を失つた感じ。『山ざる』は皆さんに少しでも慰めを届けることができるだろうか。(上)

(上)

★田邊宏太さんのインタビュはオンライン取材でした。コロナ禍では仕方がないことですが、お陰で誌面が何とかできました。大学で非常勤講師をしています。オンライン授業ばかりです。隔靴搔痒の感がありますが、学生の出席率や熱心さは例年よりなぜかいいのです。コロナ禍での良い発見です。

(安井)

★長年祝寿のコーナーを担当していますので、毎年値段と風俗の勉強をさせていたんでいます。

(本城)

★毎年編集会議はガラ刷り校正含め4回開催するのですが、今年は1月の新春役

員会後に企画案を練つただけ。混乱を極めるコロナ禍にも拘らず、ダイワコムズさんなどへは坂上さんと岡さんが玄関先で用を済ませて下さり、他はオンラインやパソコン、郵便で連絡。今年も編集委員の見事な連係プレイにより51号が発行出来ました。皆様が一度は必ず、そしてまた二度三度とページをめくっていただけたら天に昇つてしまいたいそうです。関係者の皆様に感謝申し上げます。(岡田)

山ざる 第51号 定価500円

令和二年十一月一日発行

- 〈編集委員〉
- | | | |
|-------|-------|------|
| 井徳正吾 | 石橋順子 | 上高子 |
| 大野義昭 | 岡吉明 | 岡田昌子 |
| 坂上勝朗 | 徳田八郎衛 | 原谷洋美 |
| 藤原ひさ子 | 村上督 | 本城英明 |
| 安井孝之 | | |

発行者 関東水上郷友会会長岸本 勲
〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30
関東水上郷友会事務局(岡吉明)

☎〇四八(四六〇)一六〇一
振替〇二〇一三二二二三〇

製 作 株式会社二玄社
編集協力 ダイワコムズ



HINO
RANGER

社長、こいつに乗せてくれ！



HINO
PROFIA

東京日野自動車株式会社

本社：東京都港区新橋5丁目18-1
TEL 03-3578-3955 (代表)

書写教育の第一人者による手本。

美しい毛筆の 書きかた

宮澤正明 著

B5判・208頁

●2200円+税



きれいに整った文字を書く
毛筆を基礎から学ぶ
楷書・行書・仮名・漢字仮名交じり

- 家庭で子どもに教えられるよう、「基本点画の書き方」を徹底解説。
- 日常に即した例文で、はがき・手紙などの書き方をマスター。
- 全ての常用漢字(2136字)を楷書の毛筆文字で一覧表化。



きれいな文字の 書きかた [書き込み式練習帳]



宮澤正明 著

なぞり書きを交え、鉛筆やペンで反復練習。ひらがな・漢字の練習から葉書・手紙の書き方まで、きれいな文字が身につく練習帳。 B5判・160頁 ●1500円+税

標準 硬筆字典 [改訂新版]



石川芳雲 編

頻用される漢字3053について、楷行草の三体および旧字体・書写体の最も標準的な字例14507字を、編者の美しい手書きにより50音順に収録。 A5判・320頁・函入 ●3000円+税

大人が学ぶ小学校の 漢字 [なぞり書き練習帳]



宮澤正明 著

教育漢字1006字の楷・行・草書の三書体をマスター。小学校レベルの漢字を練習するだけで、キレイなくずし字が身に付く練習帳。 B5判・160頁 ●1500円+税

大人が学ぶ中学校の 漢字 [なぞり書き練習帳]



宮澤正明 著

中学校で学ぶ漢字1130字の楷・行・草書の三書体を網羅。ポイントを学びながら、キレイなくずし字が使えるようになる練習帳。 B5判・178頁 ●1800円+税

株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美



二玄社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>